

nord stage 4

ユーザーマニュアル

Nord Stage 4
日本語

OS バージョン: 1.1x

ありがとうございます ございます

本機の性能を最大限活かすために、各種のダウンロードコンテンツをご確認ください。いずれもnordkeyboard.comから無料でダウンロードできます。



OS Updates

nordkeyboards.comには最新バージョンのOSが随時掲載されています。



Nord Sound Libraries

Nordユーザーには数々の高品位なサウンドとサンプルが無料で提供されています。Nord Sound LibraryはNord Piano LibraryとNord Sample Libraryから構成され、さらに世界中の著名なNordアーティストが手掛けたSignature Sound Bankもラインナップされています。



Nord Sound Manager

お手持ちのNord製品のバックアップおよびNord Sound Libraryの転送/整理には、Nord Sound Managerのダウンロードが必要となります。



Nord Sample Editor

Nord Sample Editorを使えば、サンプルの編集を簡単に行えます。オーディオファイルをドラッグ&ドロップするだけで、マッピングもピッチ検出も自動で行われます。

もくじ

1 はじめに	7	4 オルガンセクション	18
ありがとうございます.....	7	オルガンセクションについて.....	18
主な特長.....	7	オン/オフとレベル.....	18
Nord Online.....	7	レイヤーボタンとエフェクトフォーカス.....	18
ユーザーマニュアルについて.....	7	オクターブシフトとキーボードゾーン.....	18
PDFで読む.....	7	サステインペダルとピッチスティック.....	18
無料のサウンド.....	7	オルガンモデルの選択.....	19
カスタムサンプル.....	7	オルガンプリセット.....	19
ファクトリープリセットに戻す.....	8	ドロージャーとLED表示.....	19
OSアップデート.....	8	B3モデル.....	19
免責事項.....	8	B3ドロージャー.....	19
2 概要	9	ビブラートとコーラス.....	19
オルガンセクション.....	9	パーカッション.....	20
ピアノセクション.....	9	キークリックの調整.....	20
Nord Piano Library.....	9	Voxモデル.....	20
ストリングレゾナンス.....	9	Voxドロージャー.....	20
Nord Triple Pedal.....	9	ビブラート.....	20
ピアノティンバーとクラピティンバー.....	10	Farfモデル.....	20
ダイナミックコンプレッション.....	10	Farfレジスター.....	20
プログラム.....	10	ビブラート.....	21
シンセセクション.....	10	パイプオルガン.....	21
Externモード.....	10	Pipe 1.....	21
レイヤーエフェクト.....	10	Pipe 2.....	21
3 始めましょう	11	Pipeビブラート/コーラス.....	21
電源を入れる.....	11	Pipe 1 & 2レジスター.....	21
プログラム.....	11	B3 Bass.....	21
プログラムを選ぶ.....	11	プリセットとドロージャーライブ.....	21
パネルの操作.....	11	Syncボタン.....	21
ダイヤルとノブ.....	11	スウェルペダル.....	22
フェーダー.....	11	ロータリースピーカー.....	22
ボタン.....	12	5 ピアノセクション	23
Shiftボタン.....	12	オン/オフとレベル.....	23
ボタンの長押しとダブルタップ.....	12	レイヤーボタンとエフェクトフォーカス.....	23
リストビュー.....	12	オクターブシフトとキーボードゾーン.....	23
プログラムビューモード.....	12	サステインペダルとピッチスティック.....	23
プログラムを編集する.....	12	ピアノ音色について.....	23
ピアノ音色を選ぶ.....	12	Nord Piano Libraryのファイルサイズについて.....	24
メモリープロテクションをオフにする.....	13	ピアノプリセット.....	24
プログラムを保存(ストア)する.....	13	ピアノを選ぶ.....	24
ライブモード.....	13	タイプとモデル.....	24
セクションとレイヤー.....	13	リストビュー.....	25
レイヤーのオンとオフを切り替える.....	14	キーボードタッチ.....	25
レイヤーエフェクト.....	14	ダイナミックコンプレッション.....	25
エフェクトを使う.....	14	アコースティクス.....	25
プリセットを読み込む.....	14	ソフトリリース.....	25
シングルレイヤープリセットを読み込む.....	14	ストリングレゾナンス.....	25
スプリットを作成する.....	14	ペダルノイズ.....	25
オルガンレイヤーを追加する.....	15	Nord Triple Pedal.....	25
レイヤーシーンII.....	15	サステインとハーフペダル.....	26
ムーフ機能.....	15	ソステヌート.....	26
シンセサイザー.....	16	ソフトペダル.....	26
サンプルの読み込みと調整.....	16	ティンバー.....	26
アルペジエーターとゲート.....	17	アコースティックピアノのティンバー設定.....	26
マスタークロック.....	17	エレクトリックピアノのティンバー設定.....	26
		クラピネットの設定.....	26
		ユニゾン.....	26

6 シンセセクション	27
シンセセクションについて.....	27
オン/オフとレベル.....	27
レイヤーボタンとエフェクトフォーカス.....	27
オクターブシフトとキーボードゾーン.....	27
サステインペダルとピッチスティック.....	28
シンセセクションのモード.....	28
シンセプリセット.....	28
Sampleモード.....	28
サンプルプリセット.....	28
Natural, No Dyn, Fast Atk.....	28
Analogモード.....	28
Osc Ctrl.....	28
波形を選ぶ.....	28
Analog.....	29
Wave.....	30
FM.....	30
フィルターセクション.....	30
フィルターのタイプ.....	31
LP24およびLP12.....	31
LPM.....	31
LP+HP.....	31
HP.....	31
BP.....	31
キーボードトラックング.....	31
フィルタードライブ.....	32
グループ.....	32
フィルター周波数.....	32
フィルターレゾナンス.....	32
エンベローブアマウント.....	32
エンベローブ.....	32
アタック、ディケイ、およびリリースタイム.....	33
オシレーターエンベローブ.....	33
フィルターエンベローブ.....	33
LFO.....	33
マスタークロック.....	33
ボイス.....	34
モノとレガート.....	34
グライド.....	34
ユニゾン.....	34
ユニゾンとサンプル.....	34
アルペジエーター/ゲート.....	35
アルペジエーター.....	35
ポリフォニックアルペジエーター.....	35
リズムミックゲート.....	35
パターン.....	35
レンジ/エンベローブ.....	35
アルペジエーターメニュー.....	35
アルペジエーターレイト/タイム.....	36
アルペジエーターマスタークロック.....	36
キーボードホールド.....	36
ビブラート.....	36
ビブラートメニュー.....	36
ビブラートとサンプル.....	36
キーボードシンク.....	36
サウンドの初期化.....	36
7 プログラム	37
プログラムとは.....	37
モーフの割り当て.....	37
モーフインジケーター.....	38
スプリット.....	38
キーボードのスプリット設定.....	38
マスタークロック.....	39
外部機器による同期.....	39
キーボードシンク.....	39
ペダルタップ.....	39

トランスポーズの有効化/セット.....	39
バニック.....	39
保存(ストア).....	39
プログラムを保存(ストア)する.....	39
プログラムダイアル.....	40
リストオプション.....	40
ページボタン.....	40
MIDIインジケーターとExternインジケーター.....	40
プリセットライブラリー.....	40
プリセットのブラウズと読み込み.....	40
プリセットをプリセットライブラリーに保存する.....	41
プログラムビュー.....	41
プリセット名.....	41
レイヤーのソロ演奏.....	41
アンドウ.....	41
セクションエディット.....	42
レイヤーの初期化.....	42
レイヤーシーンII.....	42
レイヤーシーンをセットアップする.....	42
レイヤーシーンとプリセット.....	42
モニター / コピー / ペースト.....	42
Aux KB.....	42
Aux KBの設定.....	42
Aux KBモードにおけるペダルおよびその他のデバイス.....	42
Shift/Exit ボタン.....	43
ライブモード.....	43
プログラムボタン.....	43
Num Padによる数字の入力.....	43
メニュー.....	44
プログラムの整理.....	44
プログラムレベル.....	44

8 Extern(外部機器)	45
Externモード.....	45
セットアップ.....	45
Externセクションを使う.....	45
有効化.....	45
オクターブシフト.....	45
キーボードゾーン.....	45
ピッチスティックやサステインペダルの操作.....	45
Externパラメーター.....	46
MIDI CC.....	46
プログラム.....	46
Send On Load.....	46
ボリューム.....	46
アルペジエーター.....	46
ExternセクションとMIDIソフトスルー.....	46
その他のExternメニュー設定.....	46

9 レイヤーエフェクト	47
概要.....	47
エフェクトフォーカス.....	47
グループモード.....	47
エフェクトの有効化とグローバルモード.....	47
モジュレーション1.....	48
オートパン.....	48
トレモロ.....	48
リングモジュレーション.....	48
オートワウ.....	48
ワウワウ.....	48
ポンプ.....	48
マスタークロック.....	48

モジュレーション2	49	Aux KBメニュー	57
フェイザー	49	1 — Aux Keyboard Enable	57
フランジャー	49	2 — Aux Keyboard Layers	57
パイプ	49	3 — Keyboard Curve	57
コーラス	49	Outputメニュー	57
アンサンブル	49	1 — Output Bus Channels	58
スピン	49	2 — Organ/Rotary Output Bus	58
ディレイ	49	3 — Piano Output Bus	58
ピンポンディレイ	49	4 — Syntn Output Bus	58
タップテンポ	49	Pedalメニュー	58
エフェクト	49	1 — Control Pedal	58
フィルター	50	2 — Swell Pedal	58
アナログモード	50	3 — Sustain Pedal	59
マスタークロック	50	4 — Triple Pedal Function	59
アンプシミュレーター / イコライザー	50	5 — Rotor Pedal	59
オーバードライブ	50	6 — Foot Switch	59
イコライザー	50	MIDIメニュー	60
アンプモデル	50	1 — Local Control	60
To Rotary	51	2 — Global / Aux Keyboard Channel	60
LP24 フィルター	51	3 — Organ Channel	60
HP24 フィルター	51	4 — Piano Channel	60
コンプレッサー	51	5 — Synth Channel	60
Fastモード	51	6 — Extern Channel	60
リバーブ	51	7 — Control Change / NRPN / Device Change Mode	60
リバーブタイプ	51	8 — Program Change Mode	61
ロータリースピーカー	52	9 — Transpose MIDI at	61
ロータリースピーカーとリバーブ	52	Externメニュー	61
ロータリーメニュー	52	1 — Keyboard Velocity	61
		2~4 — Program Change MSB/LSB/PC	61
		5~6 — MIDI CC#1/#2	61
		7~11 — Device MIDI	61
		12 — Send On Load	61
10 MIDI	53	12 Nord Sound Manager	62
MIDIを使う	53	Nord Sound Managerについて	62
グローバルチャンネル	53	動作環境	62
レイヤーチャンネル	53		
Extern	53	13 Nord Sample Editor 4	63
Nord Stage 4から外部機器をコントロールする	53	Nord Sample Editor 4について	63
MIDIを使ってNord Stage 4をコントロールする	54	動作環境	63
Aux KB	54		
レイヤーMIDIチャンネルを使ったコントロール	54	I 資料: 接続端子	64
グローバルMIDIチャンネルを使ったコントロール	54	オーディオ	64
外部機器との同期	54	Headphones	64
ExternセクションとMIDIスルー	54	OUT 1-2, OUT 3-4	64
Nord Stage 4の演奏をMIDIシーケンサーに記録する	54	Monitor In	64
送受信できるMIDIメッセージ	55	MIDI	64
キーボードベロシティ	55	MIDI In	64
アフタータッチ	55	MIDI Out	64
プログラムチェンジ	55	USB	64
ローカルコントロール	55	ペダル	64
パニック	55	Triple Pedal	64
		Sustain Pedal	64
		Control Pedal	64
		Organ Swell	65
		Foot Switch	65
		Rotor Pedal	65
11 メニュー	56	II 資料: MIDIコントローラーナンバー表	66
ソフトボタン	56		
Systemメニュー	56	III 索引	67
1 — Memory Protect	56		
2 — Global Transpose	56		
3 — Fine Tune	56		
4 — Version	56		
Soundメニュー	56		
1 — Volume Level Offset	56		
2 — Piano Pedal Noise Level	57		
3 — Piano String Res Level	57		
4 — Organ Keyboard Trig	57		
5 — B3 Organ Tone-Wheel	57		
6 — B3 Organ Click Level	57		
7 — Rotary Speaker Type	57		
8 — Rotary Rotor Speed	57		
9 — Rotary Rotor Acc.	57		
10 — Rotary Horn Speed	57		
11 — Rotary Horn Acc.	57		

1 はじめに

ありがとうございます

Nord Stage 4 をお選びいただきありがとうございます。

究極のステージキーボードに対する私たちの答えをお届けします。サンプルプレイバックを含む Nord Wave 2 シンセエンジンや、高い評価をいただく Nord C2D オルガンエンジン。さらに強化されたピアノセクションに、使いやすく豊富なエフェクト。数々の賞に輝いたこれらのテクノロジーにより、新たなフラッグシップ機たる最高のオールインワンパフォーマンスキーボードが誕生しました。

主な特長

Nord Stage 4 の主な特長は次の通りです：

- 3 種類のクラシックオルガンモデルを忠実に再現したオルガンセクション：B3 およびベースラインに特化した B3 Bass モード、Vox そして Farfisa。個性豊かなパイプオルガンモデルも 2 種類搭載しています。
- LED 表示付きの物理オルガンドローパー。
- LED 表示付きの物理ボリュームフェーダー。オルガン、ピアノ、およびシンセの各レイヤーに搭載されました。
- 2 つの独立したレイヤーを持つピアノセクション。アコースティックグラウンドピアノとアップライトピアノ、Tine や Reed に基づくエレクトリックピアノ、クラビネットにハーブシコード、そしてデジタルカテゴリー。これらはリッチな響きのピアノレイヤーをも含みます。Misc カテゴリーにはマリンバやピブラフォンといった表情豊かなマレットサウンドが収録されています。
- 3 つの独立したレイヤーを持つシンセセクション。専用の有機 EL ディスプレイも搭載しています。Nord Wave 2 に基づく Nord Stage 4 のシンセエンジンは、サンプルプレイバックのみならずアナログスタイルの波形、様々な FM アルゴリズム、デジタル波形さらには分厚い Super Wave までをカバーします。
- 網羅的なエフェクト。ピアノレイヤーとシンセレイヤーではそれぞれ独立して、オルガンレイヤーでは両方のレイヤーで共有して、使うことができます。
- エフェクトまでも含む、オルガン、ピアノそしてシンセの大規模プリセットバンク。各レイヤーからアクセスできます。
- プログラムを変えても前の音が自然に残る、シームレストランジション。
- Nord Stage 4 のシンセセクションから外部 MIDI 機器をコントロールするための Extern モード。
- 複数のパラメーターを物理コントローラーから一括で変更することができる、パワフルなモーブ機能。
- 調整可能な 4 つのキーボードゾーン。ポイント近辺で滑らかに変化する、クロスフェードスプリットを組むこともできます。
- 2 つのレイヤーシーン。同じプログラムの中に、別々のレイヤー構成を保存することができます。
- より広範なペダル操作への対応。新開発の Nord Triple Pedal 2 と Nord Sustain Pedal 2 もサポートします。

- Nord Stage 4 88 と 73 にはフルウェイテッドのトリプルセンサー鍵盤、Nord Stage 4 Compact には 73 鍵のセミウェイテッド「ウォーターフォール」鍵盤 (E-to-E レイアウト) を搭載。

Nord Online

nordkeyboards.com でこれらの情報にアクセスできます：

- » Nord Stage 4 やその他の Nord 製品に関する情報
- » 最新 OS のダウンロード
- » 無料のソフトウェア：Nord Sound Manager、Nord Sample Editor 4、およびドライバー
- » Nord Piano Library 音色の無料ダウンロード
- » Nord Sample Library 音色の無料ダウンロード
- » Nord World: Nord にまつわるニュースとビデオ
- » ユーザーマニュアルのダウンロード
- » チュートリアルは nordkeyboards.com/tutorials で閲覧できます

Facebook、Instagram、Twitter や YouTube で Nord Keyboards をフォローしてください。SNS への投稿には公式ハッシュタグ #iseenord をお気軽にお使いください。

ユーザーマニュアルについて

このマニュアルは主にリファレンスマニュアルとしてお読みいただけるよう構成されています。様々な機能を音楽の演奏に役立たせるためのヒントも多く紹介しています。

PDF で読む

このマニュアルは Nord 公式サイトでの Nord Stage 4 セクションからデジタル PDF ファイルをダウンロードして読むこともできます。

無料のサウンド

オープンなシステムとして設計してある Nord Stage 4 では、本体メモリー内のすべてのピアノやサンプルを Nord Piano Library および Nord Sample Library と入れ替えることができます。続々と拡張されているこれらの無料ライブラリは nordkeyboards.com で探すことができます。また、Nord Stage 4 でコンテンツをダウンロードしたり整理したりするために必要な Nord Sound Manager もここから無料でダウンロードできます。

カスタムサンプル

Nord Sample Editor 4 を使えば、素早く簡単に Nord Stage 4 用のカスタムサンプルを作成できます。完全にマッピングされたインストゥルメントを作成する場合でも、シンプルな効果音や楽曲のイントロのみを単一

のキーに割り当てられる場合でも、Nord Sample Editor 4 は Nord Stage 4 とともに多くの可能性を広げます。

Nord Sample Editor 4 は nordkeyboards.com の Software セクションからダウンロードできます。

ファクトリープリセットに戻す

工場出荷時のプログラム、プリセット、サンプル、およびピアノはそれぞれ個別の Nord Sound Manager バックアップファイルとして Nord 公式サイトからダウンロードできます。また、オリジナルの状態に戻すために必要な、すべての音色とファクトリーコンテンツの完全なバックアップもあります。

OS アップデート

Nord Stage 4 用の最新 OS（オペレーティングシステム）はいつでも nordkeyboards.com からダウンロードできます。どの機能がアップデートされたのかをバージョンごとにまとめた更新履歴も掲載されています。お使いの機器を最新バージョンに保つために、Nord 公式サイトを定期的に確認するようおすすめします。

免責事項

このマニュアルで言及のあるあらゆる商標やブランド名は各所有者の財産であり、また Clavia 社が認可や提携を受けたものではありません。これらの商標やブランド名への言及は、Nord Stage 4 で再現される特定のサウンドの品質を説明する目的に限られます。

2 概要



オルガンセクション ピアノセクション プログラム シンセ (Extern) セクション レイヤーエフェクト

オルガンセクション

オルガンセクションは、2つの独立したレイヤーと物理ドローバーを備えています。物理ドローバーにはLED表示が付いており、手元で簡単にコントロールできます。

B3モデルは、複数の実機を用いて行われた信号の解析に基づいています。内部の91枚の円盤、すなわちトーンホイールをはじめとした、コンポーネント同士の相互作用を正しく把握することは困難を極めました。構築された仮想回路は、パネルの状態を再現するのみにとどまらず、あなたの演奏に応じてさまざまに表情を変えます。

Nord Stage 4はオクターブの折り返しや、回路中のエネルギーのロスによる甘いコンプレッション効果といった、オリジナルB3実機の重要な特性や挙動を忠実に再現します。クリーンな個体、新品同様の個体、そして数多のステージを経てボロボロになった個体。これら3つのトーンホイールモードを備えました。スプリットもしくはデュアルキーボードのセットアップにおける左手、もしくは足鍵盤で演奏するのに適したB3 Bassモードでは、ドローバーおよびトーンホイールも専用にセットされます。

また、1960年代に活躍した2種のトランジスターオルガン、すなわちVox ContinentalとFarfisa Compactも忠実にモデリングし、再現しました。さらに、Nord Stage 4はNord C2D由来のロータリースピーカーシミュレーションを装備しています。物理的に回転するスピーカーがもたらす音の広がりや響きの変化を取り入れることで、オルガンサウンドを驚くほどリアル、かつ生命力にあふれたものに仕上げます。

2つの鮮やかなPipeオルガンもあります。これらは2つのバリエーションからなる「Principal」パイプモデルで、様々なパイプ/チャーチオルガンサウンドを広くカバーします。

詳しくは「オルガンセクション」(18ページ)をご参照ください。

ピアノセクション

Nord Stage 4のピアノセクションは2つの独立したレイヤーを持ち、華やかなピアノサウンドとキーボードサウンドをもたらします。ピアノサウンドはGrand、Upright、Electric、Clavinet、Digital、Miscの6つのタイプに分類されています。

Nord Piano Library

Nord Stage 4を使用する恩恵は、成長を続けるNord Piano Libraryのサウンドから好きなものを選んで使うことができる点にあります。最高峰のコンサートグランドピアノから、個性的なアップライト、歴史的な楽器あるいは各種のエレクトリックピアノに至るまでを収めた、この膨大な音色のパレットには多くの手間暇がかかっています。

新しいサウンドは定期的に制作され、Nord公式サイト nordkeyboards.com 上で無料で提供されています。

ストリングレゾナンス

ストリングレゾナンスはすべてのアコースティックピアノの内部で起こる物理現象のひとつで、弦や弦の一部がほかの演奏されている弦の基音または倍音に反応して共鳴することを指します。ストリングレゾナンスをオンにすると、演奏された音同士で互いに影響しあい、グランドピアノやアップライトピアノの内部で起こる音響的な相互作用を再現するようになります。

Nord Triple Pedal

Nord Stage 4はピアノセクションの機能をさらに引き出すNord Triple Pedalと互換性があります。

右側のペダルはサステインペダルです。操作すると、ペダルを離すまで演奏中のすべての音が延びます。また、メカニカルな「ペダルノイズ」のダイナミックなコントロールや、より生き生きとした「ハーフペダル」テクニックの使用も可能にします。

左側のペダルはソフトペダルです。ウナコルダ (Una Corda) とも呼ばれます。これを操作しながら演奏した音は、音量がわずかに小さく、また柔らかく落ち着いた質感になります。

中央にあるのはリズテヌートペダルです。このペダルが踏まれたときに押し下げられていたキーだけを「ダンパーが上がった状態」にし、音を持続させる効果があります。その後に打鍵された音は延びません。

ペダルノイズ

グランドピアノやアップライトピアノのサステインペダルが操作されるとき、楽器自身の持つペダル機構によって多くの異なる音が生れます。Nord Stage 4 はそれらの自然な音を再現します。サステインペダルを踏んでダンパーが弦から離れるとき、その美しい「せせらぎ」を感じ取ることができます。

ペダルが放されるときには、ダンパーが弦に戻る、少しミュートのかかったようなサウンドが生じます。

ピアノティンバーとクラビティンバー

ピアノティンバーとクラビティンバーは今演奏しているサウンドのキャラクターを調整するための手早い方法です。クラビネットの設定はオリジナルの楽器を模倣するために設計されている一方、ピアノの設定は演奏者の目線を念頭に置いて設計されています。パフォーマンス上の要求に応じて、即座にサウンドをソフトに、ブライトにしたり、あるいは中域を強調したりすることができます。

ダイナミックコンプレッション

ダイナミックコンプレッションは、ソフトな演奏の音量を上げる機能です。これにより非常にダイナミックな演奏でも常に均一に聞こえるパフォーマンスを可能にします。

詳しくは「ピアノセクション」(23 ページ) をご参照ください。

プログラム

Nord Stage 4 において、プログラムとはレイヤーとエフェクトのすべての設定をまとめたものを指します。パネルの中央にあるプログラムエリアでは、プログラムの検索や保存、様々なパフォーマンス機能や設定メニューへのアクセスを行います。さらに、ここではオルガン、ピアノ、およびシンセのプリセットバンクも検索することができます。これらはエフェクトも含めた、完全なプリセットです。レイヤーやセクションに読み込んでプログラムを作ることができます。

詳しくは「プログラム」(37 ページ) をご参照ください。

シンセセクション

シンセセクションは、高い評価を誇る Nord Wave 2 に基づいた、3 つの独立したレイヤーを備えています。Nord Stage 4 はアナログスタイルの波形 (**Analog**)、デジタル波形 (**Waves**)、FM シンセシス (**FM**) に加えて、あらゆる種類のサンプル群 (**Samples**) もオシレーターとして使用することができます。Analog モードの **Super** (Super Wave) カテゴリーを選べば、マルチオシレーター特有の分厚いサウンドが得られます。これらのオシレーター構成が、シングルもしくはデュアルオシレーターでのセットアップから、ウェーブシェイピング、周波数変調およびその他に至るまで、幅広いサウンドメイキングをかなえます。

シンセセクションに備えられた有機 EL ディスプレイがフィルター、エンベロープ、およびその他のシンセにまつわるセッティングを簡単にします。さらに、波形やサンプルを選択する際にはその概略図をグラフィカルに示します。

Nord Stage 4 オーナーは Nord Sample Library 4 を通じ、有名なメロトロンやチェンバリンのサンプルを含むワールドクラスの大規模ライブラリに無料でアクセスできます。カスタムユーザーサンプルを Nord Stage 4 に読み込ませて、音作りの世界を広げることができます。

利便性の高い 12 dB と 24 dB のローパスフィルター、12 dB のハイパスフィルターおよび 12 dB のバンドパスフィルターに加えて、Nord Stage 4 ではトランジスターローパスフィルターのエミュレーションや、パワフルなローパス + ハイパスのコンビネーションを搭載しています。

先進的なアルベジエーターは、ポリフォニック、ゲートそしてパターンの各モードを備え、様々なリズムプログラミングをひとつひとつのレイヤーに対して提供します。

アンプ、フィルター、およびオシレーターには、エンベロープ、LFO そしてユニゾンのコントロールを装備しています。Nord Stage 4 シンセのパワーは、ステージで求められるサウンドにおける事実上無限の可能性をもたらします。

詳しくは「シンセセクション」(27 ページ) をご参照ください。

Extern モード

Nord Stage 4 はコンピューターや音源モジュールの MIDI コントローラーとしても優れた力を発揮します。シンセレイヤーの Extern モードを使えば、外部の MIDI 機器を内蔵音源と同様にキーボードゾーンへ割り当てることができます。

詳しくは「Extern モード」(45 ページ) をご参照ください。

レイヤーエフェクト

幅広いエフェクトをピアノとシンセの各レイヤー、およびオルガンセクションで個別に使用できます。

Mod 1 および Mod 2 ユニットは、伝説的なストンプボックスやエフェクトユニットをモデルにした、トレモロ、コーラスそしてフェイザーといった必須級のモジュレーション効果をすべて提供します。各エフェクトの Variation 設定により、利用可能なサウンドの数がこれまでよりも増えました。

Delay エフェクトは、アナログモードやフィードバックエフェクトを使用して、ビンテージ風のプルージーなサウンドからモダンで包み込むようなサウンドまであらゆる演出に対応できます。フィードバックエフェクトには、バリエーションとフィルターの設定を備えています。

Amp Sim/EQ セクションでは、バリエーションを備えたクラシックなアンプシミュレーション、EQ、強力なレゾナントフィルターが提供されます。安定したパフォーマンスに役立つ Compressor は、非常にタイトな「Fast モード」を備え、パンチの効いたサウンドを作るのに活用することもできます。豪華な Reverb はレイヤーごとに独立して使用でき、小さなブースモデルから大聖堂までを含むさまざまなルームシミュレーションと、スプリングリバーブを提供します。リバーブバリエーションと、広いルームタイプ向けの特徴的な Chorale モードが、サウンドメイキングの幅を大きく広がります。

💡 多くのエフェクトパラメーターはモジュレーションホイール、ペダルあるいはアフタータッチを用いた「モーフ」機能でコントロールでき、クリエイティブかつリアルタイムな変化を生み出します。

ロータリースピーカーも含めた詳細については「レイヤーエフェクト」(47 ページ) をご参照ください。

3 始めましょう

Nord Stage 4 の基本的な機能について理解しましょう。この章では、最も一般的なシナリオとタスクを段階的に説明します。ここで紹介する内容は、さらなる編集やサウンドメイキングのよき出発点となるはずですが、

電源を入れる

- ① 電源コードをコンセントからNord Stage 4本体へ接続し、サステインペダルやモニター機器を接続します。
- ② Nord Stage 4の電源は、必ずモニター機器の前に入れてください。出力音量にご注意ください。

すべての入出力端子を含めた詳細については、「資料：接続端子」(64ページ)をご参照ください。

プログラム

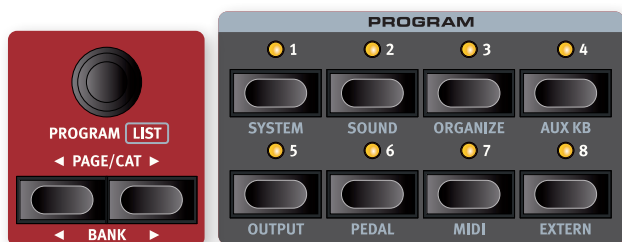
プログラムエリアはパネルの中央に位置しており、そのさらに中ほどには有機 EL ディスプレイがあります。パネル上のすべてのパラメーターの設定は、512 のスペースを持つプログラムメモリに保存されます。

プログラムは A ~ H にラベル付けされた 8 つのバンクの中に整頓されます。すべてのプログラムは必要に応じて自由に編集したり置き換えたりできます。

i ファクトリープログラムは、nordkeyboards.com で入手できます。

プログラムを選ぶ

- ① プログラムは、ディスプレイの下にある8つの **PROGRAM** ボタンのいずれかを押して選択します。**[PAGE ◀ / ▶]** ボタンは、8つのプログラムをひとまとめにした単位である、「ページ」を移動するために使用します。ひとつのバンクは、8つのプログラムページに分割された、最大で64のプログラムからなります。



i いくつかのファクトリープログラムには、「Whl」や「AT」といったラベルが付いています。これは、音色の中でモジュレーションホイールやアフタータッチが効果的に使われていることを示します。実際にコントローラーを動かしながら演奏してみましょう。

- ② プログラムは **[PROGRAM]** ダイアルを回すことでも変更することができます。

パネルの操作

ダイアルとノブ



Nord Stage 4では始点と終点のないノブをダイアルと呼び、パラメーターや設定項目を段階的に変更するために使います。ダイアルはエンコーダーと呼ばれることもあります。



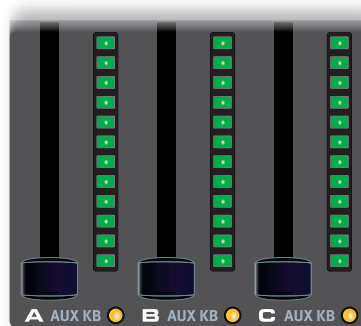
ポテンシオメータータイプのノブは、Nord Stage 4のほとんどのパラメーターに採用されています。多くの場合、プログラムがロードされた時点ではパラメーターとノブの物理的な位置が一致しません。ノブを回すうちに内部のパラメーターの値が「スナップ」し、ノブに追従するようになります。



モーフィングデスティネーションとして選べるパラメーターのノブには、左下に緑のモーフLEDが付いています。パラメーターがターゲットに選ばれているときには、モーフLEDが光ります。詳しくは37ページをご参照ください。

i プログラムセクションにある **[MONITOR]** ボタンを長押ししながらノブを回すと、パラメーターの変更を伴わずに現在の値を確認することができます。

フェーダー



フェーダーは、物理スライダーと、レイヤーの現在の音量レベルを視覚的に示す LED バーで構成されています。

ボタン



セレクターはいくつかの候補から設定を選択するためのボタンです。これらには、現在どれに設定されているかを示すための円形または三角形の LED が備えられています。

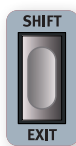


[ON] ボタンはエフェクトなどの各種機能を有効にするために使用されます。これらには、オン / オフステータスを示すための LED が備えられています。



各エンベロープなど、シンセサイザーの機能に関するボタンは赤い枠で示されています。これを押せばシンセセクションディスプレイが設定画面に切り替わり、3つのダイヤルで音作りを行うことができます。

Shift ボタン



Nord Stage 4 に備わったノブやボタンの多くは、もうひとつの機能を持っています。その機能は各コントロールのすぐ下に印字されています。これらには、**[SHIFT]** ボタンを押しながらノブやボタンを操作することでアクセスできます。

Shift ボタンは **[EXIT]** ボタンとして、メニューを閉じたり操作をキャンセルしたりするときにも使用します。

長押しでシフト機能を使う



シフト機能のうち空白の下向き矢印 (▼) で示されているものは、ボタンを 1 秒程度長押しすることでも使用できます。

ボタンの長押しとダブルタップ



マスタートラックなどいくつかのボタンは (0.5 秒程度) 長押しすることで、より深い機能にアクセスしたり追加の設定を行ったりすることができます。これらは塗りつぶされた下向き矢印 (▼) を伴ったラベルで示されます。



セクションエディットやモーフアサインなど、二重下向き矢印 (▼) のついたボタンをダブルタップすると、ボタンを手動で押し続ける必要なく機能をアクティブな状態に保つことができます。これは「ラッチ」モード、または「スティックキー」モードと呼ばれることもあります。このモードはボタンをもう一度押す、もしくは **[EXIT]** を押すことで終了できます。

リストビュー

プログラムダイヤルなど、下に **LIST** と書かれたダイヤルでは、便利なリストビューにアクセスすることもできます。

- 1 **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM]** ダイヤルを回して、すべてのプログラムのリストビューに入ります。



- 2 そのまま **[PROGRAM]** ダイヤルを回せば、8つのバンクすべての中からプログラムを探すことができます。
- 3 **[EXIT]** を押すと、リストビューが閉じます。

🔍 ピアノモデル、プリセットライブラリー、およびシンセセクションのサンプルを選ぶ際にも同様の手順でリストビューを利用できます。

プログラムビューモード

プログラムビューボタンを使用すると、プログラムディスプレイに表示される内容を必要に応じて3つの異なるモードから選べます。

[PROG VIEW] ボタンを押して、各モードを試してみましょう:

- 1 1番目の表示モードでは、プログラムのバンクと番号およびプログラムの名前のみが表示されます。ディスプレイの下半分はパラメーターの説明のために空白にされており、パネルの操作に応じて現在の状況を表示します。
- 2 2番目の表示モードはおおむね1番目と同じですが、オルガン、ピアノ、およびシンセの各セクション用に行が追加され、現在フォーカスされているレイヤーの内容を表示します。
- 3 3番目の表示モードでは、現在オンになっているすべてのレイヤーに関する情報が表示されます。プログラムの名前と番号は、ディスプレイの上部に小さな文字で表示されます。

プログラムを編集する

プログラムの編集は、ノブを回したりボタンを押したりすることと同じくらい簡単です。既存の設定を変更することから始めてみましょう:

- 1 練習のためにA:21を選びましょう。これはピアノを主体としたプログラムです。

ピアノセクションのコントロールは、プログラムエリアのすぐ左側にあります。プログラムエリアのディスプレイは、プログラムビューモードに応じて、選んだピアノ音色の名前を表示します。また、6方向の **PIANO SELECT** インジケーターがGrandを示します。

ピアノ音色を選ぶ

- 2 ピアノ音色を選ぶには、**[MODEL]** ダイヤルを回します。グランド、アップライト、エレクトリックなど、サウンドのタイプを変えるには、**[TYPE]** ボタンを押します。

- ③ **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[MODEL]** ダイアルを回して、リストビューから音色を選んでみましょう。**[EXIT]** ボタンを押すと、リストビューが閉じます。



パネル上の何らかのパラメーターを変更するとプログラム番号の隣に「E」という記号が現れることに気づきましたか。これはプログラムが編集された (edited) もの、まだメモリーへのストア操作がされていない、という状態を示します。もしストア操作を実行する前に別のプログラムを読み込むと、編集していた内容は失われます。次に元のプログラムを選んだときには、最後に保存したときの設定が読み込まれます。

メモリープロテクションをオフにする

工場から出荷された時点では、元のプログラムが誤って上書きされることを防ぐために、Nord Stage 4 のメモリーは保護されています。メモリープロテクションは System メニューでオフにできます。

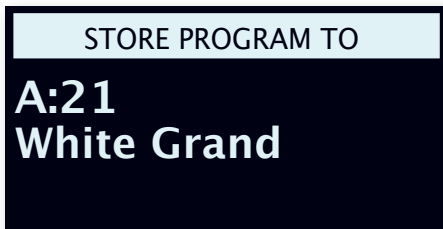
- ① **[SHIFT]** + **[SYSTEM]** を押します。
- ② メモリープロテクションはシステムメニューの1番目の項目です。もしディスプレイが別の設定項目を示している場合は、メモリープロテクションの画面に遷移するまで **[PAGE ◀]** ボタンを押してください。
- ③ **[PROGRAM]** ダイアルを回して、Off に設定します。
- ④ **[EXIT]** を押して、Systemメニューを閉じます。

❗ ここで設定した内容は、次に変更されるまで永久に保存されます。他のシステム設定も同様です。

他のメニュー項目については、「メニュー」(56ページ)をご参照ください。

プログラムを保存(ストア)する

- ① 現在のプログラムを保存するには、まずディスプレイの左側にある **[STORE]** ボタンを1回押します。
- ② LEDが点滅し始め、プログラムをどこに保存するか尋ねるメッセージが画面に表示されます。



❗ この例で使用した A:21 White Grand のように、いくつかのプログラムはピアノセクションの特徴的な音色にちなんで名前が付けられています。別のピアノを選んでから保存しても、この名前は変わりません。プログラム名の変更は、本体で名前を付けて保存 (Store As) するときと一緒に設定するか、Nord Sound Manager を使うか、このいずれかで行うことができます。

- ③ もう一度 **[STORE]** を押すだけで、編集したバージョンを現在の場所に保存して元のバージョンと置き換えることができます。別の場所を選びたい場合は、ダイアルや **[PAGE ◀ / ▶]** ボタンを使用します。

💡 このとき選択した場所にあるプログラムがキーボード上に読み込まれ、新たなサウンドに上書きされる前に試奏することができます。

- ④ 保存する場所を決めたらもう一度 **[STORE]** を押します。これでストア操作は完了です。

❗ ストア操作を中止したい場合は、**[EXIT]** を押します。

ストア操作やプログラムへ名前を付ける方法の詳細については、「プログラムセクション」(39 ページ) をご参照ください。

ライブモード



8つのライブプログラムは他のプログラムと異なり、すべての編集が即座に保存されます。手動によるストア操作は必要ありません。

- ① **[LIVE MODE]** を押し、**PROGRAM** ボタンで8つのライブプログラムから適当な音色を選びます。
- ② エフェクトのひとつをオンにするなど、何らかの編集を加えます。
- ③ 別のライブプログラムを選んで、それから先ほど編集したものに返ると、ストア操作を行っていないにもかかわらず編集内容が保存されていることがわかります。

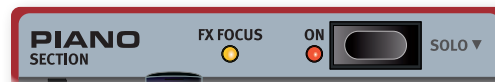
ライブモードを使っているときに現在の設定を通常のプログラムとして保存したいと考えた場合には、ストア操作を任意のプログラム番号に対して行います (上記参照)。

反対に、8つのライブモードメモリーへ他のプログラムを保存することもできます。元が通常のプログラムであっても、ライブプログラムとして保存されてからは、すべての編集が即座に保存されるようになります。

[LIVE MODE] をもう一度押すとライブモードを終了してプログラムバンクに戻ります。

❗ 出荷されたばかりの Nord Stage 4 のライブモードプログラムは、バンク A の最初の 8 つのプログラムの単純なコピーでできています。

セクションとレイヤー



Nord Stage 4 におけるセクションとは、パネル上の **ORGAN**、**PIANO**、および **SYNTH** で示される各エリアを指します。オルガンセクションとピアノセクションは A と B の 2 つのレイヤーを持っており、シンセセクションは A、B、さらに C までを含む 3 つのレイヤーを持っています。

セクション **[ON]** ボタンを押すと、セクション全体をまとめてオンにしたりオフにしたりできます。

レイヤーのオンとオフを切り替える



同じセクションに属する複数のレイヤーは、同時に **[ON/OFF]** ボタンを押すことで一度にアクティブにできます。例えば、ピアノ A が既にオンになっているときにピアノ B を追加するには、その両方のボタンを同時に押しします。シンセセクションにおいては、同時押しに含まなかったレイヤーは、オフになります。

アクティブでないレイヤーのボタンを単独で押すと、他のレイヤーがすべてオフになり、選んだレイヤーのみがセクションに残ります。

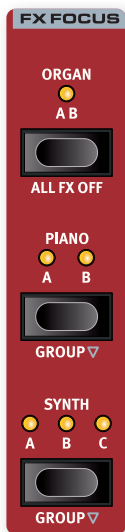
アクティブなレイヤーのボタンを押すと、パネルのフォーカスがそのレイヤーに移り、すべてのパラメーターを編集できるようになります。

「▼」記号で示されている通り、各レイヤーはレイヤーボタンを長押しすることでもオフにすることができます。

レイヤーエフェクト

Nord Stage 4 にはレイヤーごとに使えるレイヤーエフェクト (**LAYER EFFECTS**) セクションがあり、豊富に取り揃えられたさまざまなエフェクトを使うことができます。2 つ両方のピアノレイヤー、3 つすべてのシンセレイヤーは、それぞれ独立したエフェクトのセットを持っています。オルガンの 2 つのレイヤーは 1 つのエフェクトチェーンを共有します。

レイヤーエフェクトセクションは **[ON]** ボタンを押すことでオンまたはオフにできます。オフにしたときにはすべてのエフェクトをバイパスします。



どのセクションやレイヤーのエフェクトを編集するかを選ぶには、**FX FOCUS** エリアの **[ORGAN]**、**[PIANO]**、および **[SYNTH]** ボタンを使います。

ピアノセクションとシンセセクションではレイヤーごとに個別に設定することも **[GROUP]** を押してグループ化し、セクション内で共通の設定をそれぞれのレイヤーに持たせることもできます。

グループモードを終了するには、グループ化と同じ操作を行います。セクション内のすべてのレイヤーは手動で操作されるまで、同じエフェクト設定を保持します。

エフェクトフォーカスは各セクションのレイヤーボタンが押されるたび、対応するレイヤーに自動で追従します。

現在のエフェクトフォーカスの対象は、各セクションのオンボタンの隣にある黄色の **FX FOCUS LED** と、**FX FOCUS** エリアにあるレイヤー別の LED の両方で表示されます。

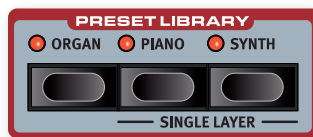
エフェクトを使う

プログラムA:21が選択された状態から次の手順を試しましょう。クリーンなピアノサウンドにエフェクトが追加されます:

- 1 **FX FOCUS** エリアで **PIANO A** がフォーカスされていることを確認します。そうでない場合は **FX FOCUS [PIANO]** ボタンを押します。
- 2 **REVERB [ON]** ボタンを押して、リバーブを有効にします。
- 3 **[DRY/WET]** ノブを回して、バランスを調整します。
- 4 **DELAY [ON]** ボタンを押して、ディレイを有効にします。

- 5 **[RATE]**、**[FEEDBACK]**、**[FILTER]**、**[EFFECTS]**、および **[DRY/WET]** を操作して、ディレイ効果の特性と強さを変更します。

プリセットを読み込む



Nord Stage 4のプリセットライブラリーにはオルガンセクション、ピアノセクション、およびシンセセクションのプリセットが多数そろっています。これらはエフェクトも含めて既存のプログラムに手早く、そして簡単に取り入れることができる、即戦力のサウンドです。プログラムA:21が選ばれた状態から、シンセサウンドを追加する手順をご紹介します:

- 1 **PRESET LIBRARY [SYNTH]** ボタンを押します。自動でシンセセクションがオンになるとともに、ブラウズ画面が開きます。
- 2 ダイヤルを回してピアノに合わせるサウンド、例えばシンセパッドを探します。フェーダーを使ってサウンドレベルを適切に調整します。
 ⓘ 必要に応じて、プリセットをカテゴリ別に参照できます。カテゴリを切り替えるには、**Cat**ソフトボタンを押してからページボタンを押します。**Cat**ソフトボタンを長押しすると、カテゴリをリストから選択できます。
- 3 サウンドが見つかったら **PRESET LIBRARY [SYNTH]** ボタンか **[EXIT]** を押します。サウンドが決定され、プリセットライブラリーが閉じます。

すべてのシンセパラメーターは、プリセットを選んだ場合でもこれを起点として調整することができます。これらのパラメーターについては「シンセセクション」(27ページ)をご参照ください。

シングルレイヤープリセットを読み込む

単一のレイヤーからなるプリセットに絞り込んでプリセットライブラリーを検索することもできます。これは例えば、新しいサウンドを既存のレイヤーとブレンドするときや、フェーダーやレイヤーシーン機能を使ってひとつのプログラムに複数のサウンドをセットアップするときなど、セクション内の他のレイヤーのサウンドを保持したい場合に便利です。

グランドピアノとレイヤーするために、シングルレイヤープリセットをピアノBに読み込んでみましょう:

- 1 **PIANO A [ON/OFF]** ボタンと **PIANO B [ON/OFF]** ボタンを同時に押し、両方のレイヤーをオンにします。ピアノBがフォーカスされていることを確認します。フォーカスされているレイヤーはLEDの点滅で示されます。
- 2 **[SHIFT]** を押しながら **PRESET LIBRARY [SINGLE LAYER PIANO]** を押してブラウズ画面を開きます。
- 3 ダイヤルを回してグランドピアノに合わせるサウンド、例えばエレクトリックピアノを探します。フェーダーを使ってサウンドレベルを適切に調整します。
- 4 サウンドが見つかったら **PRESET LIBRARY [PIANO]** ボタンか **[EXIT]** を押します。サウンドが決定され、プリセットライブラリーが閉じます。

スプリットを作成する

スプリット機能を使用してキーボードの異なるゾーンにサウンドを割り当てることもできます。2つ前の練習で作成したピアノとシンセの組み合わせから、今度はレイヤーの代わりにスプリットを組んでみましょう。

- ① プログラムエリアディスプレイの上にある **[SPLIT ON/SET]** ボタンを押すと、キーボードの中央、「C4」のスプリットポイントがアクティブになります。
- ② スプリットポイントのポジションを調整するには、**[SPLIT ON/SET]** ボタンを長押しします。
- ③ 各スプリットポイントには、ノート (**Note**) とクロスフェード (**xFade**) 2つの設定項目があります。カーソルが下の行に来るまで、ディスプレイの▼/▲記号に対応している **PROGRAM [1]** ボタンを押して、ノート (**Note**) を選択します。ダイヤルを回して、Midスプリットポイントを選びます。
- ④ 残りの2つのスプリットポイント (LowとHigh) が「Off」になっていることを確認します。

キーボードが2つのゾーンに分割され、鍵盤の上にある緑色のLEDがスプリットポイントを示すようになります。また、**[SPLIT ON/SET]** ボタンの上にあるLEDのうち中央のみが点灯し、こちらはMidスプリットポイントのみがアクティブになっていることを示します。

ピアノをアッパーゾーン (右手側) に割り当てる

- ⑤ **PIANO [KB ZONE ◀ / ▶]** を押して、右端2つのLEDのみを点灯させます。

これでピアノAがキーボードのアッパーゾーンにアサインされました。ピアノセクションの **[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶]** ボタンを使用すると、別の音域にアクセスすることも簡単にできます。

シンセサウンドをロワーゾーン (左手側) に割り当てる

SYNTH [KB ZONE ◀ / ▶] を押して、左端2つのLEDのみを点灯させます。複数のレイヤーを使用したシンセサウンドをセットアップしている場合は、**[SECTION EDIT]** ボタンをダブルタップしてから割り当て作業に入るとスムーズです。セクションエディットではすべてのレイヤーのパラメーターを同時に設定できるため、個別に設定する必要がなくなります。

- ❗ **Low, Mid, およびHighのスプリットポイント3つすべてを使うことで、キーボードを4つの領域に分割することができます。すべてのレイヤーは任意のゾーンに割り当てることができます。**

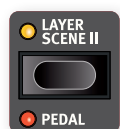
オルガンレイヤーを追加する

次はオルガンを追加してみましょう。

- ⑥ **ORGAN SECTION [ON]** ボタンを押します。
 - ⑦ そのまま弾いたり、ドローバーやノブで調整したりするほかに、**PRESET LIBRARY [ORGAN]** ボタンからオルガンプリセットを選ぶこともできます。
- 💡 プログラムエリアの **[SOLO]** ボタンを押せば、そのレイヤーに集中してサウンドの調整を行うことができます。ソロ状態はもう一度ソロボタンを押すか、**[EXIT]** を押すことで終了します。

これで、キーボード全体にオルガン、キーボード左側にシンセサウンド、キーボード右側にピアノが重ねられたサウンドの完成です。

レイヤーシーンII



レイヤーシーン機能を使用すると、2つの独立したレイヤー構成を作成できます。シーンのそれぞれで各レイヤーやセクションのオン/オフを切り替えられます。先の手順で作ったオルガン、ピアノ、およびシンセからなるコンビネーションを、別の音色のセットと切り替えられるようにしてみましょう。

- ① **LAYER SCENE II** LEDが消灯していること、つまり今アクティブになっているのがレイヤーシーンであることを確認してから、ピアノとシンセをオフにします。オルガンは、キーボード全体にアサインされたままにしておきます。
- ② **[LAYER SCENE II]** を押し、ピアノとシンセをオンに、オルガンをオフにします。
- ③ **[LAYER SCENE II]** ボタンを押すと2つのレイヤー構成を切り替えることができます。

レイヤーシーンII構成はプログラムの一部として保存されます。同じプログラムを使いながら2つの異なるレイヤー構成を切り替えたいときに役立ちます。

- 💡 フットスイッチもしくはNord Triple Pedalの左側や中央のペダルを使用して、レイヤーシーンのIとIIを切り替えることができます。フットスイッチの設定については「Pedalメニュー」(58ページ)をご参照ください。

モーフ機能



モジュレーションホイール、コントロールペダルまたはキーボードアフタータッチを使用して、演奏中に1つまたは複数のパラメーターを動かすことができます。これは、モーフソース (物理コントローラーのこと)、デスティネーション、およびパラメーターを変化させる幅を選択することで実現します。もう一度、プログラムA:21から始めましょう。

- ① ここで作成するのは、ピアノBの音量をホイールでモーフさせるレイヤーサウンドです。作業に取り掛かる前に、ピアノセクションがオンになっていることを確認します。
- ② **PIANO A [ON/OFF]** ボタンと **PIANO B [ON/OFF]** ボタンを同時に押し、両方のレイヤーをアクティブにします。
- ③ **PIANO B [ON/OFF]** ボタンを押してピアノBにフォーカスし、Electricカテゴリーのサウンドを選びます。これでグランドピアノとエレクトリックピアノのレイヤーサウンドができました。
- ④ **PIANO B** フェーダーを下げて、ピアノAのグランドピアノのみが聞こえるようにします。
- ⑤ **MORPH ASSIGN [WHEEL]** ボタンを押します。
- ⑥ **[WHEEL]** ボタンを押したまま、**PIANO B** フェーダーを0 dBまで上げます。
- ⑦ **[WHEEL]** ボタンを離します。モジュレーションホイールを動かしながら演奏してみましょう。

ホイールの動きに応じてピアノBのレベルが上がリ、それに伴って音像も変化します。

- 💡 ひとつのモーフソース (ホイール、コントロールペダル、およびアフタータッチ) で複数のパラメーターを同時に操作することができます。

- 💡 また、ひとつのモーフソースであるパラメーターを大きく、別のパラメーターを小さくすることもできます。これを使えば、例えばクロスフェードが可能になります。

モーフ機能の詳細については「プログラム」(37ページ)をご参照ください。

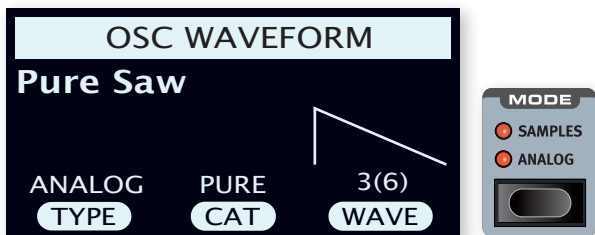
シンセサイザー

Nord Stage 4の **SYNTH** セクションは、それぞれ単体で完結したシンセサイザーを3つ擁しています。これらはレイヤーA/B/Cと名付けられており、単一の音源として、または複雑なレイヤーサウンドの構成要素として、使用することができます。

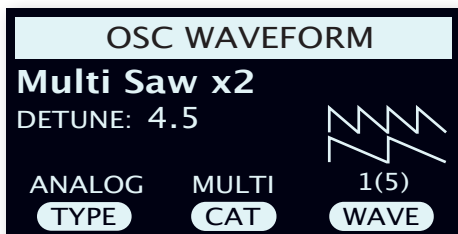
📍 プリセットライブラリー(14ページ)には即戦力の音色が数多く収録されています。これらはそのまま使うことも、シンセパラメーターやエフェクトを調整して使うこともできます。

「アナログ」波形を加工するところから、Nord Stage 4シンセサイザーの基本機能のいくつかを確認しましょう。

- 1 **SYNTH SECTION [ON]** ボタンを押して、シンセセクションをアクティブにします。また、レイヤーAのみをアクティブにします。他のレイヤーは対応するボタンを長押しするとオフにできます。
- 2 「白紙」の状態から始めるために、**[SHIFT] + [SOUND INIT]** を押してシンセサイザーをデフォルトの状態に初期化します。
- 3 アクティブなエフェクトをすべてオフにします。
- 4 **[MODE]** セレクターを使ってレイヤーを **ANALOG** モードにします。ディスプレイの下にある3つのダイヤルを使用して、**TYPE** を「Analog」に、**CAT** (Category) を「Pure」に、**WAVE** をのこぎり波にします。



- 5 これでシングルオシレーターによる基本的なセットアップができました。この状態では、**[OSC CTRL]** ノブを回してもサウンドには何の変化も起きません。別のカテゴリーを選んでみましょう。
- 6 **CAT** ダイヤルを回して「Multi」カテゴリーを選びます。**WAVE** ダイヤルを回せば、複数ののこぎり波が重なる中から、異なるコンビネーションを選ぶことができます。ここでは、2つのオシレーターがオクターブ違いで重なっている「Multi Saw x2」を選びます。
- 7 **[OSC CTRL]** ノブを回すと2つのオシレーターへのDetuneパラメーターを調整することができ、強く、あるいは軽くデチューンのかかった、生き生きとしたサウンドが得られます。パラメーターを調整すると、その様子がディスプレイに表示されます。



最後のステップとして、フィルターセクションに移りいくつかの調整を加えましょう。

- 1 フィルターが **[ON]** になっており、かつ **[ENV AMT]** (Envelope Amount) がゼロになっていることを確認します。
- 2 **FILTER [TYPE]** ボタンを押します。画面左端に対応する **TYPE** ノブを回して、違った種類のフィルターを試してみましょう。
- 3 **FILTER [FREQ]** ノブを左右の両方向に回すと、使用しているフィルターの種類に応じて、サウンドが徐々に暗くなったり明るくなったりしま

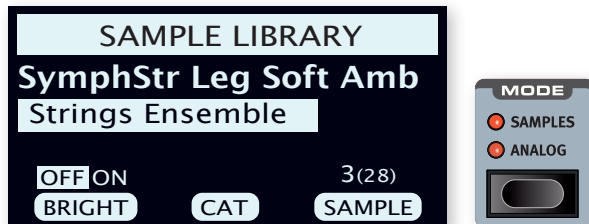
す。すべての **TYPE** 設定でこれを繰り返して、それぞれの設定が音作りにおいてどのような違いをもたらすのかを感じ取りましょう。

- 1 詳しくは「フィルターセクション」(30ページ)をご参照ください。

サンプルの読み込みと調整

今度はサンプルをもとにストリングス系のパッドサウンドを作ってみましょう。

- 1 シンセセクションをレイヤーBに切り替えて、**[SHIFT] + [SOUND INIT]** で初期化します。
- 2 **[MODE]** セレクターを押して、**SAMPLES** を選びます。

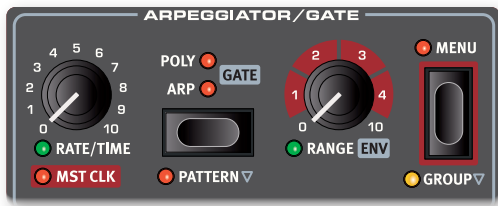


- 3 ディスプレイ下の **CAT** ダイヤルを使って「Strings Ensemble」カテゴリを選びます。**SAMPLE** ダイヤルを使ってサウンドを選びます。
- 4 少し演奏してみます。サウンドをパッドらしくするには、いくつかの調整を行う必要があります。**[AMP ENVELOPE]** ボタンを押して、ディスプレイにアンプエンベロープの設定画面を呼び出します。
- 5 キーから指を離してからの余韻が程よい長さになるまで、演奏しながら **RELEASE** ダイヤル(ディスプレイの下、左から3つ目)を調整します。おおむね1秒くらいが目安です。
- 6 同様に、**ATTACK** ダイヤルを使って音の立ち上がりを柔らかく、緩やかにします。一般的には500 ms前後が適しています。
- 7 パッドの仕上げに、フィルターを **[ON]** にします。フィルタータイプ (**TYPE**) が LP (ローパス) 系のいずれかになっていることを確認し、**FILTER [FREQ]** を調整して柔らかいキャラクターを与えます。2 kHzくらいから始めるとよいでしょう。
- 📍 フィルターエンベロープを調整すれば、時間経過に伴ったサウンドの輪郭の変化を出すことができます。反対に **[ENV AMT]** をゼロにして抑揚を減らすことも可能です。
- 8 フィルターやアンプの設定はそのままに、サンプルのみを差し替えるには、**[WAVEFORM]** ボタンを押しながら **SAMPLE** ダイヤルを回します。サンプルダイヤルを通常通り回すと、フィルターセクションがオフになり、アンプエンベロープは選択されたサンプルごとに固有の既定値に設定されます。

パッドサウンドをより豊かにするには、フィルターエンベロープやLFOを使ったモジュレーションをかけたり、コーラス等のエフェクトをかけたりといった、いくつかの方法があります。モジュレーションについては33ページ、エフェクトについては48ページをご参照ください。

📍 Nord Sound Managerを使うと、サンプルをNord Stage 4に追加することができます。

アルペジエーターとゲート



最後に、シンセセクションのアルペジエーターとゲート (**ARPEGGIATOR/GATE**) を活用したサウンドを作る練習をしましょう。

- ① シンセセクションのみがオンになっていることを確認し、**[SHIFT] + [SOUND INIT]** で初期化します。アンプエンベロープの **ATTACK** を最小に、**DECAY** を500 ms前後にします。波形にはのこぎり波を選び、フィルターを少し開きます。パーカッシブなサウンドが得られます。
- ② **[ARP RUN]** ボタンを押し、キーボードで和音を弾きながら **[RATE/TIME]** ノブを回します。これにより、押されたノートが次々と繰り返し演奏されるようになります。

いくつかの追加設定を行うには、**ARPEGGIATOR [MENU]** ボタンを押します:

DIRECTION ダイアルを回して、様々な設定を試してみましょう。デフォルトの **UP** 設定では、最も低いキーから最も高いキーまで順に演奏され、その後再び最低音から始まります。他の方向は **DOWN**、**UP/DOWN**、および **RANDOM** です。

ZIG ZAG (右端のダイアル) をアクティブにすると、指定された方向に2ステップジャンプしてから1ステップ戻る挙動を繰り返します。



- ① Arpeggiator/Gateメニューの2ページから5ページまではパターンモードに関するもので、パターンがアクティブな時にのみ効果を発揮します。

💡 Arpeggiator/Gateメニュー画面の最上部には、現在選ばれている波形やサンプルの名前が記載されます (例えば「Multi Saw x2」など)。

- ③ 次は **[RANGE/ENV]** ノブを回して、演奏されるアルペジオの音域を変えてみます。1/3オクターブ刻み、最大4オクターブの範囲で調整できます。

- ④ **[KB HOLD]** ボタンを押すとキーから指を離してもアルペジオが継続します。

💡 アルペジエーターを動かしながら、**POLY** (ポリフォニック) および **GATE** (ゲート) モードも試してみましょう。Polyモードでは、押さえたコードの転回形が繰り返し演奏され、Gateモードではリズムカルに音がオフになったりオンになったりを繰り返します。Gateモードを使う場合では、ArpモードやPolyモードと異なり都度新しい打鍵としては扱われないため、アンプとフィルターのエンベロープディケイを長い値に設定する必要が生じます。

マスタークロック

アルペジオの次はマスタークロック機能です。アルペジオやエフェクトを同期させてみましょう。

- ① **[SHIFT]** を押しながら **ARPEGGIATOR [RATE]** ノブを回すと、アルペジオがマスタークロックにロックされ、**MST CLK LED** が点灯します。



プログラムエリアの **[MST CLK TAP/SET]** ボタンを押して、**[PROGRAM]** ダイアルでテンポを指定します。ディスプレイにテンポがbpm単位で表示されます。ここでは130 bpmに設定します。**[EXIT]** を押して設定画面を終了します。

💡 またはMst Clkボタンを4回以上タップして、その場でテンポを設定します。フットスイッチペダル、またはNord Triple Pedalの左側もしくは中央のペダルを使用してテンポをタップすることもできます。ペダルによるタップテンポについては「Pedalメニュー」(59ページ)をご参照ください。

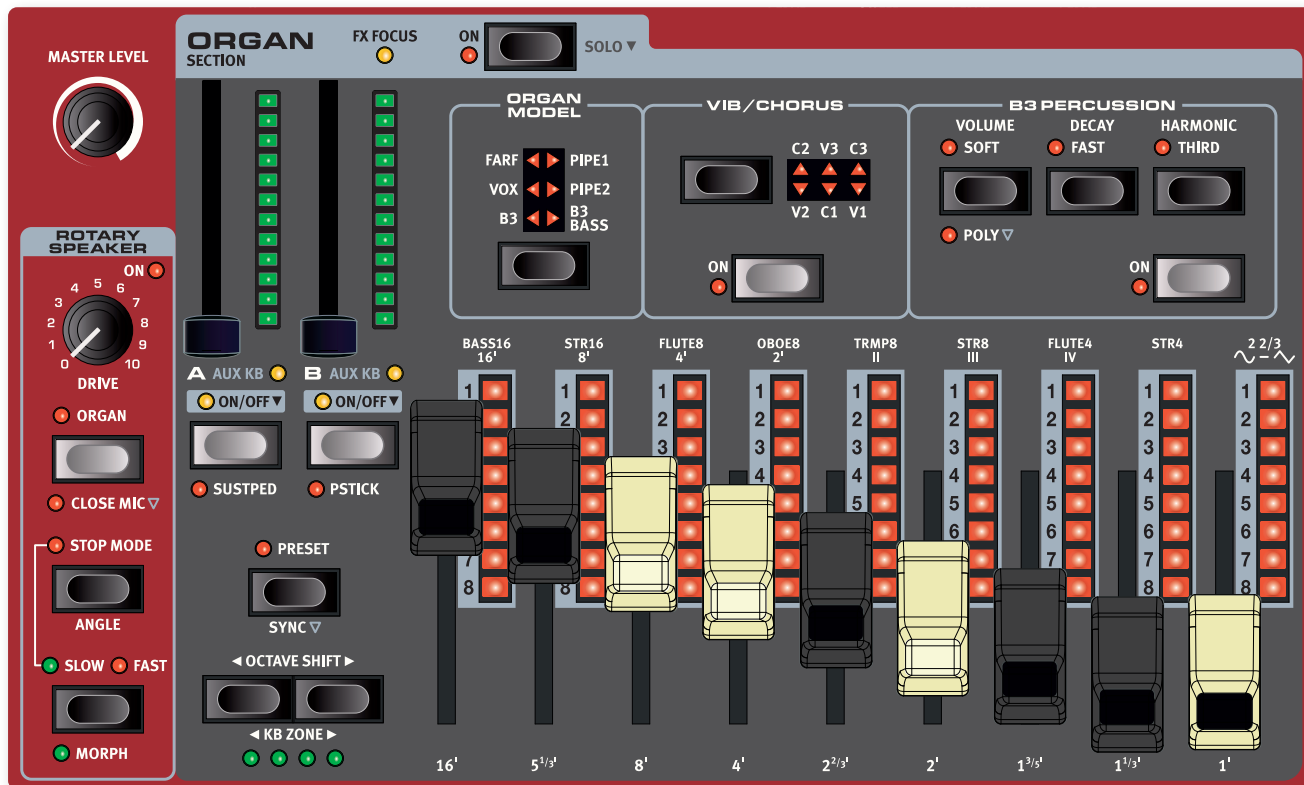
- ② **ARPEGGIATOR [RATE]** ノブを回して、アルペジオ1音の音価を決めます。プログラムエリアに設定が表示されます。1/4は「スピード」の意味では1/8の半分となることに注意してください。「T」が数字の後にしているものは三連符を意味します。ここでは1/8を選びます。
- ③ シンセレイヤーの **DELAY** エフェクトをオンにします。ゆっくりとDelay **[TEMPO]** ノブを回せばアルペジオのリズムとミリ秒単位で合わせることができますが、別の方法もあります。ディレイをアルペジオと同じクロックに同期させてみましょう。
- ④ **[SHIFT]** を押しながら **DELAY [TEMPO]** ノブを回してマスタークロックをディレイに適用します。**MST CLK LED** が点灯します。
- ⑤ **DELAY [TEMPO]** ノブを回して、プログラムエリアディスプレイがどう変化するか確認しましょう。
- ⑥ 1/16を試してください。これは音価でいえば半分、アルペジオの「スピード」でいえば2倍にあたります。**[DRY/WET]** ノブを12時の位置まで上げると、アルペジオ音とディレイの「やまびこ」を聞くことができます。

アルペジオ、シンセのLFO/ディレイとMod 1のRateパラメーターはこの方法でマスタークロックに同期させることができます。

さらに、マスタークロックはすべてのレイヤーで同時に動作するため、すべてのシンセレイヤーのアルペジオとLFO、さらにはオルガンセクションとピアノセクションのエフェクトまでもを一度にコントロールできます。

いくつかのマスタークロック対応機能では、1/1よりも大きい音価を設定できます。これは1小節よりも長いスweepを可能にします。もちろん必要に応じて、一部の機能のみを同期し、他の機能をフリーランのままにすることもできます。

4 オルガンセクション



オルガンセクションについて

Nord Stage 4 には 6 つのオルガンモデルが搭載されています。B3 トーンホイールオルガンと独立した B3 Bass モード、2 つのトランジスターオルガン（Vox と Farfisa）、そして 2 つのパイプオルガンです。

- 1 オルガンとしばしば組み合わせて使われるロータリースピーカーエフェクトについては、「ロータリースピーカー」（52 ページ）をご参照ください。

オフ / オフとレベル

オルガンセクションは **ORGAN SECTION [ON]** ボタンを押すことでオンとオフを切り替えられます。レベルフェーダーでそれぞれのオルガンレイヤーの出力レベルを調整します。レベルフェーダーはモーフデスティネーションに選ぶことができます。

[ON] ボタンを 0.5 秒程度長押しすると **SOLO** モードに入ります。ソロモードではオルガンのみがオンになり、ピアノセクションとシンセセクションがオフになります。

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス

オルガンセクションにはレイヤー A とレイヤー B、2 つのレイヤーがあります。レイヤーも一緒にオンにするには、両方のレイヤーボタンを同時に押します。レイヤーをオフにするには、そのボタンを長押しします。

あるレイヤーから別のレイヤーに切り替えるには、切り替える先のレイヤーボタンを押します。両方のレイヤーがアクティブになっているとき、そのうちどちらがフォーカスされているのかはレイヤーボタン上部の LED の点滅によって示されます。

レイヤーボタンを押すとエフェクトセクションでもオルガンがフォーカスされます。エフェクトフォーカスの状況は、オルガンセクション上部にある **FX FOCUS** LED の点灯によっても示されます。

- 1 ピアノレイヤーとシンセレイヤーはそれぞれ個別のエフェクトセットを持つ一方、オルガンセクションでは両方のレイヤーが同じエフェクトチェーンを共有します。

オクターブシフトとキーボードゾーン

[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶] を押すと、オルガンレイヤーの音域をオクターブ単位でシフトします。オルガンレイヤーが鍵盤全体に割り当てられている場合は、1 オクターブ上下にシフトできます。オルガンレイヤーが狭いゾーンに割り当てられている場合は、利用可能なシフト幅が変わります。どちらの場合も、常にオルガンの全音域にアクセスできます。

[SHIFT] + [KB ZONE ◀ / ▶] を押すと、フォーカスされているオルガンレイヤーをアクティブなキーボードゾーンのいずれかに割り当てることができます。レイヤーがどのゾーンに割り当てられているのかは、緑色の LED によって示されます。スプリットの設定方法とキーボードゾーンの割り当ての詳細については、「スプリット」（38 ページ）をご参照ください。

サステインペダルとピッチスティック

[SHIFT] + [SUSTPED] を押すと、フォーカスされているオルガンレイヤーに対してサステインペダルが有効になります。ペダルの接続と設定の方法については、「Pedal メニュー」（58 ページ）をご参照ください。

[SHIFT] + [PSTICK] を押すと、フォーカスされているオルガンレイヤーに対してピッチスティックが有効になります。ピッチスティックを使うと、オルガンサウンドのピッチを上下 2 半音の範囲でバンドさせることができます。

オルガンモデルの選択

[ORGAN MODEL] セレクターで、使用するオルガンモデルを選択します。レイヤー A とレイヤー B に異なるモデルを使用できるため、B3 マニュアルを B3 Bass と組み合わせてスプリットとして使用したり、片方のレイヤーを MIDI で自動演奏させたりすることができます。

☞ (訳注) 「マニュアル」とはパイプオルガンに由来する用語で、手鍵盤のことを指します。

オルガンプリセット

Nord Stage 4 は、エフェクトを含めて完結した即戦力のシンセプリセットが豊富に用意されています。プログラムセクションの **PRESET LIBRARY [ORGAN]** ボタンを押せば、これらのブラウズおよびロードができます。自身で作成したサウンドもプリセットライブラリに保存できるため、どのプログラムがロードされているかにかかわらず、素早く簡単に呼び出すことができます。

プリセットライブラリの詳細については、40 ページをご参照ください。

ドローバーと LED 表示

物理ドローバーには LED 表示が付いています。プログラムが読み込まれると、プログラムに保存されたドローバー設定が LED に示されます。この設定はプリセットと呼ばれます。

プリセットを使わずに、ドローバーの物理的な位置通りのサウンドで演奏したいときは、**PRESET** をオフにして消灯させます。これをドローバーライブモードと呼びます。

☞ ホイールやコントロールペダルなどを使用して劇的な変化を与えたい場合は、プリセットモードにしてドローバーをモーフでコントロールするという方法があります。

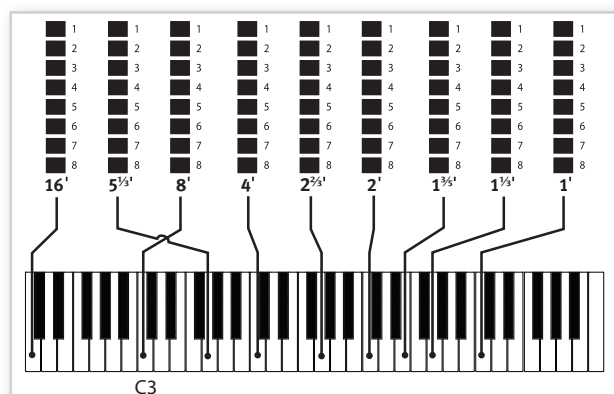
B3 モデル

B3 モデルはクラシックな電気機械式トーンホイールオルガンに基づくデジタルモデリングです。このシミュレーションは先進的かつ高度な方法により、オリジナルのサウンドのあらゆるニュアンスを捉えています。ここにいくつかの例を示します：

- ・コーラスとビブラートをもたらすスキャナー。
- ・倍音ごとに個別のキークリック。
- ・サウンドの「ボディ」を形作る、内蔵プリアンプ特有の周波数特性。
- ・絶妙な「コンプ感」を得る、トーンホイール上のエネルギーの減衰。
- ・オリジナルデザインに基づいた本格的なトーンホイールチューニング。
- ・きわめて速いキーボードレスポンス。
- ・フルポリフォニー。

B3 ドローバー

B3 モードの倍音列はドローバーの下に印字されています。演奏された音に対してどの倍音成分を付加するかは、ドローバーごとに決まっています。下の図は、C3 のキーを弾いたときに発音する倍音列を鍵盤上に表したものです。5+1/3 フィートのドローバーは、実際には基音 (8 フィート) の 5 度上に対応しているにもかかわらず 8 フィートより左側に配置されています。これは 5+1/3 フィートの音程が、8 フィートよりもむしろ 16 フィートと密接な関係を持つ (整数次倍音にあたる) ことによりです。



ビブラートとコーラス



トーンホイールオルガンに搭載されているオリジナルのビブラート/コーラスは、変調のかかったディレイ回路と回転するスキャナーとの組み合わせで構成されています。ビブラートエフェクトの場合、信号全体に位相のズレが加わります。コーラスエフェクトの場合、位相ズレのかかった信号が元の信号に追加されます。

3つの異なるタイプのビブラート (V1~V3) と3つの異なるタイプのコーラス (C1~C3) が利用できます。これらを使うには **[VIB/CHORUS]** セレクターを押して、いずれかのタイプを選びます。エフェクトを使うか使わないかは、レイヤーAおよびレイヤーBの「マニュアル」ごとに独立しています。

パーカッション



PERCUSSION [ON] ボタンを押すと、エンベロープでコントロールされた第2倍音もしくは第3倍音によるアタック音を、B3 サウンドに追加できます。

キーを押すとエンベロープがわずかな時間「開き」ます。通常、パーカッションは単一のトリガーで発音される、ノンレガートなサウンドです。ここで「単一」を強調した通り、パーカッションは他の音が鳴っていない状態から打鍵したときのみ発音します。言い換えれば、何らかの音やコードを演奏して、そのキーから指を離さずに次の音を演奏した場合、その新しい音に対してはパーカッションが発生しません。パーカッション効果を得るには、いったんすべてのキーを放してから新しく弾く必要があります。

POLY モードでは、パーカッションがポリフォニックになり、既に押されているキーの数に関係なく、パーカッシブなアタックがすべての新しい打鍵に対して発音します。

[VOLUME] ボタンはパーカッションの音量を Normal と Soft の間で切り替えます。**[DECAY]** ボタンはパーカッションの減衰の速さを Slow と Fast の間で切り替えます。

[HARMONIC] ボタンは第2倍音と第3倍音のどちらかをパーカッションに使うかを切り替えます。

i パーカッションは B3 オルガンモデルでのみ使うことができます。

キークリックの調整

接点に触れた時のランダムな微振動に由来するキークリックは、オリジナルの B3 サウンドにおける重要な成分です。ノイズの一種でありながら、ミュージシャンの間では望ましい味わいとして歓迎されました。クリックレベルは Sound メニューで調整できます。詳しくは 56 ページをご参照ください。

🔗 Sound メニューでは 3 つの候補からトーンホイールモードを選ぶこともできます。これにより B3 モデルは、工場を出てすぐのフレッシュな個体からボロボロに使い込まれたベテランにまで変貌します。ぜひお試しください。

Vox モデル

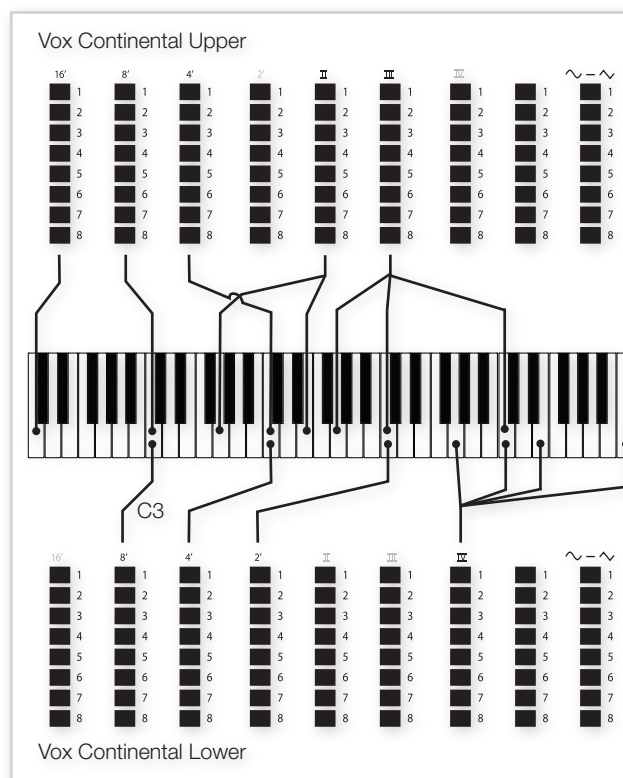
オリジナルの Vox™ オルガンは、おそらく 60 年代初頭のトランジスターによるコンポオルガンの中で最も有名です。トランジスター技術により、コンパクトで持ち運びのできるオルガンの製造が可能になりました。トーンホイールオルガンの力強い響きに比べると、これらのサウンドは一般的にリード楽器のような癖と線の細さを持っていました。しかしこの独特のキャラクターが歓迎され、可搬性も相まってたいへんな人気を博すに至りました。

Vox ドローバー

VOX モデルで使うドローバーのラベルは、ドローバー LED のすぐ上に印字されています。

ドローバーの基本的な操作については、19 ページの「ドローバーと LED 表示」をご参照ください。左側の 7 つのドローバーは各倍音成分のレベルを制御します。下の図は C3 のキーを弾いたときに各ドローバーが対応する音程を示しています。オリジナルの楽器ではアッパー用とローワー用で異なるドローバーセットが用意されていましたが、Nord Stage 4 では共通のセットにまとめています。

右端のドローバーはフィルターをかけてソフトかつダークにしたサウンドと、フィルターのかかっていない明るく鋭いサウンドとのミックスの割合を制御します。



ビブラート

Vox モデルでは Vibrato セクションの **[ON]** ボタンを押して、いくつかのタイプのビブラートを使うことができます。**V3** がオリジナルをモデルにしたセッティングです。

Vox モデルでは、ビブラートの設定やオン/オフ状態がレイヤー A とレイヤー B で共有されます。

Farf モデル

このビンテージ楽器のブザーのようなサウンドは、これまでに製造されたオルガンの中で最も特徴的なもの、わかりやすいもののひとつです。しかしその実、この楽器からは非常に幅広いサウンドが飛び出します。

Farf レジスター

FARF モデルで使うドローバー / レジスターのラベルはドローバー LED の上、2 行あるうちの上側の行に印字されています。

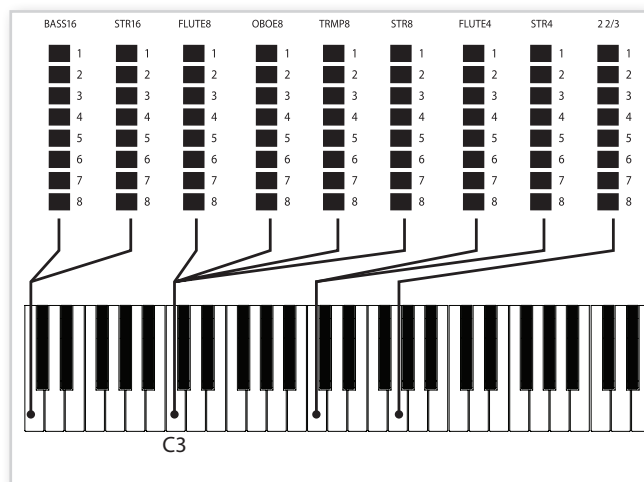
Farf モードが選ばれているとき、ドローバーはオン / オフスイッチ、すなわち「レジスターセクター」としてふるまいます。オリジナルの楽器ではドローバーの代わりにロッカースイッチを使用して、様々なフッテージ（オクターブ）の幅から組み合わせてボイス（実際にはフィルターの設定のバリエーション）を選んでいました。アクティブにされたボイスは 5 番から 8 番までのドローバー LED の点灯、非アクティブなボイス 1 番から 4 番までのドローバー LED の点灯によって示されます。ドローバーを半分以上引き出すとそのレジスターがアクティブになります。プログラムビューモードに応じて、プログラムセクションのディスプレイにオルガンセクションの現在のドローバー設定が表示されます。

ボイスを示すラベルには Flute、Oboe、Trumpet などとあります。Farf はこれらの楽器を直接再現しているわけではありません。ラベルへの表記は Flute — 柔らかい、Oboe — リード楽器のような、Trumpet — 金管楽器のような、といった、音の雰囲気を説明するためにあります。

ドローバー	ボイス	パネル名
1	Bass 16	BASS16
2	Strings 16	STR16
3	Flute 8	FLUTE8
4	Oboe 8	OBOE8
5	Trumpet 8	TRMP8
6	Strings 8	STR8
7	Flute 4	FLUTE4
8	Strings 4	STR4
9	1 オクターブと 5 度上の明るいボイス	2 2/3

☞ (訳注) 倍音のバリエーションのことを「フッテージ」(フィート長)と呼ぶ、管弦楽器からボイスの名前を取る、サウンドの構成要素の抜き差しを「レジスター」で行う、といった Farf の特徴は、パイプオルガンの慣習に類似しています。

下の図は、C3 を弾いた時の各ボイスの音高を示しています。いくつかのボイスはお互いに同じピッチでありながら、音色が異なります。



ビブラート

オリジナルの楽器では「Light」と「Heavy」、2つの基本ビブラートモードを2つの速度設定とともに持っていました。Nord Stage 4のFarfモデルにはビブラートとコーラスのタイプが複数搭載されています。アクティブにするには **VIBRATO [ON]** ボタンを押します。

V1, V2, および **C3** がオリジナルの楽器のモデリングです。Farf のビブラートは両方のレイヤーで共通です。

パイプオルガン

Pipe 1

PIPE1 オルガンモデルは既存の楽器をエミュレートするものではありません。しかしロータリースピーカーの有無にかかわらず素晴らしいサウンドをもたらすオールマイティなオルガンとして使うことができます。ある意味そのサウンドは B3 オルガンにも似ていますが、エレクトロメカニカルなふるまいやアーティファクトは伴いません。

Pipe 2

PIPE2 オルガンモデルは一般にパイプオルガンないしチャーチオルガンの中心をなす、「プリンシパル」スタイルの金属パイプ列（ランクとも呼びます）を忠実に再現しています。他のランクでは既存の楽器（フルート、トランペット、弦楽器など）の音を再現しようとする場合もありますが、プリンシパル族のサウンドは模倣的ではなく、オルガンに固有のものです。

Pipe ビブラート / コーラス

ビブラート / コーラスを有効にすると、パイプオルガンは精度が低くチューニングされたモデルに切り替わります。これにより、コーラスのような効果やわずかなズレが生じ、レジスターを組み合わせたとときのリアルさが増します。

Pipe 1 & 2 レジスター

両方のパイプモデルで利用可能なパイプの長さは B3 モデルのものと同じで、16 フィートから 1 フィートまでの範囲です。

B3 Bass

B3 BASS モデルには 16 フィートと 8 フィートの伝統的な B3 Bass ドローバーが備えられています。単独で使用する以外に、キーボードスプリットの左側で使用したり、Aux KB 機能で外部のキーボードやペダル鍵盤を使って MIDI 経由でコントロールしたりすることも可能です。

プリセットとドローバーライブ



デフォルトでは **PRESET** がオンになっており、プログラムに保存されている値がドローバー、パーカッション、コーラス / ビブラートのオン / オフに反映されます。プリセットがオフの場合、オルガンは物理ドローバーの実際の位置通りに発音する「ドローバーライブ」モードになります。ドローバーライブモードでは、ドローバー LED はすべて消灯します。

Sync ボタン

[SHIFT] + [SYNC] を押し、**[PRESET]** を長押しする、のいずれかの操作を行うことで内部の設定をドローバーの物理的な位置に合わせられます。

スウェルペダル

スウェルはオルガンの特徴的な機能であり、連続的な変化を持つペダルにより制御されます。スウェルは単なるボリュームコントロールではありません。B3 では特別なはたらきによって、サウンドのキャラクターまでも変化します。Nord Stage 4 でスウェルコントロールを使用するには、市販のエクスペッションペダルをリアパネルの **ORGAN SWELL** 入力に接続し、Pedal メニューでペダルを設定するだけです (58 ページ参照)。

ORGAN SWELL 入力に接続されたエクスペッションペダルは、すべてのオルガンモデルのスウェルをコントロールします。

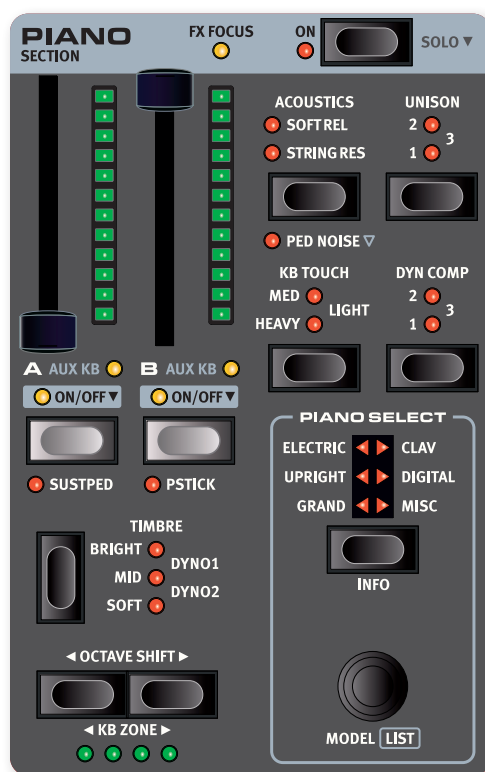
i B3 もしくは B3 Bass モードの場合はスウェルペダルをいっばいまで下げても、オリジナルの楽器と同様に音量はゼロになりません。ほかのオルガンモデルの場合、スウェルペダルはボリュームを完全に下げます。

エクスペッションペダルがひとつしかない場合は、**CONTROL PEDAL** 入力に接続すると、モーフとスウェルの両方をコントロールできます。これも Pedal メニューで設定します。

ロータリースピーカー

ロータリースピーカーの設定については、52 ページをご参照ください。

5 ピアノセクション



オン / オフとレベル

ピアノセクションは、**PIANO SECTION [ON]** ボタンを押すことでオンとオフを切り替えられます。レベルフェーダーでそれぞれのピアノレイヤーの出力レベルを調整します。レベルフェーダーはモーフデスティネーションに選ぶことができます。

[ON] ボタンを0.5秒程度長押しすると **SOLO** モードに入ります。ソロモードではピアノのみがオンになり、オルガンセクションとシンセセクションがオフになります。

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス

ピアノセクションにはレイヤー A とレイヤー B、2つのレイヤーがあります。もう片方のレイヤーも一緒にオンにするには、両方のレイヤーボタンを同時に押します。レイヤーをオフにするには、そのボタンを長押しします。

あるレイヤーから別のレイヤーに切り替えるには、切り替える先のレイヤーボタンを押します。両方のレイヤーがアクティブになっているとき、そのうちどちらがフォーカスされているのかはレイヤーボタン上部の LED の点滅によって示されます。

レイヤーボタンを押すとエフェクトセクションでもピアノがフォーカスされます。エフェクトフォーカスの状況は、ピアノセクション上部にある **FX FOCUS** LED の点灯によっても示されます。

オクターブシフトとキーボードゾーン

[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶] を押すと、ピアノレイヤーの音域をオクターブ単位

でシフトします。ピアノレイヤーが鍵盤全体に割り当てられている場合は、1オクターブ上下にシフトできます。ピアノレイヤーが狭いゾーンに割り当てられている場合は、利用可能なシフト幅が変わります。どちらの場合も、常にピアノの全音域にアクセスできます。

[SHIFT] + [KB ZONE ◀ / ▶] を押すと、フォーカスされているピアノレイヤーをアクティブなキーボードゾーンのいずれかに割り当てることができます。レイヤーがどのゾーンに割り当てられているのかは、緑色の LED によって示されます。スプリットの設定方法与キーボードゾーンの割り当ての詳細については、「スプリット」(38ページ)をご参照ください。

サステインペダルとピッチスティック

[SHIFT] + [SUSTPED] を押すと、フォーカスされているピアノレイヤーに対してサステインペダルが有効になります。ペダルの接続と設定の方法については、「Pedal メニュー」(58ページ)をご参照ください。

[SHIFT] + [PSTICK] を押すと、フォーカスされているピアノレイヤーに対してピッチスティックが有効になります。ピッチスティックを使うと、ピアノサウンドのピッチを上下2半音の範囲でバンドさせることができます。

ピアノ音色について

Nord Stage 4 のピアノは6つのタイプに分類されます。各タイプは複数のモデルを持つことができます。新しいピアノサウンドは、Nord 公式サイトからダウンロードし、Nord Sound Manager を使用することで、Nord Stage 4 に追加できます。

Nord Stage 4 にはピアノサウンド用に 2 GB の内蔵メモリーが搭載されています。すべてのタイプに対し厳選されたピアノコレクションが収録されているため、箱から出してすぐにこれらを楽しむことができます。開発にあたっては、レスポンスやサウンドの微妙なニュアンスを捉えてオリジナルのモデルに可能な限り近づくべく、多大な努力が払われました。各ピアノは膨大なペロシティレベルでサンプリングされています。すべてのピアノモデルがオーセンティックなサウンドと感触を持つ理由のひとつは、このことにあります。

■ Nord Sound Manager を使用してピアノサウンドを Nord Stage 4 内へダウンロードすると、対応するタイプに自動的に配置されます。

プログラムが現在 Nord Stage 4 内へダウンロードされていないピアノを参照している場合、タイプ LED が点滅し、ディスプレイには「Piano not found」と表示されます。この問題が発生した場合は、選択されている（またはその他の）タイプから別のモデルを探して代用する、Nord Sound Manager を使用して不足しているモデルを Nord Stage 4 内へダウンロードする、のいずれかを行きましょう。

Nord Piano Library のファイルサイズについて

Nord Piano Library のサウンドは、最も多い場合、4 つの異なるファイルサイズで提供されています。グランドピアノとアップライトピアノにおける、サイズによる機能の違いを以下に示します：

	Sml	Med	Lrg	XL
詳細なペロシティマッピング	✓	✓	✓	✓
中音域のペダルストリングレゾナンス		✓		
全音域のペダルストリングレゾナンス			✓	✓
フルマッピング				✓

スモール (Sml) では、ペダルダウン時のストリングレゾナンスを含まないなど、ピアノメモリーの使用を最小限に抑えています。

ミディアム (Med) では、重要な中音域に限り、ペダルダウン時のストリングレゾナンスを含めています。

ラージ (Lrg) では、全音域にわたり、ペダルダウン時のストリングレゾナンスを含めています。

多くのピアノモデルではエクストララージ (XL) 版が利用可能です。XL ライブラリーでは鍵盤全体に「フルマッピング」されており、キーひとつひとつにオリジナルと同じ手触りをもたらします。したがって、サイズもきわめて大きくなります。

☞ (訳注) 「ペダルダウン時のストリングレゾナンス」は「ダンパーレゾナンス」と呼ばれることもあります。Med ライブラリーの説明における「中音域」とは、中央八を中心として上下におよそ 2 オクターブずつの範囲です。

ピアノプリセット

Nord Stage 4 は、エフェクトを含めて完結した即戦力のピアノプリセットが豊富に用意されています。プログラムセクションの **PRESET LIBRARY [PIANO]** ボタンを押せば、これらのブラウズおよびロードができます。自身で作成したサウンドもプリセットライブラリーに保存できるため、どのプログラムがロードされているかにかかわらず、素早く簡単に呼び出すことができます。

プリセットライブラリーの詳細については、40 ページをご参照ください。

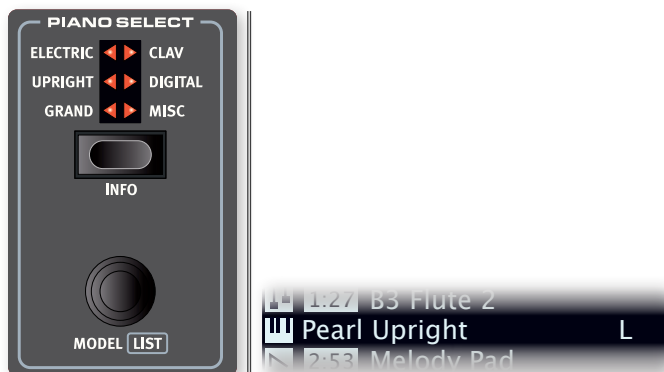
ピアノを選ぶ

タイプとモデル

[PIANO SELECT] セクターを押して、ピアノサウンドのタイプまたはカテゴリを選びます。すべてのピアノサウンドは次の 6 種類に分類されます：

タイプ	説明
Grand	アコースティックおよびエレクトリックのグランドピアノ
Upright	アップライトピアノ
Electric	Tine と Reed に基づくエレクトリックピアノ
Clav	クラビネットとハーブシコード
Digital	デジタルサウンドおよびレイヤーピアノ
Misc	その他のサウンド

PIANO SELECT [MODEL] ダイアルを使用して、先ほど選択したタイプの中から適当なピアノサウンドを選びます。**PIANO SELECT** LED は、現在選択されているピアノモデルのタイプを示します。プログラムビューモード (41 ページを参照) によっては、選択したモデルの名前がプログラムエリアのディスプレイに表示されます。



クラビネットについて

オリジナルのクラビネット D6 では、いくつかのロッカースイッチを押すことでさまざまなピックアップの組み合わせを選べました。Nord Stage 4 ではこの機能を忠実にシミュレートしており、オリジナルのクラビネット D6 同様にピックアップの組み合わせを選べます。

ピックアップの種類

Clav モデル A: 「ネック」側のピックアップのみを使います。暖かく、少し暗いサウンドです。

Clav モデル B: 「ブリッジ」側のピックアップのみを使います。明るいサウンドです。

Clav モデル C: 両方のピックアップを同相で使います。ふくよかなサウンドです。

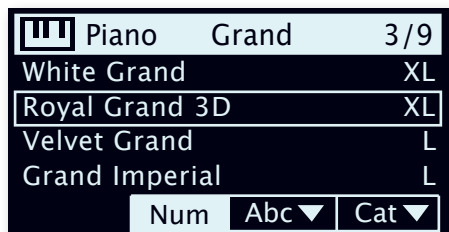
Clav モデル D: 両方のピックアップを 180 度逆相で使います。基音がほとんど打ち消された、線の細いサウンドになります。

☞ クラビネットにはオリジナルの EQ オプションに由来した、固有のピアノティンバー設定が用意されています。詳しくは 26 ページをご参照ください。

リストビュー

[SHIFT] を押しながら **PIANO SELECT [MODEL]** を回せば、ピアノサウンドをリストビューで検索することができます。

画面の最上段には現在のタイプ名（ここでは「Grand」）、タイプに含まれるモデルの総数（ここでは 9）、および現在選択されているモデルのインデックス番号（ここでは 3）が表示されます。



リストには、現在選択されているモデル（四角形で示されます）と、その前後のモデルが表示されます。

ライブラリーの情報を確認する

[SHIFT] + **[INFO]** を押すと、バージョン番号や正確なサイズといった、現在選択されているモデルに関するいくつかの追加情報が表示されます。

キーボードタッチ



Nord Piano Library のピアノはその多くが非常に広いダイナミックレンジを持っています。好みや演奏上の要求に応じて、このレスポンスは調整することができます。

HEAVY を選ぶと、ソフトかつ表情豊かな演奏に向けた重めのピアノアクションになります。**[KB TOUCH]** を押して **MEDIUM** や **LIGHT** を選ぶと、軽いタッチでラウドな演奏ができるようになります。

ダイナミックコンプレッション

[DYN COMP] ボタンでアクセスできる「ダイナミックコンプレッション」は、ピアノサウンドの最小レベルを「底上げ」し、ダイナミックレンジを減らす機能です。1、2、3 の 3 段階で設定でき、3 で最も圧縮率が高くなります。この機能は、非常にソフトに演奏したりダイナミックに演奏したりする場合でも聴き取りやすさを維持するのに役立ちます。音色のダイナミックレンジはそのまま残ります。

📍 エフェクトセクションの中にあるコンプレッサー (Comp)、すなわちサウンドのトランジェントに影響を与えるエフェクターとは異なり、ダイナミックコンプレッション機能はサウンドのキャラクターまでは変更しません。

ダイナミックコンプレッション機能はバージョン 6 のピアノサウンドのみと互換性があります。現在選んでいるピアノサウンドのバージョンを確認するには、**[SHIFT]** + **[INFO]** を押します。

アコースティクス

ソフトリリース



SOFT REL を有効にすると、アコースティックピアノのサウンドに、わずかに長い、控えめなリリース音が追加されます。これは、アコースティック楽器のダンパーのかけ具合を調整することと同じ効果です。追加されるリリース音は打鍵ごとに独立しており、演奏の抑揚に対して動的に反応します。エレクトリックピアノでは、ソフトリリースを有効にした場合、逆にリリース音が大幅に減衰します。

📌 クラビネットやハーブシコードなど、いくつかのピアノタイプではソフトリリース機能はサポートされていません。

ストリングレゾナンス

STRING RES 機能は 2 つの異なるコンポーネントからなります。

- Med, Lrg, XL サイズのグランドピアノとアップライトピアノに含まれ、サステインペダルが押し下げられたときに有効になる、専用の「ペダルダウンサンプル」。これらは実際にサステインペダルを踏みこんだ状態でサンプリングされており、オリジナルの楽器の自然なアンビエンスと音響を捉えています。
- シミュレートによるストリングレゾナンス。後から打鍵された音の周波数によって既に押さえられているキーの弦に生じる、基音もしくは倍音での共鳴です。

後者のストリングレゾナンスは Sound メニューで調整できます。56 ページをご参照ください。

📌 Sml バージョンのグランドピアノ、アップライト、およびエレクトリックピアノのように、ストリングレゾナンスに対応していないピアノが選択されている場合、機能は無効になります。

ペダルノイズ

Nord Triple Pedal や Nord Single Pedal 2 など、対応するペダルが Nord Stage 4 に接続されている場合、**PED NOISE** が利用できます。ペダルノイズが有効にされると、アコースティックピアノやエレクトリックピアノのサステインペダルを踏んだときに発生する機構上のノイズが再現されます。ペダルノイズは、サステインペダルを踏み込む勢いにダイナミックに反応します。

ペダルノイズのレベルは Sound メニューで調整できます。56 ページをご参照ください。

📌 選択したピアノがペダルノイズに対応していない場合、機能は無効になります。

Nord Triple Pedal

Nord Stage 4 は Nord Triple Pedal (Nord TP-1) および Nord Triple Pedal 2 (Nord TP-2) に対応しています。Nord TP-2 は **TRIPLE PEDAL** と書かれた専用の端子を使って接続します。

📍 Nord Triple Pedal (Nord TP-1) は **SUSTAIN PEDAL** 端子に接続します。

Nord Triple Pedal はひとつのユニットに 3 つのペダルを備えており、これを使うことで Nord Stage 4 のピアノセクション内の追加機能と、その他の多くの便利機能にアクセスすることができます。これらの設定については「Pedal メニュー」(58 ページ) をご参照ください。

Nord TP-2 を専用端子に接続する場合、追加の設定は必要ありません。サステインペダル端子に接続するタイプのペダルの場合、Pedal メニューの Sustain Pedal Type 設定で、使用しているタイプまたはモデルが選ばれていることを確認してください。

! Nord TP-1 と TP-2 の両方が Nord Stage 4 に接続されている場合、TP-1 の左側と中央のペダルは機能しなくなります。ペダルメニューにおいても、「Sustain Only」と表示されます。

サステインとハーフペダル

右側のペダルは常にサステインペダルとして機能します。Nord Triple Pedal では Nord Sustain Pedal 2 (Nord SP-2) と同様に、ペダルを半分まで踏み込む「ハーフペダル」テクニックを使えます。この場合、(仮想)ダンパーは半分だけ上がった状態となり、離鍵後の音の立ち下がりが緩やかなものになります。

ソステヌート

デフォルトでは、Nord Triple Pedal の中央のペダルはソステヌートペダルとして機能します。ソステヌートペダルを使うと、他の音をそのまましながら、特定の音だけを延ばすことができます。ペダルが踏まれた時点で押されていたキーは音が持続する一方、ペダルを踏んでいる間に新たに演奏された音は延ばされません。

🔍 中央のペダルには多数のオプション機能があります。詳しくは「Pedal メニュー」(59 ページ) をご参照ください。

ソフトペダル

デフォルトでは、Nord Triple Pedal の左側のペダルはソフトペダルとして機能します。ソフトペダルはウナコルダとも呼ばれます。ソフトペダルを踏み込んでいる間は、演奏されるすべての音の音量がわずかに小さくなり、トーンも少し落ち着いたものになります。

🔍 左側のペダルにも多数のオプション機能があります。詳しくは「Pedal メニュー」(59 ページ) をご参照ください。

ティンバー



[TIMBRE] セレクターを押すと、ピアノサウンドの周波数特性とキャラクターを素早く変更できます。

アコースティックピアノのティンバー設定

SOFT 設定は高周波成分を減衰させ、ローエンドを強調することにより、サウンドにしっとりとした質感をもたらします。

MID 設定では高音域と低音域はそれほど出さず、中域にフォーカスした「こもり」と目立つサウンドが得られます。

BRIGHT 設定は中高域を強調し、明るくきらびやかなサウンドを生み出します。

エレクトリックピアノのティンバー設定

エレクトリックピアノが選択されているときは、ティンバー設定もこれらのサウンドに合わせて特別に調整されます。

SOFT 設定は高域と「ベルっぽさ」を削り、サウンドのくっきりとパンチのある部分を残します。

MID 設定は中高域をブーストし、サウンドに鋭い存在感を加えます。

BRIGHT 設定は中音域をブーストしてきらびやかさとトレブル感を増すことで、ピアノサウンドに存在感と鮮やかさを与えます。

DYNO 1 と **DYNO 2** はどちらも、70 年代から 80 年代初頭にかけて流行した、Tine ベースのエレクトリックピアノに対するカスタムのプリアンプと EQ に基づいた設定です。どちらの設定も、エレクトリックピアノ本来の「ベル」サウンドを大幅に強化します。特に Dyno 2 セットアップでは低域もブーストされた、「ドンシャリ」サウンドが得られます。

クラビネットの設定

オリジナルのクラビネットは 4 つのロッカースイッチで内蔵 EQ をコントロールしていました。これらのスイッチによって生まれる組み合わせのほとんどが、Nord Stage 4 でも利用可能です。

選べる設定は次の通りです: Soft、Treble、Soft+Treble、Brilliant、Soft+Brilliant、Treble+Brilliant、Soft+Treble+Brilliant。

ユニゾン



UNISON 機能は隣接するキーからトランスポートして作られたボイスを使用して、ステレオユニゾン効果を生み出します。これは、エレクトリックピアノなどのモノラルソースをステレオに上げたり、アコースティックピアノにコーラスのようなきらめきを追加したりするために使えます。最も強い設定ではより大きくデチューンがかかります。ユニゾンには微妙なステレオ効果から明らかなデチューニングまで **1**、**2**、**3** の 3 つの異なる度合いがあります。

6 シンセセクション



シンセセクションについて

Nord Stage 4 シンセセクションの3つの各レイヤーは、クラシックなアナログ波形から豊富なデジタル波形、FM アルゴリズム、サンプルまで、幅広いシンセシスを提供します。

ユニゾンモードや「Super」アナログ波形を使用すると、同時発音数を圧迫することなく多数のオシレーターを使用したサウンドを作成できます。

専用のシンセディスプレイと3つのダイヤルを使用すると、波形やサンプルを探したり、エンベロープ、フィルター、およびその他のシンセの設定を行ったりできます。ディスプレイを使用して設定する機能には、対応するボタンの周囲に赤枠が印字されています。

シンセセクションを Extern モードに設定すると、ディスプレイとダイヤルは外部機器のプログラムとパラメーターの変更を制御するために使用されます。

Extern モードの詳細については、45 ページをご参照ください。

オン / オフとレベル

シンセセクションは、**SYNTH SECTION [ON]** ボタンを押すことでオンとオフを切り替えられます。レベルフェーダーでそれぞれのシンセレイヤーの出力レベルを調整します。レベルフェーダーはモーフデスティネーションに選ぶことができます。

[ON] ボタンを0.5秒程度長押しすると **SOLO** モードに入ります。ソロモードではシンセのみがオンになり、オルガンセクションとピアノセクションがオフになります。

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス

シンセセクションにはレイヤー A、レイヤー B、およびレイヤー C の3つのレイヤーがあります。他のレイヤーも一緒にオンにするには、そのすべてのレイヤーボタンを同時に押します。レイヤーをオフにするには、そのボタンを長押しします。

あるレイヤーから別のレイヤーに切り替えるには、切り替える先のレイヤーボタンを押します。両方のレイヤーがアクティブになっているとき、そのうちどちらがフォーカスされているのかがレイヤーボタン上部の LED の点滅によって示されます。

レイヤーボタンを押すとエフェクトセクションでもシンセがフォーカスされます。エフェクトフォーカスの状況は、シンセセクション上部にある **FX FOCUS** LED の点灯によっても示されます。

オクターブシフトとキーボードゾーン

[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶] を押すと、シンセレイヤーをオクターブ単位でシフトさせられます。シンセレイヤーが鍵盤全体に割り当てられている場合は、1 オクターブ上下にシフトできます。シンセレイヤーが狭いゾーンに割り当てられている場合は、利用可能なシフト幅が変わります。どちらの場合も、常にシンセの全音域にアクセスできます。

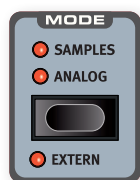
[SHIFT] + [KB ZONE ◀ / ▶] を押すと、フォーカスされているシンセレイヤーをアクティブなキーボードゾーンのいずれかに割り当てることができます。レイヤーがどのゾーンに割り当てられているのかは、緑色の LED によって示されます。スプリットの設定方法とキーボードゾーンの割り当ての詳細については、「スプリット」(38 ページ) をご参照ください。

サステインペダルとピッチスティック

[SHIFT] + [SUSTPED] を押すと、フォーカスされているシンセレイヤーに対してサステインペダルが有効になります。ペダルの接続と設定の方法については、「Pedal メニュー」(58 ページ) をご参照ください。

[SHIFT] + [PSTICK/RNG] を押すと、フォーカスされているシンセレイヤーに対してピッチスティックが有効になります。ピッチバンドの幅はボタンを長押ししてディスプレイのリストから値を選ぶことで半音単位で設定できます。

シンセセクションのモード



Nord Stage 4 のシンセセクションは、サンプル (**SAMPLE**)、アナログ (**ANALOG**)、およびエクスターナル (**EXTERN**) の 3 つの異なるモードで使用できます。Extern モードを使えば、外部機器の高度な MIDI コントロールが可能になります。Extern 機能については 45 ページをご参照ください。

シンセプリセット

Nord Stage 4 は、エフェクトを含めて完結した即戦力のシンセプリセットが豊富に用意されています。プログラムセクションの **PRESET LIBRARY [SYNTH]** ボタンを押せば、これらのブラウズおよびロードができます。自分で作成したサウンドもプリセットライブラリーに保存できるため、どのプログラムがロードされているかにかかわらず、素早く簡単に呼び出すことができます。

プリセットライブラリーの詳細については、40 ページをご参照ください。

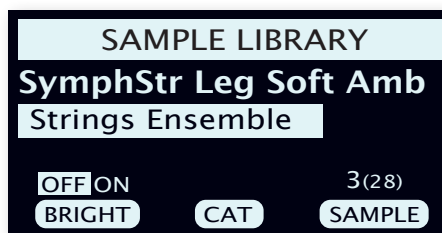
Sample モード

Nord Stage 4 には、Nord Sample Library 4 のサンプルが幅広いカテゴリーにわたって豊富に収録されています。

サンプル用に 1 GB の内蔵メモリが搭載されており、Nord 公式サイトからダウンロードしたサンプルを追加することができます。Nord Sample Editor 4 ソフトウェアを使用してカスタムサンプルを作成し、それを Nord Stage 4 内へダウンロードすることもできます。詳細については 63 ページをご参照ください。

サンプルのブラウズと選択を行うには、**[WAVEFORM]** を押してから、ディスプレイに表示される **CAT** ダイアルと **SAMPLE** ダイアルを使用します。

左側のダイアルをオンにすると、ダイナミックな **BRIGHT** フィルターを有効にし、サンプル楽器の高周波数成分を簡単に強化することができます。これは、たとえば他のサンプルやシンセサウンドとレイヤーする場合など、サウンドをより「ポップ」にするのに便利です。



[SHIFT] を押しながら **Cat** ダイアルや **Sample** ダイアルを回すと、サンプルをリストビューで検索することができます。

INFO (Shift+ 左ダイアル) を回すと画面が切り替わり、カテゴリー名の代わりにバージョン番号や正確なサイズが表示されます。

サンプルごとのプリセット値

Nord Sample Library 4 の各サンプルには、アンプのエンベロープやベロシティに関する設定といった、いくつかのシンセパラメーターがプリセットとして保存されています。これらの設定は通常、サンプルが読み込まれたときに適用されます。これに伴いフィルターはオフになり、アクティブな LFO 設定も無効になります。

パラメーターはそのままにサンプルだけを入れ替えるには、Waveform ボタン (**KEEP EDITS ▼** と書かれています) を押したまま Sample ダイアルを回します。

Natural、No Dyn、Fast Atk

サンプルのカスタマイズのためのその他のオプションは、**PITCH/SMP** メニューに入って右側のダイアルを回すことで選択できます：

- ・ **Natural** では、サンプルは自身が持つベロシティレスポンス通りに再生されます。これにはフィルターやその他のダイナミクスコントロールを含みますが、そのいずれも本体パネルからはアクセスできません。
- ・ **No Dyn** では、先述のベロシティレスポンスが無効になります。
- ・ **Fast Atk** では、サンプルのスタートポイントを別のものに切り替えます。ほとんどの場合では、自然にできたアタック部分を無視して波形の途中から再生します。

Analog モード

アナログモードでは、クラシックなアナログ波形とリッチなウェーブテーブルの両方に加え、複数の FM アルゴリズムにアクセスできます。さらに、さまざまなタイプのノイズと「ベル」アルゴリズムまでカバーします。

Osc Ctrl

オシレーターコントロール (**OSC CTRL**) ノブは、サウンドをさまざまな方法で変更するために使用します。Osc Ctrl パラメーターは現在選択されている波形に応じてその内容が変わります。Osc Ctrl はオシレーターエンベロープや LFO、またはモーフ機能によるモジュレーションをかけることができます。特にモーフ機能を使用した場合には、ホイール、アフタータッチ、およびペダルによるリアルタイムなコントロールが可能になります。

波形を選ぶ

[WAVEFORM] ボタンを押すといくつかの波形のタイプが表示されます。左側の **TYPE** ダイアルで選びます：

Analog: 基本的なシングルオシレーター構成から、一般的なデュアル / マルチオシレーター構成、ノイズやその他のさまざまな波形に至るまでをカバーするアナログスタイルの波形です。

FM-H (FM ハーモニック) : FM (Frequency Modulation) 合成アルゴリズムのコレクションです。FM-H モードでは、モジュレーターとキャリアの周波数比が整数倍になっています。そのため、ピッチ感の強い、昔ながらのサウンドに適しています。

FM-I (FM インハーモニック) : FM-H 同様のアルゴリズムですが、モジュレーターとキャリアの周波数比のほとんどが不協和であり、実験的な響きを作るのに適しています。







Wave: 幅広い音色特性をカバーする、複雑なデジタル波形です。

中央の **Category** ダイアルでオシレータータイプ内のカテゴリを選択し、右側の **Waveform** ダイアルで目的の波形を選択します。[SHIFT] ボタンを押しながら **Waveform** ダイアルを回すと、波形またはサンプルがリストビューで表示されます。

Analog





















ピュア (Pure)

Pure カテゴリには、[OSC CTRL] ノブで変更できるパラメーターを持たないこれらの波形が含まれています：

Sine	
Triangle	
Saw	
Square	
Pulse 33	
Pulse 10	

シェイプ (Shape)





























Shape カテゴリに含まれている波形は、[OSC CTRL] ノブで次のように変化します：

		Osc Ctrl = 0	Osc Ctrl = 5	Osc Ctrl = 10
Triangle				
Saw				
Square				
Half Sine				
Parabolic				

🔍 Square 波形は Osc Ctrl の値を大きくすると、矩形波 (50% パルス) からデューティ比が小さく「狭い」パルス波に変わります。LFO やオシレーターエンベロープで Osc Ctrl を変調すると、パルスウィズモジュレーション特有のサウンドが得られます。

シェイプサイン (Shape Sine)

Shape Sine カテゴリに含まれている波形は、Osc Ctrl の値を大きくするごとに、純粋な正弦波から選択した波形へと徐々に変化します：

		Osc Ctrl = 0	Osc Ctrl = 5	Osc Ctrl = 10
Pulse				
Saw				
Square				
Squeeze				
Fold				
ESaw				
ESquare				

マルチオシレーター (Multi)

Multi カテゴリにはマルチオシレーター波形のコレクションが含まれています。すべての場合において、[OSC CTRL] ノブはオシレーター間のデューティ量を制御します。

Dual Saw: 1 オクターブ離れた 2 つの鋸歯状波。

Dual Saw 5th: 片方が 5 度離れた 2 つの鋸歯状波。

Dual Saw 5th+: 片方が 1 オクターブと 5 度離れた 2 つの鋸歯状波。

Triple Saw: 1 オクターブずつ離れた 3 つの鋸歯状波。

Triple Saw 5th+: 基音そのままのものと、1 オクターブと 5 度離れたものと、1 オクターブ下のものと重なった 3 つの鋸歯状波。

スーパー (Super)










Super Saw, Super Square, Super Bright, Super Organ: 多くのオシレーターが重なったものをシミュレーションし、非常に贅沢で分厚いサウンドを作ります。ユニゾンモードを使うと、オシレーターの数とステレオの広がりが増します。

シンク (Sync)

「オシレーターシンク」とは、片方のオシレーターの 1 周期ごとにもう片方のオシレーターの波形の頭を強制的にリセットさせることを指します。オシレーターシンクを適用すると、オシレーター 1 (同期をかけられる側) の基本ピッチはオシレーター 2 (同期をかける側) の基本ピッチと同化します。オシレーター間の音程が離れるほど、音は激しく変化します。

モーフ機能やオシレーターエンベロープを活用して [OSC CTRL] ノブにモジュレーションをかけると、倍音成分が連続的に変化する「シンクリード」サウンドが得られます。

このカテゴリの「チョップ」波形は、シンクされた波形に鋸歯状波または矩形波による「ウィンドウ」を適用し、生成されるサウンドに人の声のようなクセを与えます。

Sine	
Triangle	
Saw	
Square	
Pulse 33	
Pulse 10	
Chop Saw	
Chop Saw 2	
Chop Square	

ベル (Bell)

振幅変調による、ベルのような響きの複雑な波形です。**[OSC CTRL]** ノブでモジュレーターのパッチを制御します。モジュレーターのパッチによって、波形の倍音成分とキャラクターが変わります。

ノイズ (Noise)

これら 3 つのノイズジェネレーターが利用可能です：

White: すべての周波数でスペクトル密度が等しいランダム信号。

Pink: 周波数が高くなるほどスペクトル密度が減少するノイズ。ホワイトノイズよりも「ソフト」な響きです。

Red: さらに低域のエネルギーが多く、高周波が減衰しているノイズ信号です。

Wave

これらの波形は、他のオシレータータイプでは到達できないバラエティ豊かな音色を作り出すために、慎重に設計、選択されています。高度なシンセサイズ技術により、鍵盤全体にわたってこれらの波形が完全に再現されます。

■ [OSC CTRL] ノブは Wave カテゴリーの波形には効果を持ちません。

アコースティック楽器から抽出されたもの、スペクトルの組み合わせ、柔らかく小さい基音と明るく鋭い倍音によるものといった、さまざまな音響特性を幅広くカバーしています。

FM

周波数変調 (FM) シンセシスの基本原理は、ある正弦波オシレーター (モジュレーター) がもう片方のオシレーター (キャリア) を変調することです。モジュレーションを受けたオシレーターがさらにモジュレーターとなって、別のオシレーターに変調をかけることもできます。得られる波形は、元の正弦波よりもはるかに豊富な高周波成分を持つこととなります。変調の強さを変えることで音色も大幅に変化します。

伝統的に、FM シンセシスにおけるオシレーターは「オペレーター」と呼ばれます。Nord Stage 4 の FM カテゴリーは 2、3、4 オペレーター構成 (ユニゾンを使用する場合は 8 オペレーター) のアルゴリズムを提供します。

FM カテゴリーのすべての場合において、Osc Ctrl パラメーターは変調の強さを制御します。

ハーモニック (Harmonic)

Harmonic カテゴリーでは、**Partial** パラメーターはモジュレーターとキャリアの周波数比を倍率で指定するはたらきを持ちます。

設定にかかわらずモジュレーターとキャリアが倍音関係を維持するため、ピッチ感のある FM サウンドに適しています。

利用可能な **Partial** の範囲は 0.5 から 24 までです。

FM Harmonic A: 周波数比が P:1 の、2 オペレーターアルゴリズムです。

FM Harmonic B: 周波数比が P:1:1 の、3 オペレーターアルゴリズムです。2 つのモジュレーターのうち、後段側より前段側の方が強く変調します。

FM Harmonic C: 周波数比が P:3:1 の、3 オペレーターアルゴリズムです。

FM Harmonic D: 周波数比が P:1:1 の、3 オペレーターアルゴリズムです。2 つのモジュレーターのうち、前段側より後段側の方が強く変調します。

FM Harmonic E: 周波数比が P:1 のオペレーター 2 つと、周波数比が 1:1 のオペレーター 2 つを組み合わせ、4 オペレーターアルゴリズムです。ベルやエレクトリックピアノといったサウンドに特に適しています。

インハーモニック (Inharmonic)

Inharmonic カテゴリーでは、**Partial** パラメーターはモジュレーターとキャリアの周波数比を半音差で指定するはたらきを持ちます。

ほとんどの場合モジュレーターとキャリアは不協和音程にあたるため、ピッチ感が薄く、実験的な FM サウンドが得られます。

利用可能な **Partial** の範囲は -12 から 48 までです。

FM Inharmonic A: 周波数比が P:1 の、2 オペレーターアルゴリズムです。

FM Inharmonic B: 周波数比が P:1:1 の、3 オペレーターアルゴリズムです。2 つのモジュレーターのうち、後段側より前段側の方が強く変調します。

FM Inharmonic C: 周波数比が P:3:1 の、3 オペレーターアルゴリズムです。

FM Inharmonic D: 周波数比が P:1:1 の、3 オペレーターアルゴリズムです。2 つのモジュレーターのうち、前段側より後段側の方が強く変調します。

FM Inharmonic E: 周波数比が P:1 のオペレーター 2 つと、周波数比が 1:1 のオペレーター 2 つを組み合わせ、4 オペレーターアルゴリズムです。

フィルターセクション

フィルターは音色を形成する上で重要なコンポーネントです。LFO やフィルターエンベロープによって変調することができます。

ほとんどのフィルターは同じパラメーターを共有します：**FREQ** はカットオフ周波数を、**RES** はフィルターレゾナンスをコントロールします。唯一の例外は LP+HP フィルターの組み合わせであり、このとき Res ノブは HP フィルターのカットオフ周波数をコントロールするようになります。

フィルターのタイプ

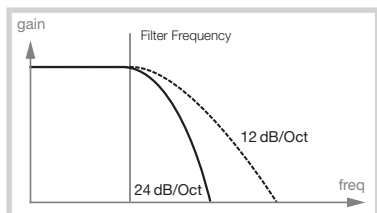
フィルタータイプ、フィルターキーボードトラッキング、およびフィルタードライブの設定には、シンセディスプレイを使用します。

LP24 および LP12

FREQ で設定した周波数を超える成分を減衰させ、それ以下の周波数成分を残します。

LP12 は 12 dB/オクターブのローパスフィルターです。**LP24** よりも多くの倍音を残します。12 dB フィルターは 2 ポールフィルターと呼ばれることもあります。

LP24 は、よりクラシックな「シンセフィルター」です。1 オクターブあたり 24 dB と、鋭く倍音をカットします。24 dB フィルターは 4 ポールフィルターと呼ばれることもあります。



どちらの LP フィルターも、レゾナンスコントロールを使用することでカットオフ周波数付近の成分を強調し、サウンドに薄さや癖をつけることができます。

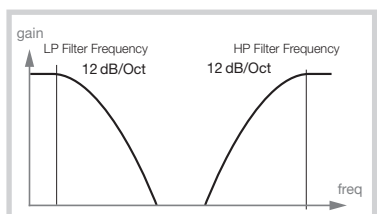
LPM

LPM フィルターは有名な Mini のトランジスタフィルターをエミュレーションしたものです。この広く人気を博している画期的なフィルターは、1960 年代にロバート A. モーグ (Robert A. Moog) 博士が発明し、特許を受けたものです。

「The M フィルター」は 4 ポールつまり 24 dB/オクターブの、レゾナンス付きローパスフィルターです。従来の 24 dB/オクターブのローパスフィルターよりもローエンドが色濃く出る M フィルターのレゾナンスは、このフィルターをこのフィルターたらしめている要素のひとつです。

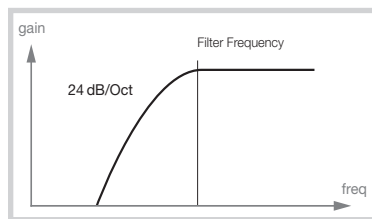
LP+HP

ローパス + ハイパスフィルター (**LP+HP**) では、12 dB のローパスフィルターと 12 dB のハイパスフィルターが並列で使われます。Filter Freq ノブは LP フィルターのカットオフ周波数を、Resonance ノブは HP フィルターのカットオフ周波数を制御します。



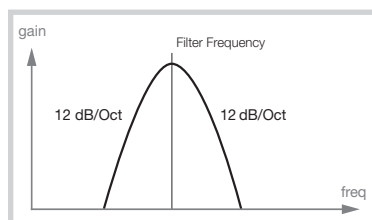
この組み合わせは、あらゆるソースの音作りに役立ちます。2つのカットオフ周波数の間の範囲をカットしたり、逆に両方のカットオフを近づけて特定の周波数帯域を強調したりできます。

HP



HP (ハイパス) フィルターを使うと、**FREQ** で設定した周波数を下回る成分が減衰させられ、それ以上の周波数成分が残ります。つまり、HP 設定ではフィルター周波数の値が大きくなるほどサウンドが薄くなります。

BP



BP (バンドパス) フィルターは **FREQ** で設定した周波数に近い成分のみを通し、それを超える周波数成分と下回る周波数成分を減衰させます。これは「鼻にかかったような」と形容される、非常に癖のあるサウンドを生成するために使用できます。

キーボードトラッキング

「キーボードトラッキング」パラメーターはフィルタータイプ画面を開いて中央のダイヤルを回すことで設定できます。

キーボードトラックを制御する理由は、フィルターの基本的な性質によるものです。演奏するピッチが上がると、当然倍音の周波数も上がります。カットオフ周波数が一定の（そしてローパスフィルターを使っている）場合、音域が上がるにつれてサウンドは「こもって」しまいます。この影響を回避するために、**KBD TRK** を使用します。

キーボードトラッキングの設定

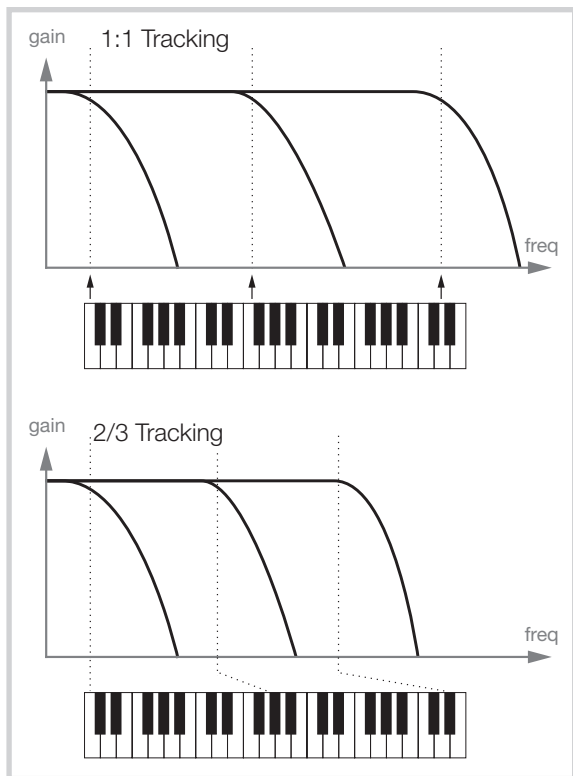
Off: カットオフ周波数は演奏するキーの音高に関係なく、一定です。

1/3: カットオフ周波数は演奏するキーの音高に対して 1:3 の割合で追従します。弾いた音が 1 オクターブ高くなるごとにカットオフ周波数も 1/3 オクターブ分上昇します。

2/3: カットオフ周波数は演奏するキーの音高に対して 2:3 の割合で追従します。弾いた音が 1 オクターブ高くなるごとにカットオフ周波数も 2/3 オクターブ分上昇します。

1: カットオフ周波数は演奏するキーの音高に対して 1:1 の割合で追従します。

鍵盤上のポジションとカットオフ周波数の関係を、1:1 のときと 2/3 のときで示した図が次のものです：



フィルタードライブ

DRIVE を有効にすると、フィルター段で歪みを加えることができます。1、2、3 の設定がそれぞれ低、中、高のドライブ量を表します。

🔗 レゾナンスを効かせたサウンドにフィルタードライブを使ってみましょう。面白く楽しい結果を得られるはずです。

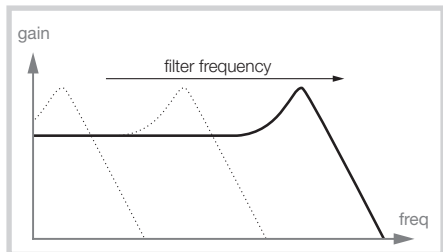
グループ

[SHIFT] + [GROUP] を押すと現在のフィルター設定がすべてのシンセレイヤーに適用され、編集が同期されるようになります。

フィルター周波数



[FREQ] ノブはカットオフ周波数のポイント、つまりどの周波数帯域からフィルター処理の対象にするかを決定するために使います。この処理の実際の結果は、使用するフィルターの種類によって異なります。Freq ノブはモーフェスティネーションに選ぶことができます。



上の画像は、3つの異なるフィルター周波数設定を適用したローパスフィルターと、それらがどのように周波数成分を減衰させ、あるいは残すかを示したものです。スロープの左側の領域は、フィルターを通過する周波数成分を示します。スロープの右側の領域は、減衰させられる周波数成分です。「こぶ」のようなものは、レゾナンス設定を示します。

フィルターレゾナンス



レゾナンス (**[RES]**) ノブは、フィルターの特性をさらに調整するために使います。レゾナンスを上げるとカットオフ周波数付近の周波数成分が強調され、薄い響きのサウンドになります。Res ノブはモーフェスティネーションに選ぶことができます。

さらにレゾナンスを上げると、フィルターが自己発振を始めます。このとき生成されるサウンドをリングングピッチと呼びます。周波数スペクトルのどこでリングングが生じるかは、フィルター周波数によって異なります。

FREQ HP との添え書きが示す通り、LP+HP フィルターを使用する場合には、**[RES]** ノブは HP フィルターの cutoff 周波数をコントロールするものとなります。

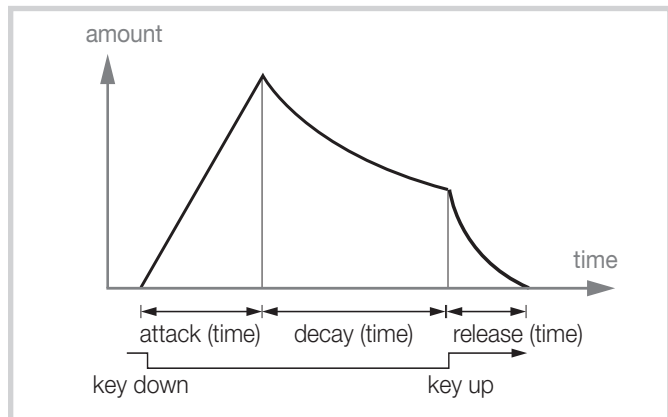
エンベロープアマウント



[ENV AMT] ノブは、フィルター周波数が時間の経過とともにどのように変化するかを決定する、フィルターエンベロープの変調量、「効き具合」を制御します。

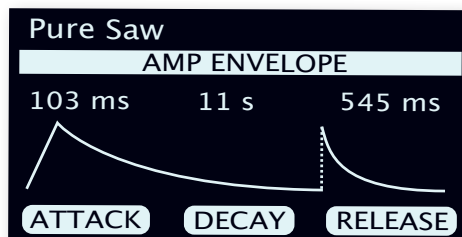
エンベロープ

エンベロープは、打鍵してから離鍵するまでの、つまり時間経過に伴うサウンドの変化を形作るために使用されます。下の図はアタック、ディケイ、およびリリースの各パラメーターが持つ役割を表したものです。



Nord Stage 4 は **OSCILLATORS**、**FILTER**、**AMP** の3つにそれぞれエンベロープを持っており、これらには **[ENVELOPE]** ボタンを押すことでアクセスできます。

すべてのエンベロープはシンセディスプレイに表示されます。また、画面下の3つのダイヤルでアタック、ディケイ、およびリリースタイムを設定します。



アタック、ディケイ、およびリリースタイム

すべてのエンベロープはアタック、ディケイ、およびリリースタイムの設定を持っており、そのふるまいの基本はすべての場合において同じです。

アタック (Attack)

アタックタイムとは、キーが押されてからエンベロープによる効果が最大に達するまでにかかる時間のことです。**ATTACK** ダイアルを右に回すとアタックタイムが長くなります。

ディケイ (Decay)

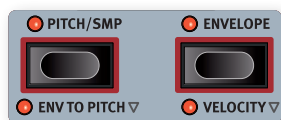
アタックフェイズが終了し、キーが押されたままになると、エンベロープによる効果はゼロに向かって下がり始めます。**DECAY** ダイアルを使用してこれにかかる時間を調整します。最大まで右に回すとエンベロープはサステインモードになり、キーが放されるまで最大値にとどまります。

リリース (Release)

キーが放されると、エンベロープの段階はリリースに移ります。

RELEASE ダイアルを回すと、エンベロープが最小値に達するまでにかかる時間、リリースタイムを調整できます。

オシレーターエンベロープ



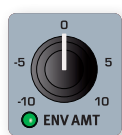
オシレーターエンベロープはデフォルトでは Osc Ctrl パラメーターに適用されますが、**ENV TO PITCH** を有効にすることでオシレーターのピッチを変更するよう設定することもできます。

Osc Ctrl への変調に使用すると、選択した波形に応じた、さまざまな時間的変化を実現できます。

ベロシティ

VELOCITY をオンにするとオシレーターエンベロープの強さがベロシティによって制御されるようになります。より強く演奏すると、エンベロープは宛先のパラメーターをより強く、大きく変調します。

エンベロープアマウント



エンベロープアマウントは、オシレーターエンベロープによって Osc Ctrl やピッチに適用されるモジュレーションの量のことです。

[ENV AMT] ノブはバイポーラーです。つまり、時計の 12 時の方向をゼロとして、時計回りと反時計回りの両方に回すことができます。時計回りに回すと、エンベロープに従って Osc Ctrl やピッチの値は増加します。反時計回りに回すと、エンベロープによる上下の動きは反転します。

フィルターエンベロープ

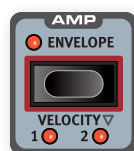
フィルターエンベロープはフィルターのカットオフ周波数を変調します。このモジュレーション量も Env Amt でコントロールします。

ベロシティ



VELOCITY をオンにするとフィルターエンベロープの強さがベロシティによって制御されるようになります。より強く演奏すると、エンベロープはカットオフ周波数をより強く、大きく変調します。

アンプエンベロープ



シンセサイザーの信号の流れの最終段には、ボリュームを制御するためのアンプ (**AMP**) 部が置かれています。アンプをエンベロープで変調することにより、サウンドには時間経過とともに変化する、基本的な「包絡線」ないし「輪郭」が与えられます。実際に、音量による輪郭は音を識別する上で最も重要な要素のひとつです。適切なボリュームエンベロープを設定することで、「柔らかい」、「硬い」、「はじかれた」、「不動」、といった印象のサウンドを思い思いに作るすることができます。

ベロシティ

VELOCITY をオンにすると、そのシンセレイヤーの出力レベルがベロシティによって制御されるようになります。ベロシティへの反応の度合いには、LED 消灯を含む 4 つの設定が用意されています。

LFO



LFO、つまり低周波発振器 (Low Frequency Oscillator) は非常に低い周波数の信号を発生させます。LFO は通常、可聴音域のシンセサイズには使用されません。Nord Stage 4 では、LFO からの出力はオシレーターの Osc Ctrl パラメーターやフィルター周波数など、他の機能のモジュレーションに使用されます。LFO の速さは **[RATE/TIME]** ノブで設定します。なお、Rate/Time ノブはモーフデスティネーションに選ぶことができます。

[MOD AMT] ノブは LFO のモジュレーション量を制御し、次のいずれかの宛先に割り当てることができます。Mod Amt ノブもモーフデスティネーションに選ぶことができます：

OSC CTRL: 選択されている波形タイプに応じて異なる効果が得られます。例えば、Shape または Shape Sine 構成を選んでいる場合、それぞれの Shape パラメーターが LFO によって周期的に変調されます。

OSC PITCH: LFO でピッチをターゲットにするとビブラートが付与されます。三角波を使用したさりげないものから、他の波形や大きなモジュレーション量を使用したより極端な効果音まで、あらゆるものを作成できます。

FILTER: 選択したフィルターのカットオフ周波数を変更します。

LED をすべて消灯させることで、他の設定をそのまま維持したまま LFO をオフにすることができます。





マスタークロック

[SHIFT] を押しながら **[RATE/TIME]** ノブを時計回りに回すと、LFO の速さがマスタークロックに同期します。

LFO がマスタークロックに同期している場合、Rate ノブの値はマスタークロックのテンポに対し何分割した音符に相当するか、つまり音価で示されるようになります。1/2 はクロックのテンポに対する 2 分音符、1/4 は 4 分音符、1/8 は 8 分音符です。この機能の詳細については「マスタークロック」(39 ページ) をご参照ください。

LFO 波形

LFO [WAVEFORM] を押すと、シンセディスプレイ下の対応するダイヤルを使用して LFO の波形を選択できます：

波形	説明
	三角波 自然なビブラートとクラシカルなパルスウィズモジュレーションに適しています。
	鋸歯状波 1 下り坂を描くモジュレーションです。
	鋸歯状波 2 上り坂を描くモジュレーションです。
	矩形波 急激な変化をつけるモジュレーションに使用します。トリルや特定のスタイルのトレモロに適しています。
S/H	サンプル & ホールド スムーズなランダムモジュレーションを生み出します。

[SHIFT] + [GROUP] を押すと、現在の LFO 設定がすべてのシンセレイヤーに適用され、すべての LFO の位相とデスティネーションが同期されます。

ボイス



Nord Stage 4 シンセサイザーには、モノフォニックまたはポリフォニックでの演奏のためのさまざまなボイスモードがあります。それらは **VOICE** エリアで選択できます。

モノとレガート

MONO モードおよび **LEGATO** モードでは、従来のモノフォニックシンセサイザーと同様に、一度にひとつの音のみが演奏できます。2 つのモードの主な違いは、レガート演奏時、つまり演奏中に後から別の打鍵が生じた場合のエンベロープのふるまいにあります。

モノモードではディケイやリリースに入った場合、エンベロープは前の音と同じくアタックから再生します。レガートモードでは、レガートで演奏し続ける限り、ディケイポイントに到達してもエンベロープはアタックフェイズに戻りません。

もうひとつの違いは、レガートモードではレガートで演奏する場合にのみグライドが有効になることです。つまり、レガートモードでグライド効果を得るには、前のキーを放す前に新しいキーを押す必要があります。

モノとレガートの LED がいずれも点灯していない場合は、そのシンセレイヤーはデフォルト通りポリフォニックで発音します。

Lo および Hi 優先モード

LO 優先設定が有効な場合、指で押さえ続けたり、ペダルで延ばしたりしている最低キーより上の音はまったく演奏されません。これは、鍵盤の最低音にモノフォニックベースサウンドを維持しながら、レイヤーでコードを演奏するのに有用です。

逆に、**HI** に設定すると、指で押さえ続けたり、ペダルで延ばしたりしている最高キーより下の音が発音されなくなります。この機能の使用例には、レイヤーでコードを演奏しつつそのトップノートで単旋律のメロディを弾くことが挙げられます。

I Lo および Hi の設定が適用されるのはモノボイスモードとレガートボイスモードに限られます。ポリフォニック演奏には影響を及ぼしません。

グライド

グライド (**GLIDE**) を有効にすると、演奏時にある音からある音へピッチを滑らかに「グライド」させます (一般的には「ポルタメント」とも呼ばれます)。グライド機能はモノモードとレガートモードでのみ使用できます。グライドのピッチ変化の特性は「固定レート」と表現できます。これは、2 つの音の音程が離れるほど、グライド時間が長くなることを意味します。Glide ノブを時計回りに回すと、グライドにかかる時間が増加します。

ユニゾン

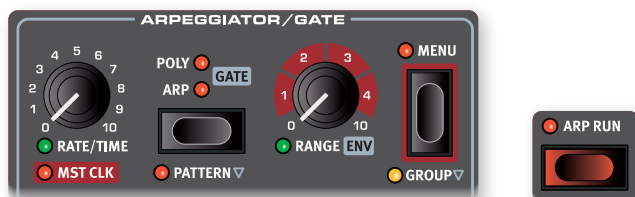


Nord Stage 4 のオシレーターは、控えに追加のオシレーターを多数擁しています。これを有効にして元のサウンドに加えることで、太くクラシックなシンセサイザーサウンドを生み出せます。ユニゾン機能を使用しても、同時発音数は圧迫しません。**UNISON** 設定を **1** にすることは、クラシックな 2 オシレーター構成によるデチューンとわずかなステレオ感の付与に相当します。**2** や **3** ではさらに多くのオシレーターが追加され、ステレオイメージがさらに広がります。

ユニゾンとサンプル

サンプルモードにおけるユニゾン機能は、リアルなアンサンプルサウンドをもたらすよう特別に調整されています。これは、隣接するサンプルをもとに、わずかにデチューンしながらステレオにパンニングしたものを複数組み合わせることで実現されています。

アルペジエーター / ゲート



[ARP RUN] ボタンを押すとアルペジエーター / ゲート (**ARPEGGIATOR/GATE**) がオンになります。**[SHIFT] + [GROUP]** をアクティブにすると、すべてのレイヤーが同じ設定を共有するようになります。

Nord Stage 4 のアルペジエーター / ゲートセクションでは、次の 3 つのモードが利用可能です。

アルペジエーター

Arp モードでは、ホールドされた音が順番に連続して再生され、ひとつのパッセージの線を形作ります。

ポリフォニックアルペジエーター

Poly モードでは、和音はまとめて繰り返し再生されます。Range の設定が大きいときは、ホールドされたコードは反転されながら、Direction 設定に従って順番に演奏されます。

リズムミックゲート

Gate モードでは、Rate 設定と選択されたパターン (Pattern がオンの場合) に従って、持続音のサウンドレベルがリズムカルに開いたり閉じたりを繰り返します。かかり方の強さ、あるいはゲートの「硬さ」は、ENV (エンベロープ) パラメーターによって決まります。

パターン

3 つのアルペジエーター / ゲートモードはすべて、パターン (**PATTERN**) 設定を使用できます。パターンをオンにするとアルペジオの音符またはゲートのステップが、選択したパターンで定義されたリズムに従います。

利用可能なプリセットパターンのセットとは別に、さまざまな長さのカスタムパターンを作成できます。パターンは、Arp、Poly、および Gate の各モードで使用できます。

パターンはアルペジエーターメニューで選択または定義します。パターンと他のすべてのメニューの機能については、後述の説明をご参照ください。

レンジ / エンベロープ

アルペジオの範囲、音域は **[RANGE]** ノブによって決まります。ゼロに設定すると、アルペジオはキーボードで演奏された実際の音のみを使用します。ポリモードでは、これは、ノートもしくはコードをそのまま連打することと同じになります。1 から 4 までの範囲の、オクターブちょうどを単位とした範囲とは別に、各オクターブ間の値を指定することも可能です。例えば、2 オクターブと 5 分の 1 の範囲、といった設定もできます。

ゲートがアクティブになっている場合、このノブはゲートのエンベロープ (**ENV**) を制御します。ゼロの位置ではエンベロープは非常にソフトに効き、ゆるやかなトレモロのようにふるまいます。最大の位置ではエンベロープは非常にハードに効き、テンポとパターンに従ってサウンドがくっきりオンまたはオフになるのを繰り返します。

アルペジエーターメニュー

アルペジエーターメニューには 5 つのページがあります。最初のページは一般的なアルペジエーター設定に使用します。残りの 4 つのページはすべてパターン機能に関連しています。



中央のダイヤルと右側のダイヤルは各ページの項目を設定するために使用し、左側のダイヤルはページ間の移動に使用します。

1 — 方向設定とジグザグ設定

デフォルトではアルペジオの方向 (**DIRECTION**) は **UP** に設定されています。他には **DOWN**、**UP/DOWN**、および **RANDOM** が選べます。Gate を使用しているとき、このパラメーターは何の効果も持ちません。

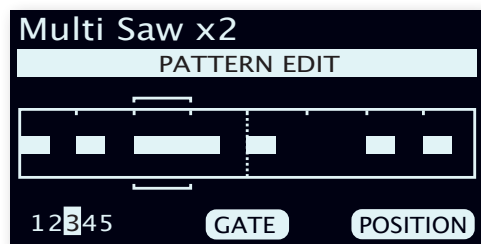
2 — プリセットパターンとパターンの長さ

多数搭載されているプリセットパターンを **PRESET** ダイヤルで選べます。これらはモノラルモードとステレオモードのそれぞれで、単純なリズムと複雑なリズムの両方を提供できるように設計されています。これらのパターンはそのまま使用することも、アルペジエーターメニューの各ページを使用してカスタマイズしてから使用することもできます。

パターンのステップ数は、**LENGTH** ダイヤルを使って 2 から 16 までの間で設定します。

3 — パターンのエディット

POSITION ダイヤルでカーソルを前後に動かし、**GATE** ダイヤルを使用してステップの追加や削除、ステップの長さの変更を行います。



4 — パターンのアクセント

POSITION ダイヤルでカーソルを前後に動かし、**ACCENT** ダイヤルを使用してステップにアクセントを付与します。アクセントが付与されたステップには三角形のインジケーターがグリッドの上に表示されます。

! Arp モードや Poly モードで実際にアクセントの効果を得るためには、Amp Velocity や Filter Velocity のような、ペロシティに反応させるパラメーターを有効にする必要があります。

5 — パターンのパン

POSITION ダイヤルでカーソルを前後に動かし、**PAN** ダイヤルを使用して左、中央、右のどこからそのステップの音を鳴らすかを決めます。

アルペジエーターレート / タイム



[RATE/TIME] ノブでアルペジオの速度を設定します。ディスプレイには 1 分あたりの 4 分音符の拍数、beats per minute (BPM) として表示されます。

- ❗ アルペジエーターは指定されたテンポで 8 分音符を演奏します。これはパターン の 1 ステップに相当します。

アルペジエーターマスタークロック

[SHIFT] を押しながら **[RATE/TIME]** ノブを時計回りに回すと、アルペジエーターとゲートの進みの速さがマスタークロックに同期します。

LFO がマスタークロックに同期している場合、Rate ノブの値はマスタークロックのテンポに対し何分割した音符に相当するか、つまり音価で示されるようになります。1/2 はクロックのテンポに対する 2 分音符、1/4 は 4 分音符、1/8 は 8 分音符です。「T」と記載のあるものは 3 連符を示します。この機能の詳細については「マスタークロック」(39 ページ) をご参照ください。

キーボードホールド



キーボードホールド (**KB HOLD**) モードを使用すると、鍵盤からすべての指を離しても音が鳴り続けます。これは、アルペジオを演奏させ続ける場合、または両手で何かを弾きながらコードやドローンを持続させる場合に役立ちます。

デフォルトでは、KB Hold はシンセセクションのすべてのレイヤーに影響します。レイヤーを KB Hold に含めない場合は、そのレイヤーを **EXCLUDE** で除外します。

- 💡 KB Hold がオンの場合、シンセセクションがオフになっても LED は点灯したままになります。シンセセクションのオン / オフが異なるレイヤーシーン間を切り替える場合や、KB Hold を使用した後にシンセセクションをオフにする場合には、都度必要に応じて KB Hold LED を確認するとよいでしょう。

ビブラート



ビブラート (**VIBRATO**) はオシレーターのパッチを変調して、自然な響きのビブラート効果を生み出します。

ビブラートセクションのセレクターボタンを押すと、ビブラートのかかり方を 5 つの設定の中から選べ

ます：

- ・ **ON** では、キーを押すとすぐにビブラートがかかります。
- ・ **DLY** では、キーが押されてから少し遅れてビブラートがかかります。
- ・ **WHL** では、モジュレーションホイールでビブラートの深さを調整します。
- ・ **A.T.** では、アフタータッチ、すなわちキーを押してからさらに押し込むことによってビブラートがかかります。
- ・ **PED** では、ビブラートをかけるかどうかを Pedal メニューで選んだフットスイッチ、もしくは Nord Triple Pedal の左側または中央のペダルでコントロールします。詳しくは「Pedal メニュー」(58 ページ) をご参照ください。

ビブラートメニュー

ビブラートメニューではシンセディスプレイの下の 3 つのダイヤルを使用して、ビブラートの速さ (**RATE**)、深さ (**AMOUNT**)、およびディレイタイム (**DLY TIME**) を設定できます。Rate パラメーターは 2.0 Hz から 8.0 Hz まで、Amount パラメーターは 0 から 10 までの値を設定できます。



- ❗ Delay Time パラメーターは 0.2 秒、0.7 秒、1.2 秒、2.0 秒の 4 つの選択肢を持ちます。Delay Time パラメーターは **DLY** モードでのみ有効です。

ビブラートとサンプル

Nord Sample Library 4 のサンプルには、ビブラートに関する調整項目があらかじめ事細かく設定されています。

一般に、サンプルのビブラートは各楽器の種類に応じて可能な限りリアルで自然に聞こえるように設計されています。サンプルがプリセット設定で読み込まれるときには、ビブラートレートもプリセット値に設定されます。

キーボードシンク

キーボードシンク (**KB SYNC**) モードでは、すべてのキーが放されてから新しく鍵盤が弾かれるたびに、アルペジエーターおよびゲートがリセットされます。KB Sync がオフの場合、アルペジエーターおよびゲートのタイミングは現在のテンポ設定に基づいた内部の「グリッド」に準拠します。

MST CLK が有効になっている場合、この KB Sync パラメーターはマスタークロックがリセットされるかどうか、ひいては LFO やディレイなどプログラム全体でマスタークロックに同期されているすべてのパラメーターに影響を及ぼします。詳細については、「マスタークロック」(39 ページ) をご参照ください。

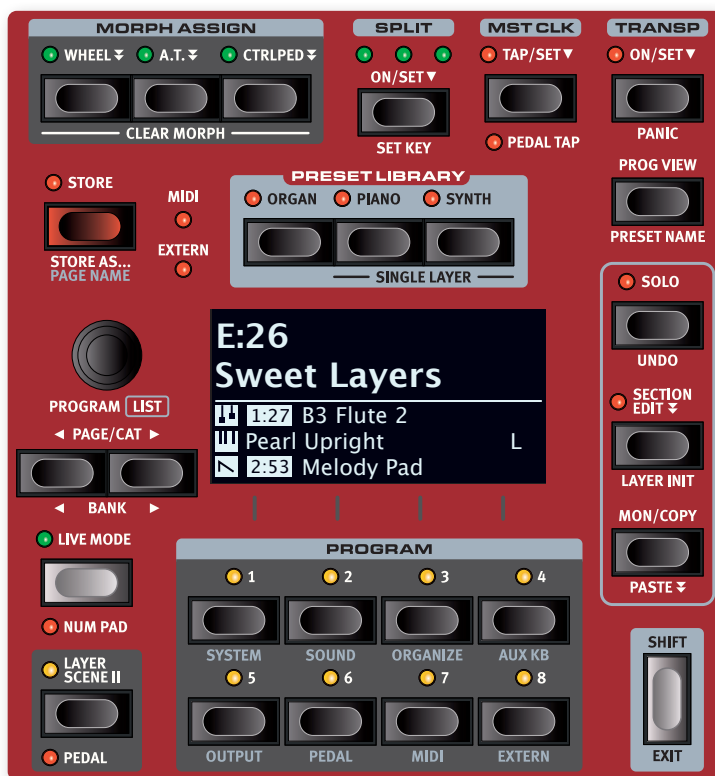
- 💡 どのレイヤーでマスタークロックをリセットするかは、自由に選べます。例えば、左右のスプリットの左側にアルペジオを、右側にリードを配置する場合、アルペジオの KB Sync をオンに、リードの KB Sync をオフにすると、右手のソロの動きに影響を受けずに左手でアルペジオを弾くことができます。

サウンドの初期化

[SHIFT] + **[SOUND INIT]** を押すと、シンセモードと選択した波形 / サンプルを除くすべてのシンセサイザーパラメーターを初期化でき、音作りを「白紙」の状態から始めることができます。

- ❗ Sound Init 操作は **[UNDO]** を押すことで取り消すことができます。

7 プログラム



中央の **PROGRAM** エリアでは、プログラムの読み込みと保存、ライブモード、レイヤーシーン、キーボードスプリット機能など、パフォーマンスにまつわるさまざまな機能にアクセスできます。

プログラムエリアはプリセットライブラリーのホームでもあり、ここから各セクション全体または個別のレイヤーのプリセットをプログラムに読み込むことができます。ユーザーサウンドをプリセットライブラリーに保存することもできます。プリセットライブラリーについては、40 ページをご参照ください。

ここにはシステム、サウンド、MIDI、その他の重要な設定を行うためのさまざまなメニューもあります。メニューのうち **ORGANIZE** と **AUX KB** については、この章でも説明します。すべてのメニューとその設定の詳細については、「メニュー」(56 ページ)をご参照ください。

プログラムとは

プログラムには、マスターレベル、およびソロ状態やセクションエディットといった一時的な編集モードを除く、パネルで行われたすべての設定が保存されます。プログラムには、スプリット、レイヤーシーン、キーボードゾーン、モーフの各設定も含まれています。プリセットライブラリー (下記参照) からプログラムに読み込まれたプリセットも、プログラムの一部として保存されます。

プログラムには、Aux KB メニューと Extern メニューの各設定も含まれています。

📍 Nord Sound Manager アプリを使用すると、お使いのコンピューターから、プログラムやその他のコンテンツにアクセスしたり整理したりすることができます。

モーフの割り当て



「モーフ」はひとつのコントロールソースで複数のパラメーターを一度にコントロールできる、非常に強力な機能です。

[WHEEL]、**[A.T.]**、**[CTRLPED]** の3つの **MORPH ASSIGN** ボタンはそれぞれ、モジュレーションホイール、キーボードアフタータッチ、コントロールペダルという3つの利用可能なモーフソースを表しています。

📍 モジュレーションホイールを使う代わりに、**ORGAN SWELL** ジャックに接続されたエクスプレッションペダルで Wheel モーフをコントロールすることもできます。設定方法の詳細については、58 ページをご参照ください。

モーフを設定するには、使いたいコントローラーに対応した Morph Assign ボタンを押しながら、モーフさせたいパラメーターのノブやドロワーをモーフの始点から終点まで動かします。Morph Assign ボタンを押す前に、パラメーターをモーフの始点に設定しておくことをおすすめします。モーフの設定中には、ディスプレイに始点と終点の各値が表示されず。

Morph Assign ボタンを長押ししながら次々とパラメーターを操作することで、複数のパラメーターに対するモーフを一度に設定できます。

モーフ操作の宛先、つまりモーフィングデスティネーションとして使用できるパラメーターは次の通りです：

オルガン	ピアノ	シンセ	エフェクト
Layer Level	Layer Level	Layer Level	Mod 1 Rate
Drawbars		LFO Rate	Mod 1 Amt
Rotary speed		Osc Ctrl	Mod 2 Amt
		LFO Amount	Delay Tempo
		Filter Freq	Delay Feedback
		Filter Resonance	Delay Dry/Wet
		Arp/Gate Rate	EQ Mid / Filter Freq
			Drive Amount
			Reverb Dry/Wet

🔍 **Morph Assign** ボタンをダブルタップすると、ラッチモードでモーフの割り当てを行えます。ラッチモードでは、ボタンを押し続ける必要なしに複数のモーフデスティネーションを割り当てることができます。**[EXIT]** を押すとラッチモードを終了します。

🔍 あるコントロールソースから別のコントロールソースへ、モーフをコピーすることができます。43 ページを参照してください。

モーフィングキーター

すべてのモーフ可能なパラメーターには、モーフが割り当てられていること、またはモーフが実際に適用されていることを示す何らかの手段が装備されています。これには次の 3 つの異なるタイプがあります：

LED フェーダー

オルガン、ピアノ、およびシンセの各レイヤーのレベルコントロールをつかさどる物理フェーダーと LED 表示です。これらはモーフを設定する際にはモーフの始点や終点を示し、モーフィング中には現在の値を示します。

モーフ LED



ほとんどのモーフ可能なパラメーターには緑色の「モーフ LED」が備わっています。LED はモーフが割り当てられている場合に点灯します。

ドローバー LED

ドローバーがモーフデスティネーションとして選択されている場合、モーフィングに応じてドローバー LED の指す値も上下します。

📌 ドローバーライブモードではモーフを適用できません。

モーフを解除する

[SHIFT] を押しながら **MORPH ASSIGN** ボタンを押すと、そのソースが持つ全レイヤーのすべてのモーフがクリア (**CLEAR**) されます。特定の割り当てのみを解除したい場合には、**MORPH ASSIGN** ボタンを押したままパラメーターを操作して、モーフの始点と終点を重ねます。

スプリット



Nord Stage 4 の鍵盤は、ロー (**L**)、ミッド (**M**)、ハイ (**H**) の 3 つのスプリットポイントで区切ることで最大 4 つにキーボードゾーンに分割することができます。オルガン、ピアノ、およびシンセの各レイヤーは、これらのゾーンのいずれかまたはすべてに割り当てることができます。

SPLIT [ON/SET] ボタンを一回押すと、スプリット機能がオンまたはオフになります。「▼」記号で示されている通り、長押しするとディスプレイには「キーボードスプリット (Keyboard Split)」画面が表示されます。

[SHIFT] + [SET KEY] を押すと、現在選択されているスプリットポイントの位置が移動します。

キーボードのスプリット設定

スプリットが有効になったら、各セクションの **KB ZONE** コントロールでレイヤーをひとつまたは複数のゾーンに割り当てます。4 つのゾーン LED は、各レイヤーがどのゾーンに割り当てられているかを示します。

スプリットポジションの選択

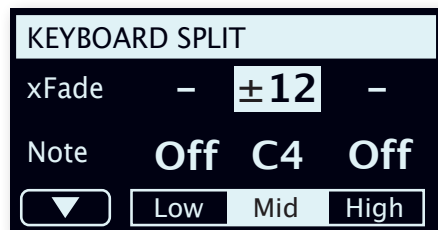
キーボードスプリット画面では、3 つのスプリットポイントをキーボード上のどの位置にそれぞれ置くかを選んだり、スプリットポイントを無効にしたりできます。スプリットポイントは、C2 から C7 までの 11 か所から選ぶことができます。スプリットポイントを調整するには、まずキーボードスプリットページで ▼/▲ ソフトボタン (**PROGRAM [1]** ボタン) を押して、**Note** 行が選択されていることを確認します。次に **Low**、**Mid**、および **High** ソフトボタン (**PROGRAM [2]** ~ **[4]**) でポイントを選び、ダイヤルを回します。

キーボードとコントロールパネルの間にある LED は、どのスプリットポイントがアクティブであることを示します。

スプリットクロスフェード (xFade) 設定

通常、2 つのキーボードゾーンは完全に分断されており、各ゾーンのサウンドが重なることはありません。スプリットポイントの xFade 設定を調整すると、スプリットポイント間でサウンドをクロスフェードされることができ、ポイントをまたいだ演奏がよりスムーズになります。

スプリットクロスフェードを調整するには、まずキーボードスプリット画面を開いて ▼/▲ ソフトボタンを押して、**xFade** 行が選択されていることを確認します。次に **Low**、**Mid**、および **High** ソフトボタンでポイントを選び、ダイヤルを回します。



ダッシュ記号で示された箇所では、クロスフェードは適用されません。

±6 設定は、スプリットポイントの両側 6 半音の範囲でクロスフェードすることを表します。例えば、スプリットポイントより下のサウンドは、ポイントの 6 半音上までは少しずつ音量を落としながら発音し、6 半音を超えたところで完全に聞こえなくなります。スプリットポイントより上のサウンドは、同様に 6 半音の範囲でフェードアウトします。

±12 設定は、スプリットポイントの両側 12 半音の範囲でクロスフェードすることを表します。

マスタークロック

マスタークロックを使用すると、Nord Stage 4 のアルペジエーター / ゲート、シンセ LFO、ディレイ、および Mod 1 レートを同期させることができます。同期されたすべてのコンポーネントについて、それぞれ異なる分割を設定できます。これを活用することで素晴らしいリズムカルな効果を得られます。

[TAP] ボタンを 4 回押し、タップでテンポを設定できます。テンポは bpm (beats per minute) 単位で表されます。必要に応じてボタンをタップし続けると、テンポ設定をさらに調整できます。

「▼」記号で示されている通り、**[TAP]** ボタンを長押しすると「マスタークロック (Master Clock)」画面が表示されます。**PROGRAM** ダイアルを使ってテンポを設定できます。終了するには **[EXIT]** を押します。設定したテンポはストア操作を行うことで、プログラムとともに保存されます。

マスタークロックのテンポを設定すると、マスタークロックに同期する各機能のテンポをその分数で選択できます。マスタークロックのテンポに加えられた変更には、それに同期しているすべての機能が追従します。

外部機器による同期

Nord Stage 4 が MIDI In ポートや USB-MIDI から MIDI クロックを受信すると、Nord Stage 4 のマスタークロックは自動的に、その外部機器のクロックに同期します。

マスタークロックが入力クロックにロックされている場合、**[MST CLK]** を押し、BPM 表記でのテンポとともに「EXTERNAL」というラベルがディスプレイに表示されます。

キーボードシンク

「マスタークロック」画面で **KBS** ソフトボタンを押すと、キーボードシンク (Keyboard Sync) のふるまいを設定できます。

Off: 鍵盤を弾いてもクロックはリセットされません。

On: すべてのキーを放した後に再度鍵盤を弾くと、クロックがリセットされます。

Soft: すべてのキーを放した後、現在のテンポに対する 4 分音符相当の時間が経ってから再度鍵盤を弾いたときのみ、クロックがリセットされます。

ペダルタップ

[SHIFT] + [PEDAL TAP] を押し、接続したペダルを繰り返し踏むことでマスタークロックのテンポを調整できるようになります。ペダルのオプションとその設定方法については、「Pedal メニュー」(58 ページ) をご参照ください。

トランスポーズの有効化 / セット



Nord Stage 4 は、プログラムごとに ±6 半音の範囲、半音刻みでトランスポーズできます。**TRANSPOSE [ON/SET]** を押しながらプログラムダイアルを回すとトランスポーズを設定できます。トランスポーズを無効にするには、ボタンをもう一度押します。

トランスポーズ設定はプログラムの一部として保存および読み込みがなされ、常にプログラムのすべてのレイヤーに影響します。

どのプログラムを選んでいるときにも同じトランスポーズを適用したい場合には、System メニューの「Global Transpose」設定を使用します。

パニック

[SHIFT] + [PANIC] を押し、音源内部に「オールノートオフ」MIDI メッセージが送られ、一部のパフォーマンスパラメーターがリセットされます。これは、MIDI パフォーマンスやライブパフォーマンスの途中で音が止まらなくなった場合、または他の理由ですべてのサウンドをすぐに止める必要が生じた場合に使用できます。

保存 (ストア)



[STORE] ボタンは、編集したプログラムやプリセットをプログラムバンクまたはプリセットバンクに保存するときに使用します。プログラムやプリセットを保存すると、選択したメモリー位置にある既存のデータが上書きされます。

1 Nord Stage 4 は工場から出荷される際、プログラムが誤って上書きされることを避けるためにメモリーに保護がかかっています。プログラムを保存できるようにするには、System メニューで「Memory Protection」設定をオフにする必要があります。これを行う方法の詳細については、56 ページをご参照ください。メモリープロテクションは、8 つのライブプログラムおよび Nord Sound Manager による操作には影響しません。

プログラムを保存 (ストア) する

プログラムまたはプリセットを名前を変更せずに保存するには、次の手順を実行します：

1 **[STORE]** ボタンを 1 回押し、Store ボタンが点滅し始め、ディスプレイにプログラムの名前とその場所が表示されます。



2 **[PROGRAM]** ダイアルと **[PAGE </>]** ボタンのどちらか、あるいは両方を使用して、保存先を選択します。

1 ストア操作をキャンセルするには、**[EXIT]** ボタンを押します。

3 適切な場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** を押して操作を完了します。

プログラムは、**[STORE]** ボタン、**[LIVE MODE]** ボタン、対応する **PROGRAM** ボタンの順に押し、8 つのライブプログラムのうちのひとつとして保存することもできます。また、選択した保存先に現在保存されているプログラムは、鍵盤を弾くことで試聴できます。

名前を付けて保存する

- ① プログラムに名前を付けて保存するには、**[SHIFT] + [STORE AS...]**を押します。
- ② **ABC** ソフトボタンを押し続ける間、英数字の行が表示されます。その間にダイヤルを回すと、現在の位置の文字を選択できます。**ABC** ボタンを放すとカーソルが次の位置に移動します。ダイヤルまたは **[PAGE ◀ / ▶]** ボタンを使って、カーソルを自由に移動できます。**Ins** ソフトボタンは現在位置に空白を挿入するために使用し、**Del** ソフトボタンは現在選択されている文字を削除するために使用します。



- ③ プログラムをカテゴリーに分類しておく、後から検索する際に便利です。**Cat** ソフトボタンを押して、リストからカテゴリーのひとつを選択します。
 - ④ **[STORE]** を押すと、上書き保存のときと同様に「Store Program To」画面が表示されます。**[PROGRAM]** ダイヤルと **[PAGE ◀ / ▶]** ボタンのどちらか、あるいは両方を使用して、保存先を選択します。
 - ⑤ 適切な場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** を押して操作を完了します。
- 📌 Nord Sound Managerでもプログラムに名前を付けることができます。

プログラムダイヤル



ディスプレイ左側の **[PROGRAM]** ダイヤルは、プログラムとプリセットの選択、メニューパラメーター値の設定およびプログラムの文字入力に使用します。**[SHIFT]** キーを押しながらダイヤルを回すと、リストビューが有効になり、すべてのプログラムまたはプリセットがリスト

で表示されます。

リストオプション

プログラムリストは、**Num** を押して番号順で表示することも、**Abc** を押して名前順で表示することも、**Cat** を押してカテゴリー別で表示することも可能です。

番号順 (Numeric)

番号順モードでは、プログラムはプログラムバンク内の順序に従って表示されます。**[PROGRAM]** ダイヤルと **[PAGE ◀ / ▶]** ボタンのどちらか、あるいは両方を使用して、リストを移動できます。

名前順 (Abc)

名前順モードでは、プログラムは名前順に並べられます。「▼」記号で示されている通り、**Abc** ソフトボタンを押しながらダイヤルを回せば、特定の文字または数字にジャンプできます。

カテゴリー別 (Category)

カテゴリー別モードでは、プログラムはカテゴリーごとに並べ替えられます。「▼」記号で示されている通り、**Cat** ソフトボタンを押しながらダイヤルを回せば、カテゴリーを選択できます。

📌 **Cat** ソートモードではページボタンを使用して、次のカテゴリーの最初のプログラムに素早くジャンプすることができます。

ページボタン



プログラムページとプログラムページの間は **[PAGE ◀ / ▶]** を押して遷移します。各バンクには 8 つのページがあり、各ページには 8 つのプログラムがあります。これらのボタンは、プログラムリストビューやプリセットライブラリーのカテゴリー別モードでカテゴリーを切り替えるときや、さまざまなメニュー内でページを切り替えるときにも使用できます。

[SHIFT] + [BANK ◀ / ▶] を押すと、プログラムバンクが切り替わります。

MIDI インジケーターと Extern インジケーター



MIDI メッセージを MIDI 入力や USB-MIDI 入力から受信すると、ディスプレイの左上隅にある **MIDI LED** が点滅します。短い点滅は単に何らかの MIDI メッセージを受信していることを示し、長い点滅は受信した MIDI メッセージが Nord Stage 4 で実際に使われていることを示します。

3 つの Extern MIDI チャンネルのいずれかで MIDI が出力されると、**EXTERN LED** が点滅します。Send On Load 機能を使用している場合、プログラムを読み込んだ際には LED が非常に長い点滅を繰り返します。これは Send On Load 機能を通じて MIDI メッセージが出力されていることを示します。Extern と Send On Load の詳細については、「Extern」(45 ページ) をご参照ください。

プリセットライブラリー

Nord Stage 4 には、オルガン、ピアノ、およびシンセの広範なプリセットバンクが付属しており、エフェクト構成を含む完結したサウンドを既存のプログラムにロードできます。カスタムサウンドはプリセットバンクに保存することもでき、プログラムをセットアップする際に個々のサウンドを素早く呼び出すことができます。



プリセットのブラウズと読み込み

ピアノセクションとシンセセクションでは、プリセットを読み込むための 2 つの異なる方法があります。

1 つ目の方法は、セクション全体に対してプリセットを読み込むことです。複数のレイヤーで構成されたプリセットが使用可能です。すべてのレイヤーがプリセットに上書きされるため、この方法は他のサウンドをセクション内に残す必要がない場合を対象としています。

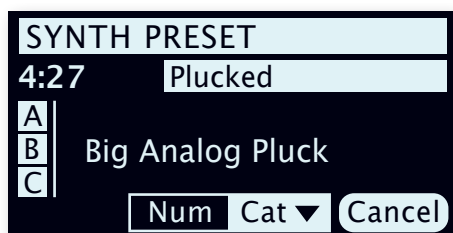
2 つ目の方法は、他のレイヤーをそのまま残しながら、1 レイヤーずつ読み込むことです。これは複数のサウンドを組み合わせるスプリットセットアップで使用する場合、またはフェーダーやレイヤーシーン機能を使用して同じプログラム内で異なるサウンドを切り替えながら演奏する場合に便利です。

📌 オルガンはレイヤー A とレイヤー B で同じエフェクトチェーンを共有するため、オルガンプリセットを読み込むと設定は常にオルガンセクション全体へ適用されます。

セクションへプリセットを読み込む

セクション全体用のプリセットを探したり読み込んだりするには、まず **PRESET LIBRARY [ORGAN]、[PIANO]**、および **[SYNTH]** ボタンを押します。プリセット画面に入ってからフォーカスされたプリセットには、まだ読み込まれていないことを示す「E」が表示されます。ダイヤルを回すと、選択したプリセットに含まれるレイヤーがセクションの対応するレイヤーで試聴できるようになり、「E」が消えます。

[PAGE ◀ / ▶] ボタンを使用して、バンク間を素早く移動することもできます。デフォルトの番号順 (Num) ソートモードからカテゴリ別 (Cat) ソートモードへ切り替えると、現在選択されているカテゴリがディスプレイに表示され、プリセットをカテゴリ別に並べ替えて探すことができます。



カテゴリモードでは **PAGE** ボタンを使用してカテゴリを切り替えることができます。 **Cat** ソフトボタンを押し続けると、ダイヤルを使用してリストから目的のカテゴリを選択できます。

目的のプリセットが見つかったら、Shift/Exit または対応するプリセットライブラリーボタンを押してプリセット画面を終了します。ここで **Cancel** ソフトボタンを押すと、プリセットライブラリーに入る前のサウンドに戻ります。

シングルレイヤープリセットを読み込む

1 レイヤーずつプリセットを読み込むには、プリセットを使用するピアノまたはシンセレイヤー (A、B、C) をフォーカスし、**[SHIFT] + PRESET LIBRARY [SINGLE LAYER PIANO]** または **[SHIFT] + PRESET LIBRARY [SINGLE LAYER SYNTH]** を押します。

プリセット画面に入ってからフォーカスされたプリセットには、まだ読み込まれていないことを示す「E」が表示されます。ダイヤルを回すと、選択したプリセットに含まれるレイヤーがセクションの対応するレイヤーで試聴できるようになり、「E」が消えます。

目的のプリセットが見つかったら、**[EXIT]** または対応するプリセットライブラリーボタンを押してプリセット画面を終了します。ここで **Cancel** ソフトボタンを押すと、プリセットライブラリーに入る前のサウンドに戻ります。

プリセットをプリセットライブラリーに保存する

すべてのレイヤーとエフェクトを含むセクション構成をプリセットとして保存するには、次の手順に従います：

- ① **STORE** を押して、通常通り「Store Program To」画面を開きます。
- ② 次に **ORGAN、PIANO**、または **SYNTH** のプリセットライブラリーボタンを押して、「Store Preset To」画面に切り替えます。
- ③ 保存先を選択するには、**[PROGRAM]** ダイヤルと **[PAGE ◀ / ▶]** ボタンのどちらか、あるいは両方を使用します。
- ❗ 進行中の保存操作をキャンセルするには、**[EXIT]** を押します。
- ④ 適切な場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** を押して操作を完了します。
- 💡 先に対応するプリセットライブラリーボタンを押してから **[STORE]** ボタンを押すことで保存操作を始めることもできます。

名前を付けて保存する

プリセットを保存して名前を付けるには、**[SHIFT] + [STORE AS...]** を押してから、対応するプリセットライブラリーボタンを押します。プリセットの名前の付け方やカテゴリ分けは、プログラムの場合と同様です。前のページをご参照ください。

シングルレイヤープリセットも複数レイヤーによるプリセットも保存の手順は同じです。

プログラムビュー

プログラムビュー (**[PROG VIEW]**) ボタンはディスプレイの表示を 3 つの異なるモードの間で切り替えます。

1 番目の表示モードでは、プログラムのバンク、番号、およびプログラムの名前のみが表示されます。ディスプレイの下半分はパラメーターの説明のために空白にされており、パネルの操作に応じて現在の状況を表示します。

2 番目の表示モードはおおむね 1 番目と同じですが、オルガン、ピアノ、およびシンセの各セクション用に行が追加され、現在フォーカスされているレイヤーの内容を表示します。

❗ この表示モードを使用しているときにパラメーターを調整すると、各セクションの情報を表示していた画面の下半分は、その都度パラメーターの説明に切り替わります。

3 番目の表示モードでは、現在オンになっているすべてのレイヤーに関する情報が表示されます。プログラムの名前と番号は、ディスプレイの上部に小さな文字で表示されます。

プリセット名

通常、セクションまたは各レイヤーのいずれかにプリセットが読み込まれていると、選択したプログラムビューモードに従ってその番号とプリセット名がディスプレイに表示されます。この代わりに各レイヤーの現在の音源構成 (オルガンモデル、ピアノモデル、波形やサンプルの名前) を表示するには、**[SHIFT] + [PRESET NAME]** を押して、Show Preset Name プロパティをオフにします。この表示設定はプログラムが読み込まれるたびにリセットされます。

レイヤーのソロ演奏



[SOLO] を押すと、レイヤーはひとつだけ聞こえるようになります。この機能は、プログラムを微調整するときに個々の要素をモニターしたり調整したりするのに役立ちます。各セクションのレイヤーボタンを使用して、どのレイヤーを聞くかを選びます。

ソロモードに入ると、レベルフェーダーの LED 表示が各レイヤーによって変わります。ミュートされたレイヤーでは現在のレベルを示す単一の点になり、現在フォーカスされているレイヤーでは全体が点滅するようになります。

Exit ボタンか Solo ボタンを押すとソロモードが終了します。

❗ ソロ機能の状態はプログラムの一部として保存されません。

アンドゥ

いくつかの Nord Stage 4 の操作は、**UNDO** 機能を使用して元に戻すことができます。アンドゥが使える操作には次のものが含まれます。

- ・プリセットの読み込み
- ・シンセクションにおける、LFO、フィルター、アルペジエーターのグループ機能
- ・FX Focus エリアにおける、オルガン、ピアノ、シンセのグループ機能
- ・エフェクトにおける、グローバルモードのオンとオフ
- ・All FX Off 機能
- ・モーフ設定の消去
- ・コピー / 貼り付け操作
- ・Synth Init および Layer Init 操作
- ・編集中のプログラムからのプログラムチェンジ

☐ (訳注) プログラムチェンジのアンドゥについて: 音作りに没頭していて保存を忘れたまま別のプリセットを選んでしまった場合でも、すぐにアンドゥすれば元に戻せます。

Undo を押すと、どの操作を元に戻すことができるかがディスプレイに表示されます。UNDO ソフトボタンを押して操作を続行するか、Exit を押してキャンセルします。アンドゥ機能は、変更がかかる前のプログラムの状態に戻します。つまり、それ以降に行われた他の編集はアンドゥの実行に伴い破棄されることに注意してください。

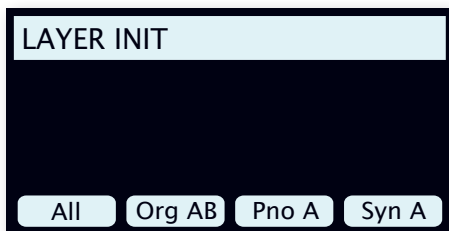
セクションエディット



[SECTION EDIT ▼] が押されている間、パラメーターに対する編集はそのセクションのすべてのレイヤーに対して反映されます。これは、レイヤー間でシンセパラメーターを合わせたり、セクション全体で一部のエフェクトのみを同じ設定にしたりする場合に、特に便利です。

Section Edit ボタンをダブルタップすると、ボタンを押したままにしながらでもセクションエディットを使用できる「スティッキー」モードに入ることができます。スティッキーモードを終了するには、Section Edit をもう一度押す、Exit を押す、のいずれかを行います。

レイヤーの初期化



[SHIFT] + [LAYER INIT] を押すとアクセスできる Layer Init 機能では、プログラム全体または個々のレイヤーを素早く初期化できます。

All: プログラム全体を初期化し、Piano A のみをオンにし、エフェクトをすべてオフにします。

Organ AB: 両方のオルガンレイヤーを B3 サウンドに初期化し、Layer A のみをオンにします。ロータリースピーカーをオンにする以外、すべてのオルガンエフェクトをリセットし、また、オフにします。

Piano A/B: ソフトボタンラベルに書かれた、現在フォーカスされているレイヤーを、デフォルトのピアノサウンドとパラメーターに初期化します。すべてのエフェクトは、パラメーターがデフォルト値にリセットされ、また、オフにされます。

ピアノのエフェクトの編集にグループモードが適用されている場合、パラメーターの設定はレイヤーごとに、初期化された側と Layer Init 操作前の状況を引き継ぐ側に分かれます。

Synth A/B/C: ソフトボタンラベルに書かれた、現在フォーカスされているレイヤーを、デフォルトのシンセ波形とシンセパラメーターに初期化します。すべてのエフェクトは、パラメーターがデフォルト値にリセットされ、また、オフにされます。

シンセのパラメーターやエフェクトの編集にグループモードが適用されている場合、パラメーターの設定はレイヤーごとに、初期化された側と Layer Init 操作前の状況を引き継ぐ側に分かれます。

レイヤーシーン II



レイヤーシーン機能を使用すると、2つの独立したレイヤー構成を作成し、シーンのそれぞれで各レイヤーや各セクションのオン / オフを切り替えることができます。これにより、複数のレイヤーボタンやセクションボタンを押すことなく、同じプログラム内の異なるサウンドの組み合わせを瞬時に、かつシームレスに切り替えることができます。

各レイヤーは、シーンの一方または両方でアクティブにすることができます。例えば、レイヤーシーン I を 1 台のピアノサウンドにしなが、レイヤーシーン II を同じピアノと 2 台目のピアノに加えシンセやオルガンを重ねたものにすることができます。各レイヤーの内容は両方のレイヤーシーンで常と同じです。

レイヤーシーンをセットアップする

[LAYER SCENE II] ボタンを押すと、レイヤーシーン I から II に、またはその逆に切り替わります。各レイヤーシーンは、セクションとレイヤーをオンまたはオフにすることによって構成されます。繰り返しになりますが、レイヤーのシーン設定はレイヤーやセクションのオン / オフのみを保持することに注意してください。

レイヤーシーンとプリセット

レイヤーシーンに関連して、オルガン、ピアノ、およびシンセのプリセットを読み込むときに注意すべき点がいくつかあります。

- ・セクション全体のプリセットをロードする場合 (つまり、レイヤープリセットを使わない場合)、非アクティブなレイヤーシーンではセクションがオフになります。
- ・シングルレイヤープリセットを読み込む場合、読み込まれたレイヤーのオン / オフ状態は、非アクティブなレイヤーシーンでは変更されません。

モニター / コピー / ペースト

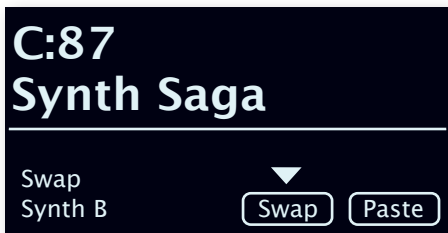


現在のパラメーター値を表示するには、**[MON/COPY]** (モニター / コピー) ボタンを押しながら、関連するパラメーターノブを回します。

COPY 機能は、レイヤー、エフェクト、モーフ、プログラムのコピーに使用できます。

① コピーを作成するには、**[MON/COPY]** ボタンを押したまま、次のいずれかのボタンを押します。

- ・レイヤーをコピーする場合 — レイヤーボタン
- ・エフェクトをコピーする場合 — エフェクト **[ON]** ボタン
- ・モーフをコピーする場合 — モーフ **[WHEEL]**、**[A.T.]**、**[CTRLPED]** ボタン
- ・プログラムをコピーする場合 — **PROGRAM [1] ~ [8]** ボタン



- ② コピーした設定を貼り付けるには、**[SHIFT] + [PASTE]** を押しのまま、貼り付け先のレイヤー、エフェクト、モーフ、プログラム/ライブプログラムに対応するボタンを押します。レイヤー、エフェクト、モーフは、コピー元のプログラム内に貼り付けることも、別のプログラムに貼り付けることもできます。

レイヤーを同じプログラム内の別のレイヤーに貼り付ける場合、代わりに2つのレイヤーを交換することができます：**[SHIFT] + [PASTE]** を押しした状態で、ソフトボタンを使用するか、Mon/Copy を複数回押しして **Paste** モードと **Swap** モードを切り替えます。

Aux KB

AUX KB (Auxiliary Keyboard、補助キーボード) 機能を使用すると、Nord Stage 4 の MIDI In ポートに接続された外部のキーボードで、任意のレイヤーを演奏したりコントロールしたりできます。これは、2 段以上のキーボードを使ってライブパフォーマンスを行う場合に便利です。Aux KB は、プログラムごとに設定できます。

Aux KB の設定

プログラムで Aux KB 機能を使用するには、Aux KB メニューの最初のページにある **Aux KB Enable** 設定をオンにします。

Aux KB メニューの 2 ページ目では、Aux KB を適用するレイヤー、つまり本体の鍵盤ではなく受信した MIDI メッセージで演奏したいレイヤーを選択できます。1 ~ 3 のソフトボタンを使用してオルガン、ピアノ、シンセの各セクションにフォーカスし、ダイヤルを使用して Aux KB を適用したいレイヤーを選びます。

Aux KB モードが有効なレイヤーではフェーダー下の Aux KB LED が点灯し、本体の鍵盤ではコントロールされていないことを示します。

- ❶ **Aux KB に使う MIDI チャンネルは、Nord Stage 4 の MIDI メニューで設定します。詳しくは 59 ページをご参照ください。**

Aux KB モードにおけるペダルおよびその他のデバイス

Nord Stage 4 のピッチスティックや、本体に接続されたサステインペダルは、それぞれのパネルの設定に応じてサウンドエンジンに影響を与えます。もし **SUSTPED** や **PSTICK** がパネル上でオフになっている場合、これらは受信した Aux KB のみによってコントロールされます。

- ❶ **Nord Stage 4 に接続されたスウェルペダルは、オルガンが Aux KB モードに設定されていてもサウンドエンジンに影響を与えます。**

Shift/Exit ボタン

多くのボタンといくつかのノブには、**[SHIFT]** キーを押しながらボタンを押したりノブを回したりすることでアクセスできる二次機能があります。Shift 機能がある場合、対応するボタンやノブの下にはその機能の名前が印刷されています。例えば、**[SHIFT]** キーを押しながら **PROGRAM [7]** ボタンを押すと、MIDI メニューが開きます。

Nord Stage 4 には同じ機能を持つ 2 つの Shift ボタンがあります。ひとつはプログラムエリアの右下、もうひとつはレイヤーエフェクトセクションの左側に配置されています。

Shift ボタンは **[EXIT]** ボタンとして、メニューを閉じたり操作をキャンセルしたりするときにも使用します。

長押しでシフト機能を使う



シフト機能のうち空白の下向き三角形 (▼) で示されているものは、ボタンを 1 秒程度長押しすることでも使うことができます。

ライブモード



Nord Stage 4 には、アクセスしやすい「ライブプログラム」用の場所が 8 つあります。ライブプログラムは、他のプログラムとは異なり、編集内容が自動的に保存されます。ライブプログラムを終了したり、Nord Stage 4 の電源をオフにしたりしても、すべての編集内容が保存されます。手動で保存操作を行う必要はありません。ライブプログラムを選択するには、**[LIVE MODE]** を押してから、**PROGRAM [1] ~ [8]** のいずれかのボタンを押します。

ライブプログラムは必要に応じて、ライブプログラム用の 8 つから離れ、レギュラープログラムバンクの適当な場所を選んで保存することができます (保存の手順については 39 ページ参照)。逆に、レギュラープログラムをライブプログラムの場所に保存することもできます。

[SHIFT] + [NUM PAD] を押すと数値入力パッド (Numeric Pad) を使ったプログラムの参照が有効になります。

プログラムボタン

8 つのプログラム (**[PROGRAM]**) ボタンを使用すると、現在のプログラムバンク内の 8 つのプログラムへ即座にアクセスできます。1 から 4 までのプログラムボタン (上段) は、メニューや設定の項目を選ぶソフトボタンとしても使用します。ソフトボタンの機能についての詳細は 56 ページをご参照ください。



Num Pad による数字の入力

プログラムおよびバンクの選び方には 2 つの異なるオプションがあります：デフォルトの「ページ単位」のモードと、**[SHIFT] + [NUM PAD]** を押すとを押すと有効になる数値入力パッドモードです。

Num Pad モードでは、**PROGRAM [1] ~ [8]** は現在のページ上の 8 つのプログラム間で直接切り替えるためではなく、現在のバンク全体における任意の (11 から 88 までの) プログラム番号を入力するために使われます。

例えば、現在のバンク内のプログラム 12 を選択するには、先に **PROGRAM [1]** を押し (ページ 1 を指します)、次いで **PROGRAM [2]** を押します (現在のページの中のプログラム 2 番を指します)。いくつかの補足説明があります：

- ・ [PAGE ◀ / ▶] ボタンと [PROGRAM] ダイアルは、モードに関係なく同じように機能します。
- ・ ライブプログラムは常にプログラムボタンを使用して直接選択します。



この例は **PROGRAM [1]** が押された様子です。ダッシュ記号はその箇所にもう一行入力できることを示しています。

メニュー

PROGRAM [1] ~ [8] ボタンを [SHIFT] ボタンと組み合わせて使用すると、メニューや、プログラムの整理機能にアクセスできます。メニュー設定については「メニュー」(56 ページ) をご参照ください。プログラムの整理については次の項目で説明します。

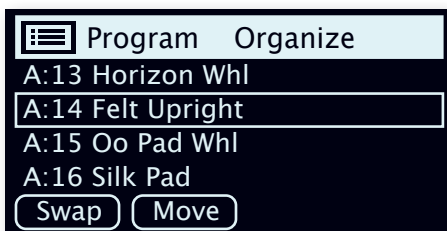
プログラムの整理

プログラムとプリセットの順序は、整理 (**ORGANIZE**) ビューの 2 つの機能、Swap と Move で並べ替えることができます。

ここでは、2 つの整理機能を使用してプログラムバンク内のコンテンツを並べ替える方法の例を示します (プリセットの整理も同様の手順です) :

整理ビューを開く

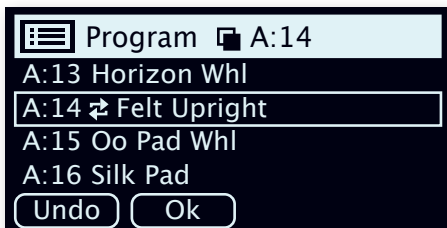
- ① [SHIFT] + [ORGANIZE] を押して、整理ビューに入ります。



2つのプログラムを入れ替える

スワップ操作は2つのプログラムの場所を入れ替えます:

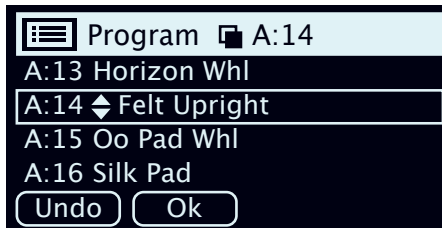
- ② ダイアルを使用して、別のプログラムと交換したいプログラムを選択し、**Swap** を押します。
- ③ ダイアルを移用して交換先を選び、**Ok** を押すと、スワップ操作が完了します。**Undo** を押すと操作はキャンセルされます。



プログラムを移動する

- ④ ダイアルを使用して別の場所へ移動したいプログラムを選択し、**Move** を押します。

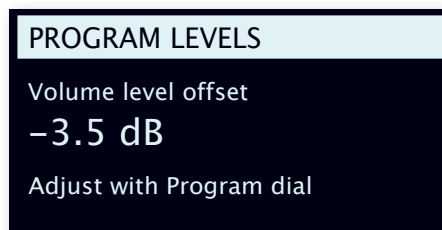
- ⑤ ダイアルを使用して移動先を選び、**Ok** を押すと、スワップ操作が完了します。**Undo** を押すと操作はキャンセルされます。



- △ 移動するプログラムの現在の場所と移動先の場所の間にあるプログラムは 1 つずつ上または下にシフトされます。このためひとつのページが含む内容も変わることにご注意ください。

- ℹ コンテンツの整理は *Nord Sound Manager* で行うこともできます。

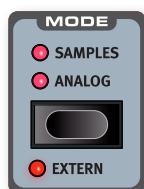
プログラムレベル



プログラムレベル機能は、プログラム全体の音量レベルを調整するための便利なショートカットを提供します。これはライブパフォーマンス用にプログラムを準備する場合や、マスターレベルコントロールに触れることなく全体の音量を下げる場合に便利です。プログラムレベル機能は Sound メニューの最初のページにあります。プログラムダイアルを回すと、すべてのセクションのすべてのレイヤーのレベルが同量で調整されます。

8 Extern

Extern モード



Nord Stage 4 には、外部 MIDI 機器の高度なコントロールも統合されています。シンセセクションの Extern モードを使用すると、主要な MIDI 機能のすべてにシンセディスプレイ、ダイヤル、およびその他のコントローラーからアクセスできるようになります。

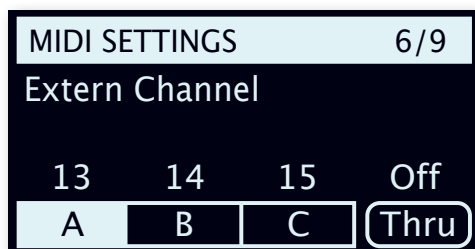
Extern レイヤーは、オン / オフやキーボードゾーンへの割り当ての方法といった面では、Samples レイヤーや Analog レイヤーに近いふるまいをします。ピッチスティックとサステインペダルも通常通り使用できます。

各 Extern レイヤーの MIDI チャンネル設定は MIDI メニューにあります。プログラムチェンジ、コンティニューアスクонтроラー (CC)、およびその他の MIDI 機能の設定には Extern メニューからアクセスできます (詳しくは 61 ページをご参照ください)。これらの設定を活用すると、例えば Nord Stage 4 本体でプログラムを変更したときに、併せてプログラムチェンジなどの MIDI メッセージを外部機器へ自動的に送信する、といったこともできます。

i MIDI メニューの設定は Nord Stage 4 上のすべてのプログラムで共有されます。Extern メニューの設定はプログラムごとに保存されます。

セットアップ

- MIDI ケーブルで Nord Stage 4 の MIDI Out と外部機器の MIDI In を接続します。外部機器には、ラックマウント音源、PC 用インターフェイス、および MIDI In ポートを備えたその他のユニットが含まれます。
- [SHIFT] + [MIDI]** を押し、MIDI メニューを開きます。



- [PAGE </>]** を使って、「Extern Channel」ページまで進みます。
- ソフトボタンを使って、A、B、C の各 Extern レイヤーを選びます。
- [PROGRAM]** ダイヤルを回して、選んだレイヤーの送信にどの MIDI チャンネルを割り当てるかを選びます。
- 前の手順で選んだ MIDI メッセージを受信できるよう、外部機器を設定します。

Extern セクションを使う

有効化

シンセセクションが **ON** になっていることを確認します。外部機器のコントロールに使用したいレイヤー (A、B、C) を選んで、**[SHIFT] + [EXTERN]** を押し、Extern 機能が有効化されます。

オクターブシフト

Extern から送信される MIDI メッセージは、上下にオクターブシフトできます。



シフトが可能な幅は、外部機器自体が持つ音域や、Extern レイヤーが現在割り当てられているレイヤーのキーボードゾーンの音域によって異なります。

キーボードゾーン

内蔵音源同様、外部 MIDI 機器に対してもキーボードゾーンをスプリットやレイヤーのために使用できます。例えば、Extern レイヤーがゾーン 1 と 2 でのみ発音するように割り当てられている場合、外部機器は、これらのゾーンでの演奏のみに反応します。

i キーボードゾーンの設定および使用方法は、「スプリット」(38 ページ) をご参照ください。

最大 3 つの Extern レイヤーを使用できますが、Extern に設定されたレイヤーは内部音源には使用できないことに注意してください。

ピッチスティックやサステインペダルの操作

[SHIFT] + [SUSTPED] および **[SHIFT] + [PSITCK]** を押し、Extern MIDI チャンネル経由でサステインペダルメッセージおよびピッチバンドメッセージを送信するかどうかを選べます。設定状況は **SUSTPED LED** および **PSITCK LED** によって示されます。

Extern パラメーター



最も頻繁に使用される Extern パラメーターは、シンセディスプレイの3つのダイヤルを使用してコントロールされます。

MIDI CC

2つの **CC VAL** コントロールを使うと、外部機器の任意のパラメーターをコントロールするための MIDI CC メッセージを送信できます。左側と中央のシンセディスプレイダイヤルで、送信する CC メッセージの値を制御します。

☞ (訳注) CC とは、Control Change または Continuous Controller の略記です。いずれも同じ意味で、0xB0 から 0xBF までのステータスバイトを持つ MIDI メッセージの一種を指します。

まず、送信するコントローラー番号を Extern メニューで定義する必要があります：

- ① Externメニューを開きます。
- ② **[PAGE ◀ / ▶]** ボタンを使って「MIDI CC #1/#2」ページまで進みます。
- ③ **Num1** ソフトボタンおよび **Num2** ソフトボタンを使用して、どちらの CC VAL ダイヤルを設定するかを選びます。
- ④ **[PROGRAM]** ダイヤルを使用して MIDI CC 番号 (0~119) を選択します。どのパラメーターがどの CC 番号と紐づいているかは、接続する外部機器のマニュアルをご参照ください。
- ⑤ CC の初期値を設定してプログラムを読み込んだときに送るには、シンセディスプレイの下にある **CC VAL** ダイヤルを使用します。
- ⑥ **[EXIT]** でメニューを閉じます。

プログラム

[PROGRAM] ダイヤルを使用すると、プログラムチェンジメッセージが送信され、外部機器のプログラムを選択できます。接続する外部機器によっては、MIDI In から受け取ったプログラムチェンジメッセージを処理するために特別な設定を要する場合があります。

△ Nord Stage 4 は、本体の操作でプログラムが選択された際にも都度 MIDI プログラムチェンジを送信しています。このときに使うグローバル MIDI チャンネルと、Extern のコントロールに使う MIDI チャンネルが同じである場合、混線を起こし、思わざる挙動につながる可能性があります。グローバル MIDI チャンネルが Extern MIDI チャンネルと別のチャンネルに設定されていることを確認してください。グローバル MIDI チャンネルに関連する設定は MIDI メニューにあります。詳しくは 59 ページをご参照ください。

プログラムをバンクに分けて管理している外部機器に向けて、MIDI バンクセレクトメッセージを送信することもできます。これは Extern メニューのページで設定できます。詳しくは 61 ページをご参照ください。

Send On Load

実際の運用において、プログラムを Nord Stage 4 に読み込むのと同時に何らかの MIDI メッセージを送りたい場合があります。Send On Load 機能を使用すると、Nord Stage 4 のプログラムチェンジに同期して外部機器のプログラムを切り替えたり、CC の値をリセットしたりすることができます。

ボリューム

Extern モードで各レイヤーのフェーダーを操作すると、MIDI CC#7 ボリュームメッセージを 0 ~ 127 の範囲で送信します。外部機器が MIDI CC および CC#7 メッセージを受信するよう設定されている場合、これにより音量レベルを制御することができます。

アルペジエーター

シンセセクションのアルペジエーターは Extern モードでも使用できます。出力される MIDI メッセージにはパターンを含むすべてのアルペジエーター設定が適用されます。ゲートは Extern レイヤーでは効果を失うことにご注意ください。

Extern セクションと MIDI ソフトスルー

Nord Stage 4 は、MIDI In で受け取った MIDI ノートメッセージを、アクティブな Extern レイヤーを使って、MIDI Out へ送り出すことができます。

これにより、ある外部機器を、別の外部機器から Nord Stage 4 を経由して制御できるようになります。受信する MIDI ノートメッセージは Nord Stage 4 のシンセ A / B / C の MIDI チャンネルか、グローバル MIDI チャンネルと同一である必要があります。

💡 この機能を使用するには、MIDI メニューで *Soft Thru* 設定を「On」にしておく必要があります。

その他の Extern メニュー設定

Extern モードにはこの章では説明していない設定が他にもあります。これらの詳細については、「Extern メニュー」(61 ページ)をご参照ください。

9 レイヤーエフェクト



概要

同じエフェクトチェーンを共有する2つのオルガンレイヤー（オルガン A とオルガン B）を除いて、Nord Stage 4 の各レイヤーは独立した完全なエフェクトセットを持っています。これはプログラムごとに、（ロータリースピーカーを除いた）各エフェクトユニットのインスタンスが、オルガンセクションに1つ、ピアノセクションに2つ、シンセセクションに3つの計6つずつあり、それぞれが独自の設定を持つことができる、ということを意味します。

パネルの左端にあるロータリースピーカーのみ、1つのプログラムにつき1インスタンスだけ使えます。どのレイヤーもロータリースピーカーにルーティングできますが、そのスピードやドライブ設定は、ロータリースピーカーを通るすべてのサウンドに共通して適用されます。

LAYER EFFECTS [ON] を押すと、すべてのエフェクトを一度にオンまたはオフにできます。

エフェクトフォーカス

オルガン、ピアノ、およびシンセの各レイヤーの **ON** ボタンを押すと、レイヤーエフェクトセクションのフォーカスもそれらのセクションへ自動的に追従します。

FX FOCUS の **[ORGAN]**、**[PIANO]**、または **[SYNTH]** ボタンを押して、特定のレイヤーまたはセクションにフォーカスしてエフェクトを編集することもできます。

グループモード

ピアノセクションとシンセセクションのエフェクトは、すべてのレイヤーで同じ設定を使うことも、レイヤーごとに独立した設定を使うこともできます。**[SHIFT] + [GROUP]** を押すと、これら2つの状態が切り替わります。グループモードが選ばれている場合、そのセクションのすべてのLEDが点灯します。レイヤーモードでは、フォーカスされているレイヤーのLEDのみが点灯します。

グループモードに入ると、現在フォーカスされているレイヤーのエフェクト設定が、そのグループのすべてのレイヤーに適用されます。グループモードを終了すると、手動で変更するまでは、すべてのレイヤーが同じ設定を共有します。

エフェクトとグローバルモードの有効化

エフェクトを有効にするには、そのエフェクトの **[ON]** ボタンを押します。ディレイ、コンプレッサー、リバーブは **GLOBAL** モードに設定することができ、この場合すべてのセクションのすべてのレイヤーに同じエフェクト設定が適用されます。グローバルモードを有効化するには、そのエフェクトに対して **[SHIFT] + [GLOBAL]** を押します。グローバルモードをオフにすると、手動で変更するまでは、すべてのレイヤーが同じ設定を共有します。

モジュレーション 1

MOD 1(モジュレーション 1)ユニットには 6 種類のモジュレーションエフェクトがあります。これらはセレクターボタンを使用して切り替えます。各エフェクトには **VARIATION** ないし **PED** (ペダル) 設定があり、**[SHIFT]** を押しながらセレクターボタンを押すことで有効になります。



オートパン

A-PAN (Auto Pan) は、ステレオパノラマの左と右の間で音像をスムーズに動かす、パンニングに対する自動変調です。

[RATE] ノブはパンニングの速さ、**[AMOUNT]** ノブはパンニングの深さのコントロールに使用します。

A-Pan に **VARIATION** を適用すると、よりハードなパン波形を使った、クラシックなエレクトリックピアノの「ビブラート」のようなキャラクターを提供します。

トレモロ

TREM (Tremolo) は、出力信号のボリュームを連続的かつ周期的に変化させる変調です。トレモロはエレクトリックピアノで使用される非常に一般的なエフェクトです。

[RATE] ノブはトレモロの速さ、**[AMOUNT]** ノブはトレモロの深さのコントロールに使用します。出力信号のボリュームは、Amount 設定がゼロのときに最大レベルになることに注意してください。

Trem に **VARIATION** を適用すると、変調のソースが矩形波になり、ボリュームはよりハードに、くっきりと変調されます。高い Amount 値ではゲートにも似た、「スライサー」エフェクトとして活用することもできます。

リングモジュレーション

RM (Ring Modulation) は、2 つの信号を掛け合わせて、非整数倍音による「ベルのような」サウンドを生み出す、変調の一種です。Nord Stage 4 では、演奏したサウンドにサイン波を掛け合わせます。

[RATE] ノブはサイン波のピッチ、**[AMOUNT]** ノブは変調の強さのコントロールに使用します。

RM に **VARIATION** を適用すると、エフェクトがステレオに対応したモードになります。

オートワウ

A-WAH (Auto Wah) は、次に説明するワウワウエフェクトに近いものです。信号の振幅を自動で検出して (エンベロープフォロワー) フィルターのスイープ幅を調整し、演奏の強弱に合わせたワウ効果を得ます。

[RATE] ノブは検出の感度とフィルターの変可範囲、**[AMOUNT]** ノブはドライ / ウェットのコントロールに使用します。

☞ (訳注) エフェクトを通っていない素の音をドライ、エフェクトを通った後の音をウェットと呼びます。

A-Wah に **VARIATION** を適用すると、異なるサウンドキャラクターを生み出す別のモデルに基づいたオートワウを使えます。

ワウワウ

WAH (Wah-Wah) は、幅広い帯域にわたってフィルター周波数をスイープする、強いレゾナンスを持ったローパスフィルターの一種です。スイープ中には、フィルターの特性も変化します。

デフォルトの非ペダルモードでは、周期的にフィルターがスイープするクラシックなワウが提供されます。このとき、**[RATE]** ノブは LFO の速さをコントロールします。これは、ペダルを上下させるプレイングや、ゆっくりとしたフィルターのスイープをエミュレーションする際に有効です。

[AMOUNT] ノブはドライ / ウェットのコントロールに使用します。

PED モードでは、**CONTROL PEDAL** ジャックに接続したエクスプレッションペダルでワウワウをコントロールできます。Ped モードでありながらエクスプレッションペダルが接続されていない場合、**[RATE]** ノブはフィルター周波数を直接指定するものとしてふるまいます。ペダルが接続されている場合、フィルター周波数はペダルによって制御されます。

❗ **PED** に設定した場合でも、ペダルスイープの範囲をカスタマイズしたり、他のソースと複合したスイープを実現したりするために、エフェクトの Rate ノブ (フィルター周波数) をモーフィングすることができません。モーフの設定方法について詳しくは、38 ページをご参照ください。

ポンプ

PUMP エフェクトは、振幅に対する変調の一種です。一般的には、サイドチェーン入力によってコンプレッサーをトリガーすることで実現されます。その結果、急激にレベルが下がりその後ゆっくり戻る「ダッキング」効果が得られます。

デフォルトの非ペダルモードでは、**[RATE]** ノブは LFO の速さをコントロールします。

💡 ポンプエフェクトの一般的な用途は、マスタートラック (詳細は後述します) に同期してレートを 4 分音符 (1/4) に設定し、「裏打ち」サウンドを得ることです。

PED モードでは、ポンプエフェクトをフットペダルから制御します。これにより、例えばキックドラムと同時に手でキーボードのポンピングサウンドを「演奏」することができます。

使用するペダルは、Nord Triple Pedal の左側または中央のペダル、または **FOOT SWITCH** ジャックに接続されたいずれかのペダルです。設定の詳細については、「Pedal メニュー」(58 ページ) をご参照ください。

マスタートラック

オートパン、トレモロ、LFO ワウ、およびポンプエフェクトは、**[SHIFT]** ボタンを押しながら **[RATE]** ノブを回すことでマスタートラックと同期させることができます。マスタートラックモードでは、各エフェクトの周期の速さはマスタートラックテンポに対する音価として表示されます。

モジュレーション 2

MOD 2 (Modulation 2) にはクラシックな、あるいは革新的なモジュレーションエフェクトの数々が用意されており、それぞれに **VARIATION** 設定があります。**[RATE]** で各エフェクトの周期の速さを、**[AMOUNT]** ノブで各エフェクトのかかり方の強さを制御します。

フェイザー

PHASER は、エレクトリックピアノでたびたび使われる特徴的な「シュワシュワ」サウンドを生み出します。



標準のフェイザーはクラシック「Small Stone」に基づいています。Amount 値を最小にしたときにはフィードバック量がゼロになります。Amount を大きくするとフィードバック量と「カラー」値が大きくなります。

フェイザーの **VARIATION** は、クラシック「Bi-Phase」に基づいています。こちらも Amount 値を最小にしたときにはフィードバック量がゼロになります。

フランジャー

FLANGER は、コムフィルター効果による、「ビューン」といった劇的なサウンドとレゾナンス特性を生み出します。

フランジャーの **VARIATION** は、モノラル版のエフェクトです。

バイブ

VIBE はピッチベンドとフェイザーの両方の特性を持つサウンドを生み出します。これはクラシックなフットペダルエフェクトに基づいており、一般的なフェイザーと異なり多段で配置された、一連のフェイジングフィルターをモデリングしています。

バイブの **VARIATION** は、モノラル版のエフェクトです。

コーラス

CHORUS はオーディオ信号に、変調をかけたコピーを複数ブレンドするエフェクトです。サウンドを「広げる」効果を得る以外にも、極端な設定で大幅なデチューンを作り出すなど、さまざまな使い方ができます。Amount 設定が 50% を超えると、ディレイ回路が徐々に追加され、より複雑なサウンドが得られます。

コーラスの **VARIATION** は、ピンテージエフェクトペダルに基づいており、豊かなステレオワイドニングエフェクトから、高い Rate および Amount の設定における独特のビブラートにまで変化します。

アンサンブル

ENS (Ensemble) は、ピンテージの Eminent オルガンに搭載されていたエフェクトをモデルにしています。この非常に特徴的なサウンドは、相互に接続された 3 つの変調ディレイ回路にオーディオ信号を通すことで生まれます。

アンサンブルの **VARIATION** は、モノラル版のエフェクトです。

スピン

SPIN は回転するスピーカーのサウンドをエミュレートします。しかし、ロータリースピーカーがローターとホーン、2 つのコンポーネントからなるのに対し、こちらはその区別がないため、スピンエフェクトはロータリーエフェクトよりも幾分ニュートラルな特性を持ちます。このエフェクトはあらゆる音源に動きを与えるのに便利です。回転の速度は **[RATE]** ノブで制御しますが、値を変更してもすぐには追従せず、回転の速度は徐々に上下します。

スピンに **VARIATION** を適用すると、スピンエフェクトの効き方が、高域中心のものから低域中心のものへと切り替わります。

ディレイ

DELAY ユニットはエコー / リピートの効果を生み出します。ディレイタイムは **[TEMPO]** ノブで設定します。ディレイを **GLOBAL** モードに設定すると、すべてのセクションのすべてのレイヤーに同じディレイ設定が適用されます。



マスタートラック (**MST CLK**) がアクティブな場合、ディレイタイムはマスタートラックテンポに対する音価として表示されます。

[FEEDBACK] ノブはディレイのリピート数、タップ数をコントロールします。最小の設定ではタップが 1 つだけ聞こえ、最大の設定では非常に長いフィードバックテールを形作ります。

[DRY/WET] ノブは、ドライな信号とディレイの繰り返しとのバランスを調整します。

ピンポンディレイ

[SHIFT] + **[PING PONG]** を押すとピンポンモードがアクティブになります。ピンポンモードでは、ディレイ音は左と右で交互に生成されます。短いディレイタイムを使用すると、これらのリピートは「左右非対称」になり、リバーブユニットの初期反射音に似たディレイを生み出します。

タップテンポ

ディレイタイムはタップテンポでも設定できます。同期させたいテンポに合わせて **[TAP/SET]** ボタンを何度か押すだけで、ディレイタイムが自動的に調整されます。

! アナログモードが有効な場合でも、タップにより現在のディレイ音のピッチが変化することはありません。

エフェクト

セレクターボタンを押すと、ディレイのフィードバックがループする中で使用するエフェクトを 1 つ選択できます。これらのエフェクトはドライ音には影響を及ぼさず、ディレイに入力されるサウンドにのみ影響し、ディレイをタップするたびにその効きが強くなります。各エフェクトには **VARIATION** があり、**[SHIFT]** を押しながらセレクターボタンを押すことで有効になります。

ENS、**VIBE**、**CHOR** エフェクトは、そのバリエーションも含めて **MOD 2** ユニットの対応するエフェクトに基づいています。

ステレオの **FLAM** エフェクトは、左右のチャンネルでディレイタイムにオフセットを備えたピンポンディレイを生成します。ディレイタイムを短くするとルーム残響のシミュレーションに、長いディレイタイムを使うと複雑なサウンドの作成に、それぞれ使えます。**VARIATION** では左右チャンネル感の時間差が 20 ミリ秒から 40 ミリ秒にへと倍増します。

SPACE エフェクトはリバーブのような拡散を伴ったディレイです。フィードバックされるごとに、より強くエフェクトがかかります。標準モードでは、エフェクト信号はドライ音と50%同士でミックスされます。**VARIATION** モードでは、エフェクト信号は100%ウェットです。

フィルター

FILTER セクションの各フィルターは、ディレイ音を上げるための優れたツールです。これは特にディレイのフィードバック量が多い場合に、より活躍します。各ディレイタップはフィードバックごとにフィルターを通過し、その結果、ディレイ音は徐々に「こもったり」、徐々に「乾いたり」しながら後に連なることになります。

LP 設定では、各ディレイタップはフィードバックごとにローパスフィルターを通過し、そのたびに高周波成分が減衰します。

HP 設定では、各ディレイタップはフィードバックごとにハイパスフィルターを通過し、そのたびに低周波成分が減衰します。これは、長いディレイテールの音の濁りを低減するのに役立ちます。

BP 設定では、各ディレイタップはフィードバックごとにバンドパスフィルターを通過し、そのたびに高周波成分と低周波成分が減衰します。その結果、細いサウンドになります。

アナログモード

ディレイには、ノーマル（「非アナログ」）とアナログ、2つのモードがあります。アナログモードでは、ビンテージアナログディレイと同様に、テンポが変更されるとディレイ音のピッチも変わります。さらに、各フィードバックフィルター設定の特性も、「非アナログ」モードの場合とはわずかに異なります。アナログモードでは、タップすることにわずかな歪みが発生します。これは特にフィードバック量が多い場合により顕著に表れます。

マスタークロック

ディレイは、**[SHIFT]** ボタンを押しながら **[RATE]** ノブを回すことでマスタークロックと同期させることができます。テンポの設定方法については、39ページをご参照ください。

マスタークロックモードでは、ディレイタイムはマスタークロックテンポに対する音価として2分音符から32分音符の範囲で表示されます。これらの単純な2分割に基づくもの以外には、スイング (S)、三連符 (T)、付点音符 (D) オプションも選択できます。

アンプシミュレーター / イコライザー

AMP SIM/EQ ユニットは、3バンドのイコライザーと、洗練されたアンプおよびキャビネットシミュレーションの2つからなります。また、レゾナンス付き24 dBの、ローパスフィルターとハイパスフィルターも含まれています。アンプモデルやフィルターが選択されていない場合、Amp Sim/EQ セクションは、ニュートラルなEQと真空管スタイルのオーバードライブ効果を提供します。



オーバードライブ

モーフ可能な **[DRIVE]** ノブは、アンプモデルが選択されていない場合は真空管スタイルの、アンプモデルが選択されている場合はそのアンプモデルのオーバードライブの量を制御します。LEDは、オーバードライブがアクティブであることを示します。

イコライザー

低域、中域、高域のコントロールを備えた3バンドのイコライザーです。ベース (**BASS**) とトレブル (**TREBLE**) の周波数はそれぞれ100 Hzと4 kHzで固定です。ミッド (**MID**) の周波数は **[FREQ]** ノブを使用して200 Hzから8 kHzまでの間で設定できます。ブースト / カットの範囲は±15 dBです。

アンプモデル

セレクターボタンを押すと、3つの異なるアンプ / スピーカーからのモデルをシミュレートするかを選べます。各モデルにはバリエーション (**VARIATION**) があり、**[SHIFT]** を押しながらセレクターボタンを押すことで切り替えられます。

△ Twin および JC アンプモデルでは、特に **VARIATION** がオフの場合、サウンドの高域を大幅に強調します。音源によっては、EQまたはその他のソースの音色を調整する手段を用いてこれに対処する必要があります。

アンプモデル	説明
TWIN	クラシックな真空管アンプとキャビネットのシミュレーションです。 VARIATION ではアンプの周波数レスポンスが、高域のブーストが少なく、中域のキャラクターの異なるものに変更されます。
JC	真空管アンプによって鳴らされる Jazz Chorus スピーカーキャビネットのシミュレーションです。 VARIATION では高域が減衰する他、中域のレスポンスにも変化が生じます。
SMALL	真空管アンプによって鳴らされる Wurlitzer 200A 内蔵スピーカーのシミュレーションです。 VARIATION ではシミュレーションするアンプとスピーカーのモデルが、さらに小型のものになります。

To Rotary

TO ROTARY 設定をアクティブにすると、フォーカスされたレイヤーのサウンドが、ロータリースピーカーエフェクトにルーティングされます。ロータリースピーカーエフェクトのコントロールはパネルの左端にあります。

ロータリースピーカーエフェクトはエフェクトチェーンの最終段に配置されています。To Rotary が有効な場合も他のエフェクトは通常通り使用できますが、ロータリースピーカーエフェクトの前に処理されることに注意してください。

LP24 フィルター

LP24 は、1 オクターブあたり 24 dB のカーブで減衰させる、レゾナンス付きのローパスフィルターです。モーフ可能な **[FREQ]** ノブを使用してフィルターのカットオフ周波数を調整し、**[RES]** ノブを使用してカットオフポイント付近のレゾナンスの量を設定します。

- LP24 フィルターは、レゾナンスを程よく効かせながら、接続したコントロールペダルでカットオフ周波数をモーフすることで、ペダルワウエフェクトの代わりにすることができます。

HP24 フィルター

HP24 は、1 オクターブあたり 24 dB のカーブで減衰させる、レゾナンス付きのハイパスフィルターです。モーフ可能な **[FREQ]** ノブを使用してフィルターのカットオフ周波数を調整し、**[RES]** ノブを使用してカットオフポイント付近のレゾナンスの量を設定します。

- Bass と Treble、2 つの EQ バンドと Drive エフェクトは、HP24 と LP24 の両方で使用できます。

コンプレッサー



COMPRESSOR は小さいレベルの信号を大きくし、大きいレベルの信号を小さくすることでサウンドのダイナミックレンジを狭くします。これにより、サウンドにはタイトさとパンチが生まれ、ライブミックスにおいては全体のレベルが制御しやすいものになります。コンプレッサーは **[ON]** ボタンで有効になります。**[AMOUNT]** ノブで、適用されるコンプレッションの強さを調整します。

コンプレッサーを **GLOBAL** モードに設定すると、すべてのセクションのすべてのレイヤーに同じコンプレッサー設定が適用されます。

Fast モード

FAST モードに設定すると、コンプレッサーが早く戻るようになります。Amount を大きくすると「ポンピング」を伴った、より露骨な「コンプサウンド」が生成されます。

リバーブ



REVERB はさまざまなアコースティック環境における自然な音の反射をシミュレートします。長さや密度の異なる 6 つのリバーブタイプがあります。どのタイプが選ばれているかは、セレクターの LED で示されます。

セレクターの左側にあるリバーブタイプはすべてバリエーションを持っています。これらの詳しくは後述します。

セレクターの右側にあるリバーブタイプはすべてコラール設定を適用することができます。コラール設定はリバーブ信号にピッチ変調を加え、より生き生きとしたサウンドを作り出します。Variation/Chorale は、**[SHIFT]** + **[REVERB]** セレクターボタンで有効になります。

リバーブを **GLOBAL** モードに設定すると、すべてのセクションのすべてのレイヤーに同じリバーブ設定が適用されます。

[DRY/WET] ノブは、処理されていない信号とリバーブ処理された信号とのバランスを調整します。

- Dry/Wet を時計回りに振り切ると、リバーブはウェットサウンドのみを出力ようになります。これはモーフを活用したサウンドや、レイヤーをブレンドした音作りに非常に効果的です。

リバーブタイプ

タイプ	説明
SPRING	トーンホイールオルガン、ギターアンプ、その他多くの種類の機器に搭載されてきた、クラシックなスプリングリバーブのシミュレーションです。 VARIATION では、長いスプリングによる長いリバーブが再現されます。
BOOTH	非常に短い減衰時間を持つ、小さな部屋のシミュレーションです。 VARIATION ではプリディレイタイムが増加し、ドライ音に対してウェット音が遅延します。これにより、深くリバーブをかけた場合でもアーティキュレーションが活きやすくなります。
ROOM	比較的短い減衰時間を持つ部屋のシミュレーションです。ここでも、 VARIATION にはより長いプリディレイタイムを持ったものが備えられています。
STAGE	中程度の減衰時間を持つ、屋内の自然なアンビエントです。 CHORALE モードではピッチ変調が加わり、より生き生きとしたサウンドになります。
HALL	長い減衰時間を持つ、広々としたホールのような響きです。 CHORALE モードではピッチ変調が加わり、より生き生きとしたサウンドになります。
CATH	カテドラル (Cathedral) は、非常に長い減衰時間と没入感を持ったリバーブです。 CHORALE モードではピッチ変調が加わり、より生き生きとしたサウンドになります。

BRIGHT モードまたは **DARK** モードを使用すると、リバーブの周波数レスポンスを変更できます。これはすべてのタイプで有効です。Bright に設定すると低域をわずかに減衰させ、Dark では代わりに高域を減衰させます。

ロータリースピーカー

ROTARY SPEAKER エフェクトは、ホーンローターおよびベースローターの回転によってもたらされるサウンドの変化だけでなく、内蔵アンプの特性までもを再現します。

☞ (訳注) 高域を担う側はホーンローター (*horn rotor*)、トレブルホーン (*treble horn*)、ツイーター (*tweeter*)、およびこれらが入り交じった名前と呼ばれ、低域を担う側にもベースローター (*bass rotor*) やドラムローター (*drum rotor*)、ウーファー (*woofer*) など複数の呼び方が存在します。このマニュアルでは原文およびディスプレイの表示に準じています。

- ロータリースピーカーの最も一般的な使用例は、オルガンサウンドとの組み合わせです。Nord Stage 4 では、**ROTARY SPEAKER [ORGAN]** ボタンを押すことですぐに選べます。
- ピアノセクションやシンセセクションでロータリースピーカーを使いたい場合は、各レイヤーの Amp/EQ エフェクトユニットにある **[TO ROTARY]** ボタンを押します。
- 各ローターのスピードを切り替えるには、**[SLOW/FAST]** ボタンを押します。
- Stop モードが有効になるときにスピーカーのサウンドをまったく同じにするには、**[SHIFT] + [ANGLE]** を押していずれかの位置を選択します。これにより、ローターとホーンは常に同じ位置で停止するようになります。デフォルトの **Free** 設定では、ホーンとローターが停止したときの角度に応じてストップモードサウンドが変化します。
- Slow から Fast へ、あるいはその逆へ切り替えたときのローターとホーンの加減速率は、Sound メニューで調整できます。詳しくは「9 — Rotary Rotor Acc.」および「11 — Rotary Horn Acc.」(57 ページ) をご参照ください。
- ローターの速度はモーフソースで連続的に制御することができます。このため、回転を Fast、Slow、および Stop 以外の速度に設定することができます。これには、いずれかの **MORPH ASSIGN** ボタンを押したまま **[SLOW/FAST]** ボタンを押します。アクティブなモーフは **MORPH LED** の点灯によって示されます。
- [SHIFT] + [CLOSE MIC]** を押すと、シミュレートするサウンドがホーンスピーカーの近くへマイクが配置したときのものに切り替わります。これによりステレオの広がりやより顕著になり、動きを与える効果が高まります。この設定はプログラムごとに保存されます。

オーバードライブの強さは **[DRIVE]** ノブで制御します。これは、オリジナルのロータリースピーカーのプリアンプ部におけるオーバードライブのシミュレートです。

ローターの速度は、**ROTOR PEDAL** に接続されたサステインペダルやフットスイッチで制御できます。Nord Stage 4 Compact モデルでは、オプションの Nord Half Moon Switch を使用して、伝統的な方法で Slow/Stop と Fast を切り替えることができます。詳しくは 59 ページをご参照ください。

i *Rotary Drive* パラメーターの効きは、ロータリースピーカーエフェクトに入力される時点での信号の音量レベルに依存します。各楽器が非常に低いレベルに設定されている場合、得られる歪みは大幅に少なくなります。スウェルペダルを活用してオルガンの音量レベルを上下させると、レベルの高いところでのみ歪みが現れます。これは「実機」のふるまいに近いものです。

ロータリースピーカーとリバーブ

ロータリースピーカーにルーティングされるレイヤーでは、リバーブはロータリースピーカーの前に適用されます。これは、他のすべてのエフェクトと同様です。

ロータリーメニュー

Sound メニューには、ロータリースピーカーの動作とサウンドを細かく調整するためのいくつかのパラメーターがあります。詳しくは 56 ページをご参照ください。



10 MIDI

MIDI を使う

Nord Stage 4 は柔軟に MIDI を扱えるよう設計されています。Nord Stage 4 を他のハードウェアユニットやソフトウェア音源をコントロールするためのマスターキーボードとして使用することも、Nord Stage 4 のオルガン、ピアノ、シンセレイヤーをコンピューターやシーケンサーなどの機器で個別にコントロールすることもできます。プログラムごとに一部のレイヤーのみを別のキーボードでコントロールすることが可能です。必要に応じて、これらすべてを同時に行うこともできます。

Nord Stage 4 の MIDI 機能は、グローバル、レイヤー（オルガン、ピアノ、シンセそれぞれの A/B/C）、Aux KB、Extern の 4 つの主要なエリアに分けることができます。これらは個別に任意の MIDI チャンネルへ割り当てることができます。対応するチャンネルをオフに設定することで、MIDI 機能を無効にすることもできます。すべての MIDI チャンネルは MIDI メニューで設定します。詳しくは 59 ページをご参照ください。

グローバルチャンネルは MIDI の送受信の両方で使用されますが、Extern チャンネルは送信のみ、レイヤーチャンネルと Aux KB チャンネルは受信のみで使用されます。Extern メニューで行われる Extern 設定と Aux KB メニューで行われる Aux KB 設定を除き、MIDI 機能に関連するほとんどの設定は MIDI メニューで行います。

Nord Stage 4	MIDI IN	MIDI OUT
グローバル	✓	✓
レイヤー	✓	
Aux KB	✓	
Extern		✓

グローバルチャンネル

グローバル MIDI チャンネルは MIDI メッセージの送受信を同時に行うために使用されます。グローバル MIDI チャンネルに向けて MIDI メッセージを送信することにより、Nord Stage 4 のあらゆる機能を外部からコントロールすることができます。

また、シンセセクションのノブを回したり、モジュレーションホイールやアフタータッチ、接続されたペダルやピッチスティックを操作したりして生成された MIDI メッセージも、グローバル MIDI チャンネルから送信されます。

! グローバル MIDI 機能は MIDI メニューでオフにできます。オフにすると、グローバル MIDI チャンネルを使った MIDI の送受信の両方が無効になります。

レイヤーチャンネル

レイヤー MIDI チャンネルはオルガン、ピアノ、シンセのレイヤーごとに用意されており、MIDI メッセージの受信のみを行います。MIDI メッセージの宛先をそれぞれのレイヤーにすることで、外部機器から Nord Stage 4 の音源をレイヤーごとに鳴らすことができます。

Extern

シンセセクションの任意のレイヤーに対して選択できる Extern モードは、主に外部 MIDI 機器をライブパフォーマンスに統合することを想定して設計されています。Extern を実際に活用する際の例を下記に示します。Extern の機能全体にわたる詳細については「Extern モード」(45 ページ)をご参照ください。

Nord Stage 4 から外部機器をコントロールする

キーボードゾーンの割り当てや、ピッチスティック、サステインペダルの有効化等の点でいえば、Extern モードに設定されたレイヤーも通常のシンセレイヤーとおおむね同様に扱うことができます。

Extern レイヤーには、プログラムチェンジ、バンクセレクト、ボリュームなどの「初期値」を保存することもできます。MIDI CC 値の変更やプログラムチェンジは、シンセセクションのディスプレイとダイヤルで直接行うことができます。Extern 設定は、すべてのプログラムで共有される External MIDI 設定を除き、プログラムごとに保存されます。

外部機器のサウンドと一緒に演奏したいプログラムを選択します。

① シンセレイヤーのExternモードを有効化し、そのMIDIチャンネルと外部機器(ラックシンセ音源など)のMIDIチャンネルを同じチャンネルに設定します。Nord Stage 4では、この操作をMIDIメニューで行います。

△ Externチャンネルがグローバルチャンネルと同じチャンネルではないことを確認してください。

Externレイヤーを目的のキーボードゾーンに割り当てます。

② Nord Stage 4の鍵盤をExternレイヤーに定義されたゾーンの中で演奏すると、外部機器から音が鳴るはずですが。

! 外部MIDI機器の設定によっては、MIDIメッセージに対する反応に影響を及ぼす場合があります。必要に応じて、各機器の取扱説明書をご参照ください。

OCTAVE UP/DOWN、SUST PED、および PSTICK を適切に設定します。

③ 外部機器で目的のプログラムが選択されるまで、シンセディスプレイ右端の **PROGRAM** ダイヤルを回します。プログラムを呼び出すためにバンクセレクトメッセージが必要な場合、これらの場合をExternメニューに手動で入力する必要があります。

④ 外部機器の音量を調整するには、Externレイヤーのレベルフェーダーを操作し、MIDI CC#7 (MIDI Volume)メッセージを送信します。

⑤ 必要に応じて、プログラムをNord Stage 4に保存します。

Externメニューで Send On Load を有効にすると、このプログラムが選択されるたびに、保存されているすべてのデータ（プログラムチェンジ、バンクセレクト、MIDI CC、ポリウム）が Nord Stage 4 から自動的に送信されます。必要に応じて、Externメニューで追加の CC メッセージを 2 つ選ぶことができます。コントローラーナンバーと希望する値を設定するだけで、他のすべての MIDI メッセージと一緒に送信されるようになります。

パネル上の他のレイヤーと同様に、Extern レイヤーは互いに完全に独立しています。配置されたゾーンが同じであっても異なっても、それぞれのレイヤーは別々のふるまいを持つことができます。

I パネル上のトランスポーズ機能を使用すると、Extern レイヤーからの MIDI 出力もトランスポーズされます。

MIDI を使って Nord Stage 4 をコントロールする

Nord Stage 4 を別のキーボードや他の MIDI 機器でコントロールする方法には、いくつかの種類があります。

Aux KB

外部のキーボードを使って Nord Stage 4 上の任意のレイヤーをさまざまな組み合わせで演奏できるようになります。ライブでの使用にも便利です。Aux KB 設定はプログラムごとに保存されます。

Aux KB のより詳しい説明は 42 ページに記載がありますが、ここではその設定方法の基本的な例として、オルガンセクションのレイヤー B を制御する方法を紹介します。

外部 MIDI キーボードを Nord Stage 4 の **MIDI IN** ジャックに接続します。

- ① Aux KBメニューを開きます。
 - ② Aux KBメニューの最初のページで、**[PROGRAM]** ダイアルを回して **Aux KB Enable** を **On** に設定します。
 - ③ 2ページ目に移動します。**ORG** (オルガン) ソフトボタンを押し、ダイアルで **-B** に設定します。
 - ④ MIDIメニューを開き、Aux KBとして受信するMIDIチャンネルを、外部MIDIキーボードの送信チャンネルと合わせます。Nord Stage 4 は、デフォルトではチャンネル16でAux KBを受信するように設定されています。
 - ⑤ オルガンBがアクティブになっていることを確認します。他のすべてのセクションとすべてのレイヤーは、通常通りNord Stage 4本体でコントロールされます。
- ▲ パネル上のトランスポーズ機能を使用すると、MIDIメニューの「Transpose MIDI at」設定に関係なく、Aux KBチャンネルで受信した MIDI ノートもトランスポーズされます。

レイヤー MIDI チャンネルを使ったコントロール

外部機器から Nord Stage 4 を制御するための 2 番目のオプションは、レイヤーごとに割り当てられた MIDI チャンネルへ向けて、チャンネルを合わせた MIDI メッセージを、外部機器から入力することです。Nord Stage 4 本体の鍵盤は引き続き有効で、必要に応じて演奏することができます。

これをセットアップするには、あらかじめ MIDI メニューからオルガン、ピアノ、シンセの各レイヤーに MIDI チャンネルを割り当てておく必要があります。

グローバル MIDI チャンネルを使ったコントロール

外部機器から Nord Stage 4 を制御するための 3 番目のオプションは、グローバル MIDI 機能を使用することです。外部機器の送信 MIDI チャンネルが Nord Stage 4 のグローバル MIDI チャンネルと同じ場合、外部機器による演奏は、Nord Stage 4 本体の鍵盤やパネルで演奏するのとほとんど同様になります。

I グローバル MIDI 機能は MIDI メニューでオフにできます。オフにすると、グローバル MIDI チャンネルを使った MIDI の送受信の両方が無効になります。

外部機器との同期

Nord Stage 4 が MIDI In ポートや USB-MIDI から MIDI クロックを受信すると、Nord Stage 4 のマスタークロックは自動的に、その外部機器のクロックに同期します。

マスタークロックが入力クロックにロックされている場合、**MST CLK** を押すと、BPM 表記でのテンポとともに「**EXTERNAL**」というラベルがディスプレイに表示されます。

Extern セクションと MIDI スルー

1 つ以上の Extern レイヤーがアクティブな場合、Nord Stage 4 は外部機器から受信した MIDI ノートを Extern MIDI チャンネル上の **MIDI OUT** に転送することができます。これにより、ある外部機器を別の外部機器から、Nord Stage 4 を経由してコントロールできるようになります。MIDI スルー機能を使うには、MIDI メニューを開き、Extern ページの **Thru** 設定を **On** にする必要があります。

シンセレイヤーチャンネル (A/B/C) で受信した MIDI メッセージは対応する Extern チャンネルに転送されますが、グローバル MIDI チャンネルで受信した MIDI メッセージはすべてのアクティブな Extern チャンネルに転送されます。各 Extern レイヤーに割り当てられたキーボードゾーンの範囲は、受信した MIDI メッセージが各チャンネルに転送される範囲にも影響を及ぼします。

Nord Stage 4 の演奏を MIDI シーケンサーに記録する

ここでは Nord Stage 4 を使ったパフォーマンス、つまりペダルやモーフ等すべてのアクションを含めた演奏を、DAW や MIDI シーケンサーに記録する方法を説明します。これには、グローバル MIDI チャンネルを使用するのが最適です。

DAW や MIDI シーケンサーを、Nord Stage 4 のグローバル MIDI チャンネルを受信できるように設定します。

- ① MIDIメニューの1ページ目を開き、**Local Control** を **Off** に設定します。
- ② MIDIメニューの7ページ目を開き、**NRPN** を **Send/Receive** に設定します。
- ③ Nord Stage 4で使いたいプログラムを選びます。
- ④ DAWやMIDIシーケンサーで記録を開始します。

グローバルチャンネルにおける MIDI 出力は、Nord Stage 4 本体の鍵盤全体から MIDI ノートメッセージを生成します。キーボードスプリットは無視されます。

■ パネル上のトランスポーズ機能やシステムメニューの *Global Transpose* 設定が有効な場合に MIDI スルーがどのように影響を受けるかは、MIDI メニューの「*Transpose MIDI at*」設定によって異なります。これについては 60 ページで説明します。

送受信できる MIDI メッセージ

Nord Stage 4 では次の MIDI メッセージを送受信できます。

- ・ノートオンおよびノートオフ
- ・ピッチベンド

コントロールチェンジメッセージの送信と受信について、そのそれぞれを Nord Stage 4 が行うかどうかは、MIDI メニューで設定できます。

- ・コントローラー 4 番。ORGAN SWELL 端子に接続されたコントロールペダル / エクスプレッションペダルも同様に扱われます。
- ・コントローラー 11 番 (エクスプレッション)。CONTROL PEDAL 端子に接続されたコントロールペダル / エクスプレッションペダルも同様に扱われます。
- ・コントローラー 64 番 (サステインペダル)。SUSTAIN PEDAL 端子に接続されたサステインペダルも同様に扱われます。
- ・TRIPLE PEDAL 端子に接続された Nord Triple Pedal 2 も、コントローラー 64 番としてサステインペダル情報を送信します。
- ・フロントパネル上にある他のほぼすべてのノブやボタンも、コントロールチェンジメッセージまたは NRPN メッセージに対応しています。このため、MIDI シーケンサーを使うとフロントパネルの操作を記録することができます。どのパラメーターがどのコントローラー番号に対応するかについては、「資料: MIDI コントローラーナンバー表」(66 ページ) をご参照ください。

キーボードベロシティ

Nord Stage 4 はキーボードベロシティメッセージを送受信できます。オルガンサウンドは、ベロシティに関係なく常に同じレベルで発音します。ノートオフベロシティについては、送信のみに対応しており、受信しても無視します。

アフタータッチ

Nord Stage 4 の鍵盤はキーを押したままさらに圧力を加えることで、パラメーターの制御に使えるアフタータッチメッセージ (チャンネルブレッシャーとも呼ばれます) を送信できます。

プログラムチェンジ

プログラムチェンジメッセージを Global MIDI チャンネルに向けて送信すると、通常のプログラムバンクとライブプログラムバンク、シンセ / ピアノ / オルガンのプリセットライブラリバンクのすべてから、任意のプログラムもしくはプリセットを選べます。選ぶようになっているのがどのバンクの音色であるかは、バンク MSB によって識別されます。Nord Stage 4 本体でプログラムやプリセットを変更したときにも、以下の表に従ってプログラムチェンジメッセージが送信されます。

Nord Stage 4 は 1 つのバンク LSB だけでできるだけ多くのバンクおよびプログラムを選べるように設計されています。

	Prog	Live	Syn	Pno	Org
バンクMSB(CC#0)	0	1	2	3	4
バンクLSB(CC#32)	0-3	0	0-3	0	0
プログラムチェンジ	0-127	0-7	0-127	0-127	0-127

シンセ、ピアノ、オルガンのプリセットが指定されたメッセージを受信すると、対象のセクションのプリセットが選ばれます。ただし、セクションがオフになっているときはそのままです。

■ バンクセレクトメッセージを伴わずにプログラムチェンジメッセージが送信された場合は、プログラムの検索は最後に選ばれたバンクを対象として行われます。

MIDI メニューでは、Nord Stage 4 がグローバルチャンネルでプログラムチェンジメッセージを送受信するかどうかを選べます。詳細については、60 ページをご参照ください。

! Nord Stage 4 には影響を及ぼさず、プログラムチェンジメッセージを外部機器に送信したい場合は、Extern レイヤーのプログラムチェンジ機能を使います。

ローカルコントロール

Local Control Off 設定を使うと、Nord Stage 4 本体の鍵盤とパネルを音源部から切断できます。本体の鍵盤と外部機器経由の「MIDI ループ」のために演奏中に音が重なって聞こえる場合、ローカルをオフにします。ローカルコントロールのオン / オフは MIDI メニューで設定します。詳しくは 59 ページをご参照ください。

△ いくつかのパラメーターは設定に標準のコントロールチェンジではなく NRPN を使います。Nord Stage 4 を Local Control Off モードで操作する際は、MIDI メニューの NRPN 設定が「Send/Receive」に設定されていることを確認してください。

パニック



Nord Stage 4 を MIDI セットアップで使用しているときに音が止まらなくなった場合、または何らかの理由で現在発音しているサウンドをすべて止める必要が生じた場合は、[SHIFT] + [PANIC] ボタンを押します。これにより、内部で「オールノートオフ」メッセージが実行され、受信した CC メッセージがリセットされます。

11 メニュー

[SHIFT] を押しながらプログラムボタンを押すと、そのボタンごとに決まったメニューが開きます。これらのメニューから Nord Stage 4 のさまざまな機能にアクセスし、幅広い設定から自分の好みを選ぶことができます。メニューで変更された設定はすぐに有効になり、再度変更されるまで保存されます。

! MIDI メニューの Local Control 設定のみは例外で、Nord Stage 4 の電源を入れるたびに毎回「On」に戻ります。

ほとんどの設定項目はグローバルです。つまり、現在読み込まれているプログラムに関係なく Nord Stage 4 全体に適用されます。一方で、その他の設定 (Output, Aux KB, Extern メニューの設定) はプログラムごとに保存されます。

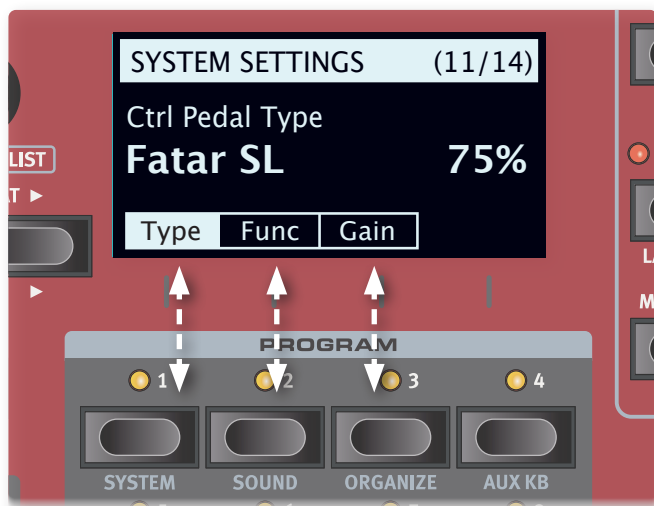
[SHIFT] を押しながら対応するプログラムボタンを押すと、メニューが開きます。**[PAGE </>]** ボタンでメニュー項目を選び、**[PROGRAM]** ダイアルで設定を変更します。

メニュー操作を終えるには、**[EXIT]** を押します。

! **ORGANIZE** 機能については、「プログラムの整理」(44 ページ) をご参照ください。

ソフトボタン

ひとつのメニューページに関連する複数の設定項目がまとめられていることがあります。ディスプレイの下部にラベルが表示されている場合、対応するプログラムボタンでフォーカスする項目を切り替えることができます。



メニューの「ソフトボタン」は上段のプログラムボタンに対応します。この画面では、3つのソフトボタンのみが表示されています。

System メニュー

[SHIFT] + [SYSTEM] を押すと System メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE </>]** を押して選びます。メニューを閉じるには **[EXIT]** を押します。

1 — Memory Protect

誤ってプログラムやプリセットが上書きされることを防ぐため、工場出荷時の Nord Stage 4 はメモリープロテクトがオンに設定されています。これをオフに設定すると、すべてのストア操作が有効になります。メニューの設定と 5 つの Live プログラムはこの設定の影響を受けません。

設定値: On (既定値)、Off

2 — Global Transpose

Nord Stage 4 全体を半音単位でトランスポーズします。各レイヤーが実際に演奏するピッチは、ここで設定したトランスポーズ値とプログラムで設定されているトランスポーズ値が足し合わせられたものになります。

設定値: -6 ~ none (既定値) ~ +6 semi

3 — Fine Tune

Nord Stage 4 全体のピッチを細かく調整します。

設定値: -50 ~ 0 (既定値) ~ +50 cent

4 — Version

現在インストールされているオペレーティングシステム (OS) とハードウェア (HW) のバージョンが表示されます。

[PROGRAM] ダイアルを回すと、OS 情報と HW 情報のどちらを表示するかを切り替えられます。

Sound メニュー

[SHIFT] + [SOUND] を押すと Sound メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE </>]** を押して選びます。**[PROGRAM]** ダイアルを回すと設定を変更できます。ソフトボタンが表示されている場合、押すことで個別の設定にアクセスできます。メニューを閉じるには **[EXIT]** を押します。

1 — Volume Level Offset

すべてのレイヤーの出力レベルを上下させ、プログラム全体の出力レベルを一時的に調整します。変更を保存するにはストア操作を行う必要があります。

設定値: -80 ~ 0 dB

2 — Piano Pedal Noise Level

対応ペダルが Nord Stage 4 に接続されている場合に適用できる、ピアノのペダルノイズのレベルを設定します。

設定値: -6 ~ 0 (既定値) ~ +6 dB

3 — Piano Strings Res Level

Med、Lrg、XL サイズのピアノライブラリーを使用している場合に適用できる、ピアノのストリングレゾナンスのレベルを設定します。

設定値: -6 ~ 0 (既定値) ~ +6 dB

4 — Organ Keyboard Trig

オルガンを発音させるために必要な打鍵の深さを変更できます。「High」を選ぶと B3 実機や他のオルガンと同様に、鍵盤に軽く浅く触れただけでも発音するようになります。

設定値: High (既定値)、Low

5 — B3 Organ Tone-Wheel

B3 オルガンモデルのトーンホイールクロストークとケーブルリーケージアーティファクトのレベルを設定します。

設定値: Clean、Vintage 1 (既定値)、Vintage 2

6 — B3 Organ Click Level

B3 オルガンモデルのキークリックのレベルを設定します。

設定値: Normal (既定値)、High

7 — Rotary Speaker Type

ロータリースピーカーのシミュレーションのタイプを設定します。「122 Close」を選ぶとスピーカーキャビネットの近くにマイクを立てたときのシミュレーションになります。

設定値: 122 (既定値)、122 Close

8 — Rotary Rotor Speed

ロータリースピーカーのウーファーローターの速度を設定します。

設定値: Low、Normal (既定値)、High

9 — Rotary Rotor Acc.

ロータリースピーカーのウーファーローターの加減速の速度を設定します。「High」を選ぶと Rotary Speaker **[SLOW/FAST]** を押してすぐに選んだ速度へ切り替わります。

設定値: Low、Normal (既定値)、High

10 — Rotary Horn Speed

ロータリースピーカーのトレブルホーンの速度を設定します。

設定値: Low、Normal (既定値)、High

11 — Rotary Horn Acc.

ロータリースピーカーのトレブルホーンの加減速の速度を設定します。「High」を選ぶと Rotary Speaker **[SLOW/FAST]** を押してすぐに選んだ速度へ切り替わります。

設定値: Low、Normal (既定値)、High

Aux KB メニュー

[SHIFT] + [AUX KB] を押すと Aux KB メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE ◀ / ▶]** を押して選びます。**[PROGRAM]** ダイアルを回すと設定を変更できます。ソフトボタンが表示されている場合、押すことで個別の設定にアクセスできます。メニューを閉じるには、**[EXIT]** を押します。

Aux KB 設定への変更を保持するにはストア操作を行う必要があります。

Aux KB MIDI チャンネルは MIDI メニューで設定します。詳しくは「MIDI メニュー」(59 ページ) をご参照ください。

1 — Aux Keyboard Enable

現在選択されているプログラムに対して、Aux KB 機能が有効かどうかを設定します。次の Aux Keyboard Layers 設定を有効にするには、Aux Keyboard Enable を「On」に設定する必要があります。

設定値: Off (既定値)、On

2 — Aux Keyboard Layers

Organ、Piano、Synth ソフトボタンでセクションを選び **[PROGRAM]** ダイアルを回すことで、どのレイヤーで Aux KB 機能を使うかを設定します。例えば、オルガンのレイヤー B を外部キーボードからコントロールするには、ソフトボタンで **Organ** を開いてから「-B」を選びます。Aux KB 機能を使わないレイヤーはダッシュ(「-」)で表示されます。

Organ 設定値: — (既定値)、A-、B-、AB

Piano 設定値: — (既定値)、A-、B-、AB

Synth 設定値: — (既定値)、A—、-B-、—C、AB-、A-C、-BC、ABC

3 — Keyboard Curve

Aux KB チャンネルで受信した MIDI ノートのベロシティカーブをスケールリングします。外部キーボードのアクションによっては、Nord Stage 4 のサウンドエンジンと適切にマッチングさせるためにこの設定を調整する必要がある場合があります。

設定値: Soft、Medium (既定値)、Hard

Output メニュー

[SHIFT] + [OUTPUT] を押すと Output メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE ◀ / ▶]** を押して選びます。**[PROGRAM]** ダイアルを回すと設定を変更できます。ソフトボタンが表示されている場合、押すことで個別の設定にアクセスできます。メニューを閉じるには、**[EXIT]** を押します。

1 — Output Bus Channels

Nord Stage 4 の出力ルーティングは、バスシステムを通じて管理されます。1つのメインバスと3つのサブバスがあり、サブバスにはI、II、IIIとラベルが振られています。既定ではすべてのセクションとそのレイヤーが、**OUT** 端子 1-2 へと続くメインバスに割り当てられます。

必要に応じて任意のレイヤーを任意のバスにルーティングすることができません。メインバスを含むすべてのバスは、出力 1-2 もしくは 3-4 を使ってステレオで出力することも、単一の出力を使ってモノラルで出力することもできます。

モノラル出力

特定のケースでは Nord Stage 4 からのすべてのサウンドを（ステレオではなく）モノラルで出力することが必要な、または望ましい場合があります。これを実現するには、バスの設定で 1、2、3、4 を選びます。単一の出力を割り当てたレイヤーのピアノサウンドとエフェクトは、モノラル用に最適化されます。

Main 設定値：1-2（既定値）、3-4、1、2、3、4、12+34

Sub I 設定値：1-2、3-4（既定値）、1、2、3、4、12+34

Sub II 設定値：1-2、3-4、1、2、3（既定値）、4、12+34

Sub III 設定値：1-2、3-4、1、2、3、4（既定値）、12+34

12+34 設定は、同じステレオ音源を 1-2 と 3-4、2つのステレオペアで出力します。この機能が活きるわかりやすい例のひとつは、オーディエンス用のメインスピーカーと演者用のモニタースピーカーに 1ペアずつステレオ音源を供給したいケースです。

2 — Organ/Rotary Output Bus

オルガンレイヤーとロータリースピーカーの両方で、どの出力バスを使うかを設定します。各設定にフォーカスするにはソフトボタンを押します。

ロータリースピーカーの出力バスを「←」に設定すると、ロータリースピーカーはオルガンレイヤーと同じ出力バスを使います。

ロータリースピーカーの「Auto」設定

「Auto」に設定すると、ロータリースピーカーはオルガン、ピアノ A/B、シンセ A/B/C のうち、ロータリースピーカーを使っており、かつ順番の早いレイヤーと同じバスから出力されます。例えば、オルガンがロータリーエフェクトを使用している場合、ロータリースピーカーの出力は常にオルガンの出力と同じになります。ただし、ピアノレイヤーがロータリーエフェクトを使っており、オルガンが使っていない場合には、ロータリースピーカーはピアノと同じバスから出力されます。

Organ 設定値：Main（既定値）、Sub I、Sub II、Sub III

Rotary 設定値：Main、Sub I、Sub II、Sub III、←、Auto（既定値）

3 — Piano Output Bus

ピアノ A、B レイヤーの出力バスをそれぞれ設定します。各設定にフォーカスするにはソフトボタンを押します。

ピアノ B の出力バスを「←」に設定すると、ピアノ B はピアノ A と同じ出力バスを使います。

A 設定値：Main（既定値）、Sub I、Sub II、Sub III

B 設定値：Main、Sub I、Sub II、Sub III、←（既定値）

4 — Synth Output Bus

シンセ A、B、C レイヤーの出力バスをそれぞれ設定します。各設定にフォーカスするにはソフトボタンを押します。

シンセ B やシンセ C の出力バスを「←」に設定すると、そのレイヤーは左隣のレイヤーと同じ出力バスを使います。

A 設定値：Main（既定値）、Sub I、Sub II、Sub III

B、C 設定値：Main、Sub I、Sub II、Sub III、←（既定値）

Pedal メニュー

[SHIFT] + [PEDAL] を押すと Pedal メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE ◀ / ▶]** を押して選びます。**[PROGRAM]** ダイアルを回すと設定を変更できます。ソフトボタンが表示されている場合、押すことで個別の設定にアクセスできます。メニューを閉じるには、**[EXIT]** を押します。

1 — Control Pedal

Type

Nord Stage 4 の **CONTROL PEDAL** 端子には、市販のエクスペリションペダルや Nord Single Pedal 2 を接続できます。使うペダルに合わせて設定を選びます。

設定値：Roland EV7（既定値）、Yamaha FC7、Korg、Fatar SL、Nord SP-2

💡 メニューページを開きながらペダルを操作すると、接続されたペダルの示す値が画面の右側に表示されます。これは、手元にあるペダルがリストに掲載されておらず、Nord Stage 4 で使えるかどうかを試しに調べてみたいときに役立ちます。

Func (Function)

接続されたペダルの機能を設定します。「Control」（モーフィングのペダルコントロール）と「Ctrl+Swell」（モーフィングのペダルコントロールと、オルガンのスウェルペダルの両方）の 2 つから選びます。

設定値：Control（既定値）、Ctrl+Swell

Gain

ペダルが示す値に係数をかけます。これは、ペダルをいっぱい踏み込んでも最大レベルに達しないときに役立ちます。値が大きくなるほど大きな係数がかかり、（ダイナミックレンジとは引き換えに）最大レベルに達しやすくなります。

設定値：1（既定値）～ 10

2 — Swell Pedal

Type

Nord Stage 4 の **ORGAN SWELL** 端子には、市販のエクスペリションペダルを接続できます。使うペダルに合わせて設定を選びます。

設定値：Roland EV7（既定値）、Yamaha FC7、Korg、Fatar SL

Func (Function)

接続されたペダルの機能を設定します。「Swell」（オルガンのスウェルペダル）、「Volume」（Nord Stage 4 全体の音量コントロール）、「Wheel Morph」（モジュレーションホイールの代用）の3つから選びます。

設定値：Swell（既定値）、Volume、Wheel Morph

Gain

ペダルが示す値に係数をかけます。値を大きくするほど大きな係数がかかり、最大レベルに達しやすくなります。これは、ペダルをいっぱい踏み込んでも最大レベルに達しないときに役立ちます。

設定値：1（既定値）～10

3 — Sustain Pedal

Type

SUSTAIN PEDAL 端子に接続したペダルを選びます。ディスプレイには1つまたは3つの垂直のバーが、選択したタイプに応じて表示されます。ペダルが正しく接続され、Type が適切に設定されている場合、ペダルの踏み込みに応じてバーが埋まります。トリプルペダルを接続している場合は、左側、中央、右側のそれぞれが3つのバーの位置に対応します。

「Nord SP-1」、「Normally Open」、「Normally Closed」は、シンプルなオン / オフタイプのペダルに対応します。「Nord SP-2」は値の連続的な検出が可能なタイプであり、トリプルペダルと同様にペダルノイズとハーブペダルに対応します。「Nord TP-1」は従来の Nord Triple Pedal 1 に対応します。Nord Triple Pedal 2 は専用の5ピンコネクターを使って **TRIPLE PEDAL** 端子に接続するため、この設定の影響を受けません。

設定値：Nord SP-1（既定値）、Nord SP-2、Nord TP-1、Normally Open、Normally Closed

Func (Function)

設定によっては、サステインと、ロータリースピーカーの Slow/Fast 切り替えを一度に行うことができます。「Sus+Rotor Hold」を選ぶと、ペダルを踏んでいる間だけ Fast に変わり、ペダルを放すと Slow に戻るようになります。「Sus+Rotor Tog.」を選ぶと、ペダルを踏むごとに Slow/Fast が切り替わります。

設定値：Sustain（既定値）、Sus+Rotor Hold、Sus+Rotor Tog.

4 — Triple Pedal Function

SUSTAIN PEDAL 端子に接続された Nord Triple Pedal 1、および **TRIPLE PEDAL** 端子に接続された Nord Triple Pedal 2 は、多種多様なセットアップとさまざまな機能のコントロールを実現できます。右側のペダルは常にサステイン機能です（オプションで Slow/Fast 切り替えの追加も可能）。左側と中央のペダルはそれぞれ多くのパラメーターのコントロールに使えます。

「User Assigned」設定について

左側または中央のペダルを「User Assigned」に設定すると、パネル上の対応するコントロールをオンにしておくことで、ペダルを次の機能に使うことができます。

- ・ Layer Scene II（レイヤーシーンの切り替え）
- ・ Pump（ポンピング効果のトリガー）
- ・ MstClock Tap（マスタークロックのタップテンポ）
- ・ Synth Vibrato（シンセレイヤーのピブラート）

Left 設定値：Una Corda（既定値）、User Assigned、Layer Scene II、Pump、MstClock Tap、Synth Vibrato、Program Up、Program Down、Rotor Hold、Rotor Toggle

Middle 設定値：Sostenuto（既定値）、User Assigned、Layer Scene II、Pump、MstClock Tap、Synth Vibrato、Program Up、Program Down、Rotor Hold、Rotor Toggle

Right 設定値：Sustain（既定値）、Sus+Rotor Hold、Sus+Rotor Tog.

5 — Rotor Pedal

Type

ROTOR PEDAL 端子に接続した機器の極性を選びます。ペダルの効果が反転してしまう場合には、ここを切り替えます。Nord Stage 4 Compact モデルでは、「Half Moon Switch」を選ぶこともできます。

設定値：Nord SP-1、Normally Open（既定値）、Normally Closed

Func (Function)

接続されたペダルの機能を設定します。「Rotor Toggle」を選ぶと、ペダルを踏むごとに Slow/Fast が切り替わります。「Rotor Hold」を選ぶと、ペダルを踏んでいる間だけ Fast に変わり、ペダルを放すと Slow に戻るようになります。

設定値：Rotor Toggle（既定値）、Rotor Hold

6 — Foot Switch

Type

Nord Stage 4 の **FOOT SWITCH** 端子には、1つまたは2つのボタン / スイッチを備えたさまざまな機器を接続できます。使う機器に合わせて設定を選びます。

極性がわからない場合は、選択した機能が期待通りに動作するか、実際に試します。画面右側のインジケータを目視することでも確認できます。うまく動作しない場合はもう片方の極性（元がオープンならクローズ、元がクローズならオープン）を選びます。

設定値：Single Open（既定値）、Single Closed、Dual Open、Dual Closed

Sw A (A Function)

接続したシングルペダル、またはデュアルペダルの1番目のスイッチの機能を設定します。

設定値：User Assigned（既定値）、Layer Scene II、Pump、MstClock Tap、Synth Vibrato、Program Up、Program Down、Rotor Hold、Rotor Toggle

Sw B (B Function)

接続したデュアルペダルの2番目のスイッチの機能を設定します。シングルペダルが接続されている場合は効果がありません。

設定値：User Assigned（既定値）、Layer Scene II、Pump、MstClock Tap、Synth Vibrato、Program Up、Program Down、Rotor Hold、Rotor Toggle

MIDI メニュー

[SHIFT] + [MIDI] を押すと MIDI メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE ◀ / ▶]** を押して選びます。**[PROGRAM]** ダイアルを回すと設定を変更できます。ソフトボタンが表示されている場合、押すことで個別の設定にアクセスできます。メニューを閉じるには、**[EXIT]** を押します。

1 — Local Control

Nord Stage 4 本体の鍵盤やフロントパネルに、内部のサウンドエンジンを制御させるかどうかを設定します。ローカルオンは、いわば通常の「演奏モード」です。ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤やフロントパネルの操作は MIDI メッセージを生成し、送信先がある場合に送信するのみにとどまります。

設定値: Off、On (既定値)

I *Local Control* 設定は、Nord Stage 4 の電源を入れるたびに毎回「On」に戻ります。

2 — Global / Aux Keyboard Channel

Global Channel

Nord Stage 4 が鍵盤、パネル、ペダルすべてのアクションを MIDI メッセージとして送信するときに使う、グローバルチャンネル MIDI チャンネルを設定します。また、これらの種類の MIDI メッセージを同じ番号のチャンネルから受信させることで、外部から Nord Stage 4 全体を制御することもできます。

設定値: Off、1 (既定値) ~ 16

Aux Keyboard Channel

Aux KB 機能で外部キーボードから MIDI メッセージを受信するための MIDI チャンネルを設定します。Aux KB 機能の概要については「Aux KB」(43 ページ) をご参照ください。

設定値: Off、1 ~ 16 (既定値)

3 — Organ Channel

各オルガンレイヤーを制御するための受信 MIDI チャンネルを設定します。

A 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

B 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

4 — Piano Channel

各ピアノレイヤーを制御するための受信 MIDI チャンネルを設定します。

A 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

B 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

5 — Synth Channel

各シンセレイヤーを制御するための受信 MIDI チャンネルを設定します。

A 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

B 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

C 設定値: Off (既定値)、1 ~ 16

6 — Extern Channel

Extern モードに設定された各シンセレイヤーの送信 MIDI チャンネルを設定します。これはグローバル設定です。つまり、現在読み込まれているプログラムに関係なく Nord Stage 4 全体に適用されます。

A 設定値: Off、1 ~ 13 (既定値) ~ 16

B 設定値: Off、1 ~ 14 (既定値) ~ 16

C 設定値: Off、1 ~ 15 (既定値) ~ 16

Thru

グローバルまたはシンセチャンネルから受信した MIDI メッセージは、Nord Stage 4 の Extern チャンネルを経由して別の MIDI 機器へ転送できます。この機能を MIDI スルーと呼び、Thru 設定でそのオン / オフを切り替えます。

設定値: Off (既定値)、On

7 — Control Change / NRPN / Device Change Mode

CC (Control Change)

コントロールチェンジメッセージを送受信するかどうか、ここで設定します。NRPN および「デバイス」メッセージに分類されるコントロールチェンジメッセージは、この設定の対象外です。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

NRPN

NRPN メッセージを送受信するかどうか、ここで設定します。いくつかのパラメーターは、一般的なコントロールチェンジメッセージの代わりに NRPN (Non-Registered Parameter Number) メッセージを使用してその機能を制御します。この方法を採用している代表的なパラメーターは、シンセピッチバート、アルペジエーター、LFO のようにディスプレイを使用するパネルコントロールです。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

Dev (Device)

デバイスメッセージを送受信するかどうか、ここで設定します。Nord Stage 4 では、これらの物理コントローラーの操作によって生成される MIDI メッセージのことをデバイスメッセージと呼びます:

- ・ピッチスティック
- ・モジュレーションホイール
- ・アフタータッチ
- ・サステインペダル
- ・コントロールペダル
- ・スウェルペダル
- ・ボリューム (Swell Pedal Function が「Volume」に設定されている場合)

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

8 — Program Change Mode

PC (Program Change)

プログラムチェンジメッセージをグローバルチャンネルで送受信するかどうか、ここで設定します。これは Nord Stage 4 の「内部」プログラムにのみ適用されます。Extern セクションから送信されるプログラムチェンジメッセージは、この設定の影響を受けません。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

PC Ext (Program Change Extended)

プリセットライブラリーバンクに対するプログラムチェンジおよびバンクセレクトメッセージを、グローバルチャンネルで送受信するかどうか、ここで設定します。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

9 — Transpose MIDI at

グローバル設定とプログラムごとの設定を足し合わせたトランスポーズ値が、Nord Stage 4 の内と外、どちらで適用されるかを設定します。「In」に設定すると、受信した MIDI ノートメッセージにトランスポーズ値が適用されます。「Out」に設定すると、送信する MIDI ノートメッセージにトランスポーズ値が適用されます。「In」のときの送信ノートおよび「Out」のときの受信ノートは、トランスポーズ値の影響を受けません。

設定値: In (既定値)、Out

Extern メニュー

[SHIFT] + [EXTERN] を押すと Extern メニューが開きます。メニュー項目は **[PAGE ◀ / ▶]** を押して選びます。**[PROGRAM]** ダイアルを回すと設定を変更できます。メニューを閉じるには、**[EXIT]** を押します。

Extern メニューのほとんどの項目では、ソフトボタンを押すことで、どの Extern レイヤーを操作の対象とするかを切り替えることができます。

1 — Keyboard Velocity

Extern MIDI チャンネルにノートメッセージを送信するときのペロシティカーブを設定します。「Soft」では弱い打鍵でも大きなペロシティ値が生成されやすくなりますが、「Hard」では強く打鍵しないと大きなペロシティ値が生成されません。

設定値: Soft、Mid (既定値)、Hard

2 ~ 4 — Program Change MSB/LSB/PC

「完全な」プログラムチェンジは、バンクセレクト MSB (MSB)、バンクセレクト LSB (LSB)、およびプログラムチェンジ「本体」(PC) の 3 つから構成されます。このうち PC の値は、Extern レイヤーのシンセディスプレイ右側のダイアルからも変更できます。

i 後述の Send On Load 設定を「On」に設定すると、Nord Stage 4 はプログラムをロードすると同時に、ここで値を設定した 3 つのプログラムチェンジメッセージを、Extern MIDI チャンネルから送信します。

Program Change MSB

バンクセレクト MSB (Most Significant Byte、最上位バイト) はコントローラー 0 番として規定されているコントロールチェンジメッセージです。プログラムを複数のバンクに分けて管理する MIDI 機器において、どのバンクのプログラムをロードするかを後述のバンクセレクト LSB と組み合わせることで指定します。

設定値: — (オフ、既定値)、0 ~ 127

Program Change LSB

バンクセレクト LSB (Least Significant Byte、最上位バイト) はコントローラー 32 番として規定されているコントロールチェンジメッセージです。プログラムを複数のバンクに分けて管理する MIDI 機器において、どのバンクのプログラムをロードするかを前述のバンクセレクト MSB と組み合わせることで指定します。

設定値: — (オフ、既定値)、0 ~ 127

Program Change PC

「完全な」プログラムチェンジを構成するメッセージ群の最後には、プログラムチェンジ「本体」が送信されます。

設定値: 0 (既定値) ~ 127

5 ~ 6 — MIDI CC #1/#2

Extern レイヤーのシンセディスプレイに備えられたうち左側と中央のダイアルは、回すとコントロールチェンジメッセージを送信します。このときのコントローラー番号は、それぞれの Extern レイヤーとそのダイアルに任意のものを設定することができます。

設定値: 0 ~ 2 (既定値) ~ 119

7 ~ 11 — Device MIDI

☞ (訳注) ディスプレイに実際に表示されるメニュー項目の名前は、順に ModWheel MIDI、Aftertouch MIDI、Ctrl Pedal MIDI、Swell Pedal MIDI、Volume Pedal MIDI です。Nord Stage 4 では、物理コントローラーの操作によって生成される MIDI メッセージのことをデバイスメッセージと呼びます。詳しくは 60 ページをご参照ください。

Extern レイヤーごとに、各種デバイスメッセージを送信するかどうかを設定します。

設定値: On (既定値)、Off

☞ PStick MIDI や Sustain Pedal MIDI はパネルの **[PSTICK]** ボタンや **[SUSTPED]** ボタンの操作によってオン/オフを切り替えます。

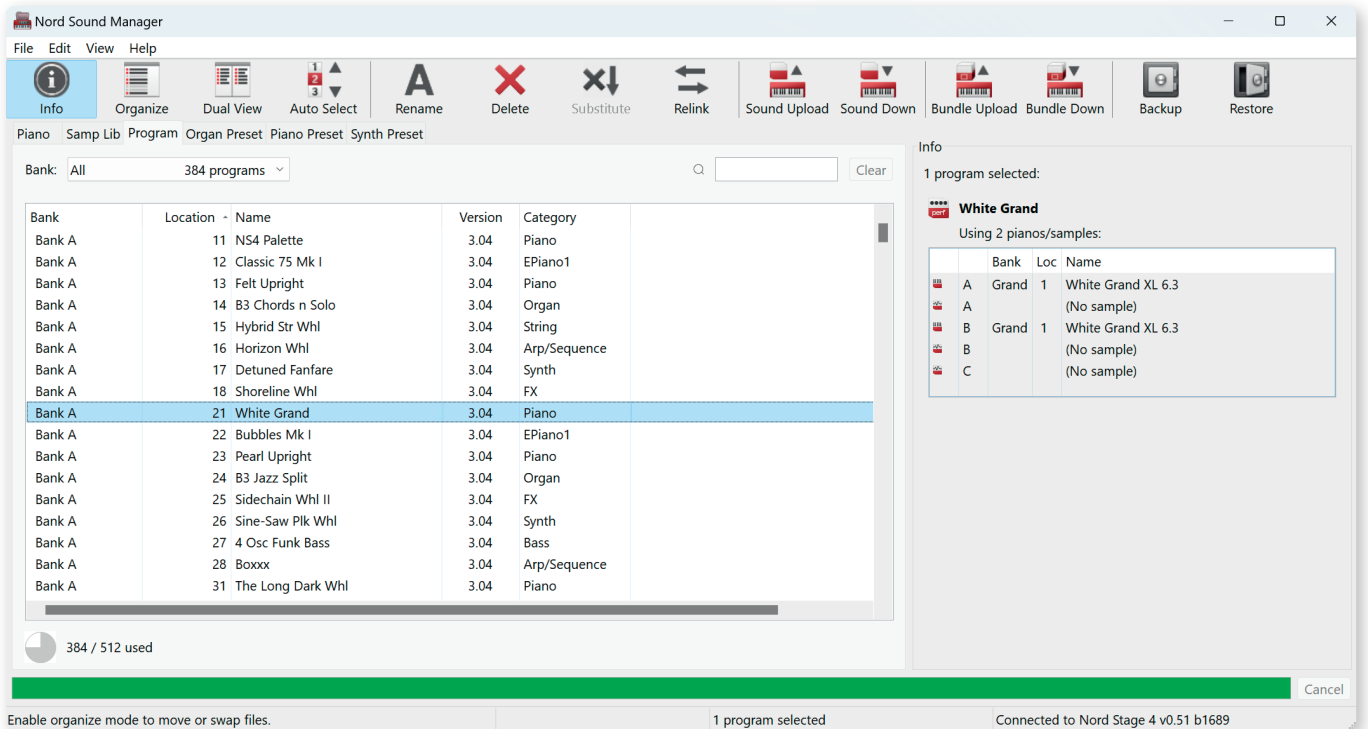
i ポリュームペダルメッセージは、Pedal メニューの Swell Pedal Func 設定で「Volume」が選ばれている場合のみ送信されます。Pedal メニューの Swell Pedal Func 設定で「Volume」が選ばれ、かつ Pedal メニューの Control Pedal Func 設定で「Ctrl+Swell」が選ばれていると、スウェルペダルメッセージとポリュームペダルメッセージの両方が送信され、場合によっては意図しない結果を生じる可能性があることにご注意ください。

12 — Send On Load

Extern レイヤーのプログラムチェンジ (PC)、ポリューム (Vol)、ユーザーで定義したコントロールチェンジ (UsrCC) の各 MIDI メッセージを、プログラムのロードと同時に自動的に送信するかどうかを設定します。

設定値: Off (既定値)、On

12 Nord Sound Manager



Nord Sound Manager について

Nord Sound Manager は、Nord Stage 4 の内蔵メモリーに保存されたさまざまなデータに対しアクセス、入れ替え、バックアップといった操作を提供するアプリケーションです。Nord Sound Manager ができることの一例を次に示します。

- ・プログラムやプリセットの並べ替えおよび名前の変更
- ・コンピューターからのピアノサウンドのダウンロード
- ・コンピューターからのサンプルファイルのダウンロード
- ・コンピューターからのオルガン、ピアノ、シンセプリセットのダウンロード
- ・コンピューターへのプログラムやプリセットのアップロード
- ・コンピューターへのプログラムと使用されているピアノサウンドやサンプルファイルのバンドルのアップロード
- ・コンピューターへの Nord Stage 4 全体のバックアップ
- ・バックアップを使用した Nord Stage 4 全体の復元

Nord Sound Manager は www.nordkeyboards.com の「Software」エリアからダウンロードできます。

動作環境

Mac OS X 10.10 以降

Windows 7 ~ 11

Windows 環境での使用には、Nord USB Driver v3.0 以降が必要です。通常は Windows Update を通じてインストールされますが、www.nordkeyboards.com から手動でダウンロードすることもできます。

13 Nord Sample Editor 4



Nord Sample Editor 4 について

Nord Sample Editor 4 は、シンセセクションで使用するカスタムサンプルの作成ツールです。録音ボタンを押す、オーディオファイル (.wav または .aiff) を希望するキーにドラッグアンドドロップするだけの簡単な操作で、波形エディター上でスタート、ストップ、およびループポイントが設定され、カスタムサンプルとして Nord Stage 4 で演奏する準備が整います。

フルマッピングされた音源を作成する場合も、シンプルな FX を作成する場合も、楽曲のイントロを単一のキーにアサインするだけの場合も、Nord Sample Editor 4 は Nord Stage 4 とともに多くの可能性を開きます。Nord Sample Editor 4 の主な機能を次に示します：

- ・直感的なユーザーインターフェイス
- ・アプリケーション単独での録音機能
- ・単一または複数のファイルのドラッグアンドドロップへの対応
- ・自動または手動によるインポート
- ・複数ゾーンに対する一括編集
- ・無音ゾーンの作成

Nord Sample Editor 4 は www.nordkeyboards.com の「Software」ページからダウンロードできます。

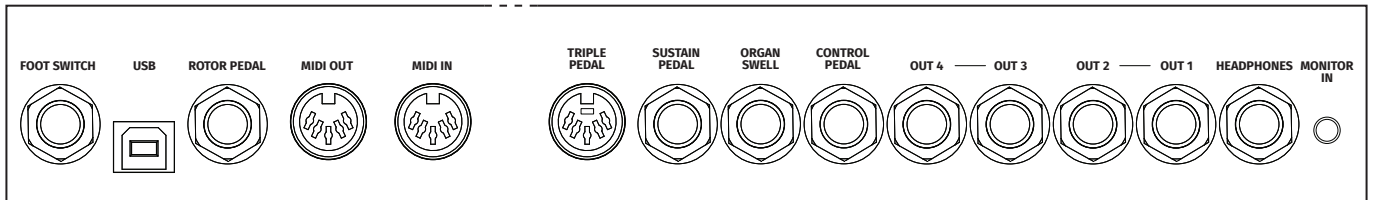
動作環境

Mac OS X 10.10 以降

Windows 7 ~ 11

Windows 環境での使用には、Nord USB Driver v3.0 以降が必要です。通常は Windows Update を通じてインストールされますが、www.nordkeyboards.com から手動でダウンロードすることもできます。

資料: 接続端子



オーディオ

安全のために: アンプやスピーカーの電源を入れる前に、すべてのオーディオ接続を行います。アンプの電源を入れるのは、必ず最後にしてください。シャットダウンするときは、必ず最初にアンプやスピーカーの電源をオフにしてください。

△ Nord Stage 4を大音量で使用すると、聴覚を傷める危険があります。

Headphones

1/4 インチのステレオヘッドホン出力です。OUT 1-2 にルーティングされたオーディオを出力します。

Out 1-2、Out 3-4

1/4 インチ、アンバランスのラインレベル出力です。アンプやレコーディング機器に接続します。Nord Stage 4 は、左右のオーディオチャンネルに個別のシグナルパスを備えており、ステレオ音源を出力できます。

工場出荷時の Nord Stage 4 は、OUT 1-2 を通じてオーディオを出力するように設定されています。ステレオまたはモノラル構成で OUT 3-4 を利用する方法については、57 ページの「Output メニュー」をご参照ください。

Monitor In

スマートフォン、タブレット、コンピューターなどの音源を Nord Stage 4 に入力するための、3.5 mm ステレオミニジャックです。MONITOR IN から入力された信号は、HEADPHONES および OUT 1-2 にルーティングされます。これを活用すると Nord Stage 4 から録音済みの音楽やメトロノームを流すことができます。リハーサルや、同期演奏を活用したパフォーマンスにも便利です。

△ Master Levelコントロールは、Monitor In信号のレベルには影響しません。

MIDI

MIDI In

5 ピンの MIDI IN 端子は、コントローラーキーボード、シーケンサー、またはコンピューターなどの外部デバイスから MIDI データを受信するために使用されます。

MIDI Out

5 ピンの MIDI OUT 端子は、音源モジュールやコンピューターなどの外部デバイスに MIDI データを送信するために使用されます。

USB

USB 端子は Nord Stage 4 をコンピューターに接続するために使用されます。Nord Stage 4 をコンピューターに USB で接続することで、MIDI メッセージの送受信、本体 OS のアップデートの他、Nord Sound Manager や Nord Sample Editor 4 との通信も行えます。これらのアプリケーションと本体 OS の最新版は、www.nordkeyboards.com からいつでもダウンロードできます。

i USB-MIDIと5ピンMIDI端子は常に同時に使用できます。

ペダル

Triple Pedal

5 ピンの TRIPLE PEDAL 入力には Nord Triple Pedal 2 (TP-2) ユニットのものと互換性があります。3 つのペダルは、ピアノ関連の機能に限って使用することも、その他のさまざまな機能を制御するために使用することもできます。詳しくは「Pedal メニュー」(58 ページ)をご参照ください。

i Nord Triple Pedalのピアノ関連の機能については26ページをご参照ください。

Sustain Pedal

Nord Sustain Pedal 1 (SP-1)、Nord Sustain Pedal 2 (SP-2)、Nord Triple Pedal 1 (TP-1)、すべての一般的なタイプのサステインペダルを入力するための 1/4 インチジャックです。サステインペダルのタイプと極性は、Pedal メニューで設定します。

Control Pedal

エクспレッションペダルをモーフ機能やオルガンスウェルのコントローラーとして使用するための 1/4 インチジャックです。一般的なエクспレッションペダルのほとんどのモデルをサポートします。どのモデルを接続しているかは、Pedal メニューで設定します。

Organ Swell

エクスプレッションペダルをオルガンセクションのスウェルペダル、全体の音量コントロール、またはモジュレーションホイールの代わりとして使用するための 1/4 インチジャックです。一般的なエクスプレッションペダルのほとんどのモデルをサポートします。どのモデルを接続しているかは、Pedal メニューで設定します。

Foot Switch

シングルタイプまたはデュアルタイプの、ボタン / モーメンタリーペダル用に備えられた 1/4 インチジャックです。フットスイッチにはプログラムの変更、レイヤーシーンの切り替え、特定のエフェクトのコントロールなど、さまざまな機能を割り当てることができます。詳しい設定方法については、「Pedal メニュー」(58 ページ) をご参照ください。

Rotor Pedal

スイッチタイプのペダル用の 1/4 インチジャックです。ロータリースピーカーエフェクトの Slow/Stop と Fast の切り替えに使用します。ペダルをホールドモードとトグルモードどちらで使用するかは、Pedal メニューで設定します。

Nord Stage 4 Compact モデルと互換性のある、別売の Nord Half Moon Switch も Rotor Pedal ジャックへ取り付けます。Compact モデルでは、Pedal メニューの Rotor Pedal Type 設定に「Halfmoon」が用意されています。

資料: MIDIコントローラーナンバー表

パラメーター	CC#	パラメーター	CC#	パラメーター	CC#
Bank Select MSB	0	Synth Vibrato Mode	3:19	Delay Dry Wet	93
Bank Select LSB	32	Synth Mod Envelope Attack	52	Delay Tempo	94
		Synth Mod Envelope Decay	53	Delay Feedback	95
Sustain	64	Synth Osc Ctrl	56	Delay Analog	2:89
Sostenuto	66	Synth Mod Envelope Release	57	Delay Enable	2:88
Soft Pedal	67	Synth Mod Envelope To Pitch	3:33	Delay Ping-pong	2:91
Ctrl Pedal (Expression)	11	Synth Mod Envelope Velocity	3:32	Delay Filter Type	2:92
		Synth Filter Freq	59	Amp/EQ Type/Variation	2:81
Organ Octave Shift	12	Synth Filter Resonance	60	Amp/EQ Drive	101
Organ Model	2:16	Synth Filter Drive	3:49	Amp/EQ Bass	102
Organ Preset	15	Synth Filter KBD Track	3:50	Amp/EQ Mid	103
Organ Drawbar 1	16	Synth Filter Type	3:51	Amp/EQ Treble	104
Organ Drawbar 2	17	Synth Amp Envelope Attack	68	Amp/EQ Enable	2:80
Organ Drawbar 3	18	Synth Amp Envelope Decay	69	Amp/EQ Mid Frequency	107
Organ Drawbar 4	19	Synth Amp Envelope Release	71	Rotary Speed	108
Organ Drawbar 5	20	Synth Amp Envelope Velocity	3:56	Rotary Drive	110
Organ Drawbar 6	21	Synth Arp/Gate Mode	3:72	Reverb Bright	2:106
Organ Drawbar 7	22	Synth Arp/Gate Rate	74	Reverb Amount	113
Organ Drawbar 8	23	Synth Arp/Gate Range	76	Reverb Type/Variation	2:105
Organ Drawbar 9	24	Synth Arp/Gate Direction	3:74	Reverb Enable	2:104
Organ Percussion Enable	25	Synth Arp/Gate ZigZag	3:75	Compressor Amount	117
Organ Vibrato Type	26	Synth Arp/Gate Run	77	Compressor Enable	2:96
Organ Vibrato Enable	27	Synth Arp/Gate Pattern On	3:73	Compressor Mode	2:97
Organ Percussion Harmonic	28	Synth LFO Rate	79		
Organ Percussion Speed	29	Synth LFO Waveform	3:80		
Organ Percussion Level	30	Synth Unison	3:18		
		Synth Sample Bright	3:8		
Piano Octave Shift	35	Synth Sample Cat/Sample	3:4:x:x		
Piano Type/Model/Variation	2:32 ~34	Synth Waveform	3:2		
Piano Timbre	2:41				
Piano Acoustics	2:44	Mod 1 Enable	2:64		
Piano Unison	2:40	Mod 1 Type/Variation	2:65		
		Mod 1 Amount	85		
Synth Mode	3:0	Mod 1 Rate	86		
Synth Octave Shift	44	Mod 2 Type/Variation	2:73		
Synth Glide Rate	48	Mod 2 Amount	89		
Synth Voice Mode	3:16	Mod 2 Rate	90		
		Mod 2 Enable	2:72		

1 つ以上のコロンを伴って記載されたパラメーターは、パラメーターの指定に NRPN を使用します。最初の番号は CC#99 (NRPN MSB) に対応し、2 番目の番号は CC#98 (NRPN LSB) に対応します。値は CC#38 (Data Entry LSB) によって指定します。特に指定がない限り、CC#6 (Data Entry MSB) は 0 として扱われます。完全な NRPN メッセージは、CC#99、CC#98、CC#6、および CC#38 の 4 つのメッセージで構成されます。



索引

A

Acc (アクセント) 35
 Amp Envelope 33
 Amp Sim / EQ 50
 Analog (ディレイ) 50
 Analog モード (シンセ) 28
 A-Pan (Auto-Pan) 48
 Arpeggiator 35
 Arpeggiator メニュー 35
 Arpeggiator/Gate 17、35
 Arrows 12
 A.T. (アフタータッチ、モーフソース) 37
 Attack (エンベロープ) 33
 Aux KB (MIDI チャンネル) 60
 Aux KB (補助キーボード) 42
 Aux KB メニュー 57
 A-Wah (オートワウ) 48

B

B3 19
 B3 Bass 21
 B3 Organ Key Click Level 57
 B3 Organ Tonewheel Mode 57
 Bank Select Settings A/B/C (Extern) 61
 Bank ボタン 40
 Bass (イコライザー) 50
 Bell (Analog) 30
 BP (バンドパス) 31
 Bright/Dark (リバーブ) 51

C

CC (MIDI メニュー) 60
 CC ナンバー表 66
 Chorale (リバーブ) 51
 Chorus 49
 Chorus (オルガン) 19
 Clavinet 24
 Compressor 51
 Control Change ナンバー表 66
 Control Pedal 58
 Control Pedal (接続端子) 64
 Control/Program Change Mode 60
 Copy 42
 Copy Panel 42
 Ctrlped (モーフソース) 37

D

Decay (エンベロープ) 33
 Delay (エフェクト) 49
 Dev (デバイス、MIDI) 60
 Device MIDI A/B/C (Extern) 61
 Digital (ピアノ) 24
 Drawbar Live 21
 Drive (アンプシミュレーター) 50
 Drive (フィルター) 32
 Dyn Comp 25
 Dynamic Compression 25
 Dyno 1 26
 Dyno 2 26

E

Effects 設定 (ディレイ) 49
 Electric (ピアノ) 24
 Ens (アンサンブル) 49
 Env Amt (エンベロープアマウント) 33
 EQ (エフェクト) 50
 Exclude (KB Hold) 36
 Exit 43
 Exit (ボタン) 43
 Extern LED 40
 Extern (MIDI) 53
 External Sync (マスタークロック) 39、54
 Extern セクション 45
 Extern チャンネル 60
 Extern メニュー 61
 Extern モード 45

F

Farf (Farfisa) 20
 Fast 設定 (コンプレッサー) 51
 Fine Tune 56
 Flanger 49
 FM 28、30
 Foot Switch (接続端子) 64
 Freq (シンセ) 32
 Func 1 (フットスイッチ) 59
 Func 2 (フットスイッチ) 59
 FX Focus 47

G

Gain (Ctrl Pedal) 58
 Gain (Swell Pedal) 58
 Gate 35
 Glide 34
 Global Transpose 56
 Global 設定 (エフェクト) 47
 Global 設定 (リバーブ) 51
 Grand 24
 Group 34、35、32

H

Harmonic (FM) 30
 Headphones 64
 HP 24 Filter (エフェクト) 51
 HP (ハイパス) 31

I

Inharmonic (FM) 30

J

JC (アンプモデル) 50

K

KB Hold 36

KB Hold からの除外 36
 KB Sync 36
 KB Touch 25
 KB Zone 27
 Keep Edits (Samples モード) 28
 Keyboard Velocity A/B/C (Extern) 61
 Keyboard Zones (Extern) 45

L

Layer Scene II 15、42
 Legato 34
 LFO 33
 Lo/Hi 優先モード (ボイス) 34
 Local Control 55、59
 LP 12 31
 LP 24 Filter (エフェクト) 51
 LP 24 (シンセ) 31
 LP M 31
 LP+HP 31

M

Master Clock 38
 Master Clock (アルベジエーター) 36
 Memory Protection 13、56
 Mid (イコライザー) 50
 MIDI 53
 MIDI CC (Extern) 46
 MIDI In 64
 MIDI LED 40
 MIDI Out 64
 MIDI コントローラーナンバー表 66
 MIDI スルー 60
 MIDI メッセージ 55
 MIDI メニュー 59
 MIDI 接続端子 64
 Mod 1 48
 Mod 2 49
 Mode (シンセ) 28
 Model (ピアノ) 24
 Mon/Copy 42
 Monitor 42
 Monitor In 64
 Mono (ボイス) 34
 Mono (出力) 57
 Morph Assign 37
 Move (プログラムの整頓) 44
 Mst Clk (Mod 1) 48
 Mst Clk (ディレイ) 50
 Mst Clk (マスタークロック) 38
 Multi (Analog モード) 29

N

Noise (Analog モード) 30
 Nord Piano Library 24
 Nord Sample Editor 4 63
 Nord Sound Manager 62
 Nord SP-1 (Sustain Pedal 1) 59
 Nord SP-2 (Sustain Pedal 2) 59
 Nord TP-1 (Triple Pedal 1) 59
 Nord Triple Pedal 1 26
 Nord Triple Pedal 2 59
 NRPN (MIDI メニュー) 60
 NRPN (パラメーターナンバー表) 66

Num Pad 43

O

Octave Shift 27
Octave Shift (Extern) 45
Organ Channel 60
Organ Swell (接続端子) 64
Osc Ctrl 28、30
Out 1-4 64
Output Bus Channels 57
Output メニュー 57

P

Page ボタン 40
Panic 39、55
Paste 42
PC Ext (Program Change Extended) 60
PC (Extern メニュー) 61
PC (MIDI メニュー) 60
Pedal Tap (マスタートックロック) 39
Pedal メニュー 58
Percussion (B3) 20
Phaser 49
Piano Info ボタン 25
Piano Pedal Noise Level 57
Piano Select ダイアル 24
Piano String Res Level 57
Ping Pong 設定 49
Pipe 1 21
Pipe 2 21
Poly 35
Poly 設定 (オルガンパーカッション) 20
Program Change LSB (Extern) 61
Program Change MSB (Extern) 61
Program Change (MIDI) 55
Program ダイアル 40
Pstick 18、23、28
Pstick (Extern) 45
Pstick/Rng (ピッチスティック / レンジ) 28
Pump (エフェクト) 48
Pure 29

R

Range (アルベジエイター) 35
Release (エンベロープ) 33
Res (レゾナンス) 32
RM (Ring Modulation) 48
Rotary Horn Speed 57
Rotary Rotor Acceleration 57
Rotary Rotor Speed 57
Rotary Speaker 52
Rotor Pedal 59
Run (Arp/Gate) 35

S

Section Edit 42
Set Key ボタン (スプリット) 38
Shape Sine (Analog モード) 29
Shape (Analog モード) 29
Shift ボタン 12、43
Small (アンプモデル) 50
Soft Release 機能 25
Solo ボタン 41
Sound メニュー 56
Spin 49
Split 38
Split Position 38
Split XFade (Crossfade) 38
Store As 40、41
String Resonance 25
Subdivision (マスタートックロック) 39
Super (波形) 29
Sustain Pedal 58
Sustain Pedal (接続端子) 64

Sustped 18、23、28
Sustped (Extern) 45
Swap (プログラムの整頓) 44
Sync 機能 (オルガンプリセット) 21
Sync 波形 (Analog モード) 29
System メニュー 56

T

Tap Tempo (ディレイ) 49
Thru (MIDI) 60
Timbre (クラビネット) 26
Timbre (ピアノ) 26
To Rotary 51
Transpose 39
Transpose MIDI At (MIDI メニュー) 60
Treble (イコライザー) 50
Trem (トレモロ) 48
Triple Pedal Function 59
Triple Pedal (接続端子) 64
Twin (アンプモデル) 50

U

Una Corda 26
Undo 41
Unison 34
Upright 24
USB 64

V

Variation (エフェクト) 48
Velocity (アンプエンベロープ) 33
Vibe 49
Vibrato (オルガン) 19
Vibrato (シンセ) 36
Voice (シンセ) 34
Volume (Extern) 46
Vox 20

W

Wah (ワウワウ) 48
Wave (波形) 30
Wheel (モーフソース) 37
www.nordkeyboards.com 7

ア

アクセント 35
アタック (エンベロープ) 33
アップライト 24
アナログ (ディレイ) 50
アナログモード (シンセ) 28
アフタータッチ (モーフソース) 37
アルベジエイター 35
アルベジエイター / ゲート 17、35
アルベジエイターのパターン 35
アルベジエイターの有効化 35
アルベジエイターメニュー 35
アンサンブル 49
アンドゥ 41
アンプエンベロープ 33
アンプシミュレーター / イコライザー 50
アンプペロシティ 33

イ

イコライザー (エフェクト) 50
移調 (→トランスポーズ) 39
移動 (プログラムの整頓) 44

ウ

ウナコルダ 26

エ

エンベロープ (シンセ) 32
エンベロープアマウント 33

オ

オーディオの接続 64
オートパン 48
オートワウ 48
オクターブシフト 27
オクターブシフト (Extern) 45
オシレーター 23、28
オシレーターエンベロープ 33
オルガン 18
オルガンチャンネル 60
オルガンモデル 18
音域 (アルベジエイター) 35
音価 (マスタートックロック) 39

カ

外部機器との同期 (マスタートックロック) 39、54

キ

キークリック (B3) 20
キーボードシンク 36
キーボードシンク (マスタートックロック) 39
キーボードスプリット 38
キーボードゾーン 27
キーボードタッチ 25
キーボードトラッキング 31
キーボードホールド 36

ク

グライド 34
クラビネット 24
グループ編集 34、35、32
グローバル (MIDI) 53
グローバル (MIDI チャンネル) 53、59
グローバルトランスポーズ 56

ケ

ゲート 35
ゲートの有効化 35

コ

高域 (イコライザー) 50
コーラス 49
コーラス (オルガン) 19
コピー 42
コラール設定 (リバーブ) 51
コントロールチェンジナンバー表 66
コントロールペダル 58
コントロールペダル (モーフソース) 37
コンプレッサー 51

サ

サウンドの初期化 (シンセ) 36
サステインペダル 58
サブディビジョン (マスタートックロック) 39
サンプル 28
サンプルごとのプリセット値 28

シ

出力 1-4 64
出力バスの設定 57
シングルレイヤープリセット 41
シンセセクション 27
シンセチャンネル 60

ス

スウェル (オルガン) 21
スウェルペダル 58
ストア (プリセット) 41
ストア (プログラム) 39
ストリングレゾナンス 25
スプリット 38
スプリットクロスフェード 38
スプリットポジション 38
スルー (MIDI) 60
スワップ (プログラムの整理) 44

セ

整理 44
セクションエディット 42
接続 64
セレクトボタン 12

ソ

ソステヌート 26
ソフトペダル 26
ソフトボタン 56

タ

ダーク設定 (リバーブ) 51
ダイヤル 11
ダイナミックコンプレッション 25
タップテンポ (→ ペダルタップ) 39
タップテンポ (ディレイ) 49

チ

中域 (イコライザー) 50

テ

低域 (イコライザー) 50
ディケイ (エンベロープ) 33
ディレイ (エフェクト) 49
ティンバー (クラビネット) 26
ティンバー (ピアノ) 26

ト

トランズゲート (→ ゲート) 35
トランスポーズ 39
トリプルペダルの機能 59
トレモロ 48
ドローパー 19

ナ

名前を付けて保存 40、41

ノ

ノブ 11

ハ

パーカッション (B3) 20
バイパオルガン 21
パターン 35
パネルのコピー 42
パラメーター (Extern) 46
パラメーターのコピー 42
パラメーターのモニター 42
バンドパスフィルター 31

ヒ

歪み (アンブシミュレーター) 50
歪み (フィルター) 32
ピアノ 23
ピアノチャンネル 60
ピアノのファイルサイズ 24
ピアノモデル 24
ピッチスティック 18、23、28
ピッチバンド (→ ピッチスティック) 18、23、28
ピッチバンドレンジ (→ ピッチスティックレンジ) 28
ピブラート (オルガン) 19
ピブラート (シンセ) 36
ピンポンディレイ 49

フ

ファインチューニング 56
フィルターエンベロープ 33
フィルターセクション 30
フィルターセレクトボタン 31
フィルター設定 (ディレイ) 50
フェイザー 49
フェーター 11
フットスイッチの機能 59
フットスイッチの接続 64
ブライต์設定 (リバーブ) 51
フランジャー 49
プリセット (オルガン) 19、21
プリセットのストア 41
プリセットライブラリー 14、40
プログラム 37
プログラムチェンジ 55
プログラムチェンジ (Extern メニュー) 61
プログラムチェンジ (MIDI メニュー) 60
プログラムのストア 39
プログラムの整理 44
プログラムビュー 12、41
プログラムボタン 43
プログラムレベル 44、56

ヘ

ベースト 42
ペダルタップ (マスタークロック) 39
ペダルノイズ 25
ペダルの接続 64
ヘッドホンの接続 64
ベルオシレーター (Analog モード) 30
ペロシティ (アンブエンベロープ) 33
ペロシティカーブ (→ キーボードタッチ) 25

ホ

ホイール (モーフソース) 37
ボイス (シンセ) 34
保存 (→ ストア) 39、40、41
ポリフォニック 35
ポリフォニックアルベジエーター 35
ポルタメント (→ グライド) 34
ポンプ (エフェクト) 48

マ

マスタークロック 38

マスタークロック (アルベジエーター) 36

メ

メニュー 56
メモリープロテクション 13、56

モ

モード (シンセ) 28
モーフアサイン 37
モーフインジケーター 38
モーフデスティネーション 38
モーフ機能 15、37
モジュレーションホイール 37
モデル (ピアノ) 24
モニター / コピー 42
モニター入力 64
モノフォニック 34
モノラル 57

ヤ

矢印 12

ユ

ユニゾン 34

ラ

ライブモード 43

リ

リストビュー 12
リストビュー (ピアノ) 25
リトリガー (→ キーボードシンク) 36
リバーブ 51
リングモジュレーション 48

レ

レイヤーエフェクト 47
レイヤーシーン 15、42
レイヤーの初期化 42
レガート 34
レンジ (アルベジエーター) 35

ロ

ローカルコントロール 55、59
ロータリースピーカー 52

ワ

ワウワウ 48

